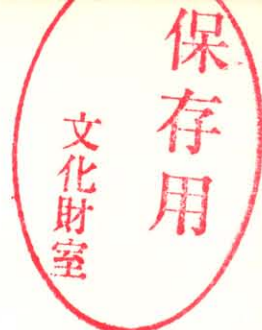


八尾市文化財調査報告17
昭和62年度国庫補助事業



八尾市内遺跡昭和62年度発掘調査報告書 I

1988. 3

八尾市教育委員会

は し が き

八尾市は古来より難波と大和を結ぶ交通の要所として古い歴史と伝統をもち、近世以後は商都大阪の近郊にあって、高い文化を誇った町であります。このようなことから埋蔵文化財も至って多く、その包蔵地は市域の半分以上を占めています。

そこで、本市におきましても文化財調査体制の整備を計り、鋭意発掘調査に取り組んでおり、伝統ある文化財の保全と創造的な文化財行政の推進を目標として、より一層邁進してゆく所存であります。

本書はこの一年間の埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。これらの成果が広く考古学や地域史の研究に活用されることを希望します。

なお、調査に御協力いただいた事業主体者をはじめ、関係者各位に深く感謝の意を表します。

昭和63年 3 月

八尾市教育委員会

教育長 西 谷 信 次

例 言

1. 本書は、八尾市教育委員会が昭和62年度国庫補助事業として実施した八尾市内遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は八尾市教育委員会文化財室（室長事務取扱 山中孝一）が実施した。調査は米田敏幸、嶋村友子（囑託）が担当した。
3. 本書には昭和62年度に実施した埋蔵文化財調査（第12表）のうち、6遺跡、10調査地の報告を収録した。
4. 調査に際しては桂和美、川上京子、杉本尚子、中野龍介、西森忠幸、藤田義成、八元聡志、横山妙子の参加を得た。
5. 本書の執筆は米田、嶋村が行なった。また、石材の鑑定を八尾市立刑部小学校奥田尚氏に依頼し、玉稿を寄せていただいた。編集は嶋村が行なった。
6. 本調査期間中には、下記の諸氏の御教授、御協力を得た。記して感謝の意を表する。
（敬称略）

坪之内徹（奈良女子大）、福田英人（大阪府教育委員会）、奥田 尚（八尾市立刑部小学校）、（財）八尾市文化財調査研究会、八尾市立歴史民俗資料館

凡 例

1. 本書で用いた方位は座標北を指す。
2. 本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面である。
3. 遺物観察表における遺物の色調は小山正忠・竹林秀雄「新版標準土色帳」（1976）に従って記述した。また、砂粒の大きさは径0.5 mm未満を小、径0.5 mm以上2 mm未満を中、径2 mm以上を大として記述した。

本文目次

はしがき

例言

凡例

1. 東郷遺跡(87-045)の調査	3
2. 東郷遺跡(86-531)の調査	5
3. 矢作遺跡(86-506、87-404)の調査	12
4. 大正橋遺跡(86-516)の調査	20
5. 恩智遺跡(86-494)の調査	23
6. 恩智遺跡(86-518)の調査	26
7. 東郷遺跡(86-419)の調査	35
8. 中田遺跡(86-532)の調査	41
9. 矢作遺跡(87-262)の調査	81
10. 太子堂遺跡(87-152)の調査	88

挿図目次

第1図 八尾市内遺跡分布図(1/5万)	1~2
1. 東郷遺跡(87-045)の調査	
第2図 調査地周辺図(1/5000)	3
第3図 調査区位置図(1/400)	4
第4図 土層断面模式図(1/80)	4
2. 東郷遺跡(86-531)の調査	
第5図 調査地周辺図(1/5000)	5
第6図 調査区位置図(1/400)	6
第7図 土層断面図(1/80)	6
第8図 遺構出土土器(1/4)・瓦(1/3)	7
第9図 遺構外出土土器(1/4)・瓦(1/3)	8
3. 矢作遺跡(86-506、87-404)の調査	
第10図 調査地周辺図(1/5000)	12

第11図	調査区位置図(1/400)	13
第12図	矢作神社境内採集瓦(1/3)	13
第13図	土層断面図(1/40)	14
第14図	拜殿トレンチ出土瓦(1/3)・土器(1/4)	15
4. 大正橋遺跡(86-516)の調査		
第15図	調査地周辺図(1/5000)	20
第16図	調査区位置図(1/2000)	21
第17図	土層断面図(縦1/200、横1/800)	22
5. 恩智遺跡(86-494)の調査		
第18図	調査地周辺図(1/5000)	23
第19図	調査区位置図(1/400)	25
第20図	南壁土層断面図(1/80)	25
6. 恩智遺跡(86-518)の調査		
第21図	調査区位置図(1/500)	26
第22図	調査平・断面図(1/40)	26
第23図	出土石器(1/2)	27
第24図	出土石器(1/2)	28
第25図	出土土器(1/4)	29
7. 東郷遺跡(86-419)の調査		
第26図	調査地周辺図(1/500)	35
第27図	土層断面図(縦1/200・横1/40)	36
第28図	遺構平面図(1/200)	37
第29図	出土土器・木器(1/4)	38
8. 中田遺跡(86-532)の調査		
第30図	調査地周辺図(1/5000)	41
第31図	調査区位置図(1/800)	42
第32図	各グリッド土層断面図(縦1/40・横1/200)	43~44
第33図	各グリッド平面図(1/400)	45
第34図	Aグリッド出土土器(1/4)	47
第35図	C・Eグリッド出土土器(1/4)	48
第36図	Eグリッド出土土器(1/4)	49
第37図	E・G・Iグリッド出土土器(1/4)	50

第38図	I グリッド出土土器 (1/4)	51
第39図	I グリッド出土土器 (1/4)	52
第40図	I グリッド出土土器 (1/4)	53
第41図	I・K グリッド出土土器 (1/4)	54
第42図	K・M グリッド出土土器 (1/4)	55
第43図	M グリッド出土土器 (1/4)	56
第44図	M グリッド出土土器 (1/4)	57
第45図	M グリッド出土土器 (1/4)	58
第46図	J・L・N グリッド出土土器 (1/4)	59
9. 矢作遺跡 (87 - 262) の調査		
第47図	調査地周辺図 (1/5000)	81
第48図	調査区位置図 (1/800)	83
第49図	南壁土層断面図 (1/80)	83
第50図	調査区平面図 (1/80)	84
第51図	小穴 (SP) 1 出土土器 (1/4)	84
第52図	第5層～第8層出土土器 (1/4)	85
10. 太子堂遺跡 (87 - 152) の調査		
第53図	調査地周辺図 (1/5000)	88
第54図	調査区位置図 (1/400)	88
第55図	土層断面図 (1/80)	89

目 次

第1表	東郷遺跡 (86 - 531) 出土遺物観察表	10
第2表	矢作遺跡 (86 - 506、87 - 404) 出土遺物観察表	17
第3表	本調査地周辺の既応の調査一覧表	24
第4表	恩智遺跡 (86 - 518) 出土石器計測表	30
第5表	恩智遺跡 (86 - 518) 出土遺物観察表	31
第6表	東郷遺跡 (86 - 419) 出土遺物観察表	40
第7表	本調査地周辺の既応の調査一覧表	42
第8表	中田遺跡 (86 - 532) 出土遺物観察表	60

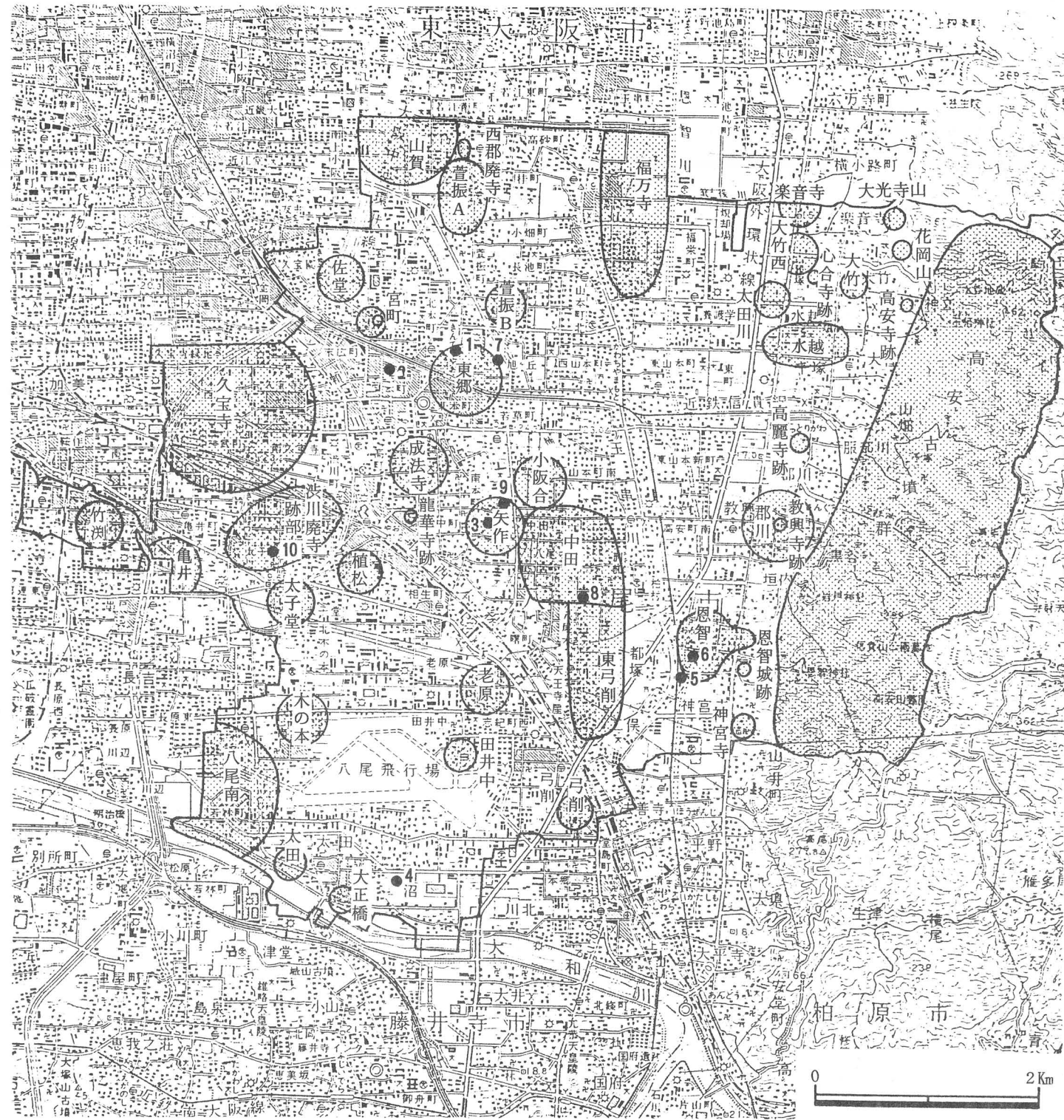
第9表	本調査地周辺の既応の調査一覧表	82
第10表	矢作遺跡(87-262)出土遺物観察表	86
第11表	文化財室が実施した昭和61年度埋蔵文化財調査の一覧表(前年度報告書未掲載分)...	90
第12表	文化財室が実施した昭和62年度埋蔵文化財調査の一覧表	91

図 版 目 次

図版1	東郷遺跡(86-531)	掘削状況(南から)・土層堆積状況(西から)
図版2	東郷遺跡(86-531)	出土遺物
図版3	矢作遺跡(86-506、87-404)	西トレンチ掘削状況(北西から)・西トレンチ西壁土層断面(東から)
図版4	矢作遺跡(86-506、87-404)	西トレンチ瓦集積検出状況(北から)・西トレンチ全掘状況(北から)
図版5	矢作遺跡(86-506、87-404)	東トレンチ掘削前(南から)・経碑(南から)
図版6	矢作遺跡(86-506、87-404)	東トレンチ瓦集積検出状況(南から)・東トレンチ全掘状況(東から)
図版7	矢作遺跡(86-506、87-404)	拝殿トレンチ掘削状況(西から)・拝殿トレンチ土層堆積状況(北から)
図版8	矢作遺物(86-506、87-404)	矢作神社境内採集瓦・出土遺物
図版9	矢作遺跡(86-506、87-404)	出土遺物
図版10	矢作遺跡(86-506、87-404)	出土遺物
図版11	矢作遺跡(86-506、87-404)	出土遺物
図版12	大正橋遺跡(86-516)	第1トレンチ全景(西から)・第3トレンチ全景(西から)
図版13	恩智遺跡(86-494)	掘削状況(北西から)・土層堆積状況(西から)
図版14	恩智遺跡(86-494)	調査区全景(西から)・出土遺物
図版15	東郷遺跡(86-419)	西トレンチ全景(北から)・西トレンチ全景(南から)
図版16	東郷遺跡(86-419)	東トレンチ全景(北から)・土坑全景(南から)

図版17	中田遺跡(86-532)	調査地調査前全景(南西から)・Hグリッド東壁(西から)
図版18	中田遺跡(86-532)	Iグリッド土器出土状況(西から、北から)
図版19	中田遺跡(86-532)	Iグリッド土器出土状況(西から)・Mグリッド土器出土状況(西から)
図版20	中田遺跡(86-532)	Mグリッド土器出土状況(東から)
図版21	中田遺跡(86-532)	出土遺物
図版22	中田遺跡(86-532)	出土遺物
図版23	中田遺跡(86-532)	出土遺物
図版24	中田遺跡(86-532)	出土遺物
図版25	矢作遺跡(87-262)	掘削状況(北西から)・南壁土層断面(北から)
図版26	矢作遺跡(87-262)	完掘状況(西から)・SP1検出状況(西から)
図版27	矢作遺跡(87-262)	土器(3)出土状況(西から)・土器(6)出土状況(北から)・出土遺物
図版28	恩智遺跡(86-518)	出土遺物
	東郷遺跡(86-419)	出土遺物
	矢作遺跡(87-262)	出土遺物

番号	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積	届出番号
1	東郷遺跡	八尾市光町1丁目2・9	昭和62年5月12日	8 m ²	87-045
2	東郷遺跡	八尾市本町5丁目5	昭和62年5月18日	14 m ²	86-531
3	矢作遺跡	八尾市南本町6丁目10	昭和62年6月4日、昭和63年1月7日～1月9日	9 m ²	86-506 87-404
4	大正橋遺跡	八尾市太田7丁目～沼1丁目	昭和62年7月7日～7月10日	420 m ²	86-516
5	恩智遺跡	八尾市恩智南町1丁目130-2、130-3、 131-2、131-3	昭和62年7月16日	4 m ²	86-494
6	恩智遺跡	八尾市恩智中町3丁目126、131、133 134	昭和62年8月3日～4日	4 m ²	86-518
7	東郷遺跡	八尾市桜ヶ丘3丁目23、29	昭和62年8月7日～8月19日	100 m ²	86-419
8	中田遺跡	八尾市八尾木北6丁目166	昭和62年8月19日・8月26日～9月5日	68 m ²	86-532
9	矢作遺跡	八尾市高美町3丁目42-1、43、44-1、44-4	昭和62年9月25日～9月29日	20 m ²	87-262
10	太子堂遺跡	八尾市太子堂2丁目35-2	昭和62年10月21日	11 m ²	87-152



第1図 八尾市内遺跡分布図(1/5万)

1. 東郷遺跡（87-045）の調査

調査地 八尾市光町1丁目29

調査期間 昭和62年5月12日

1. 調査概要

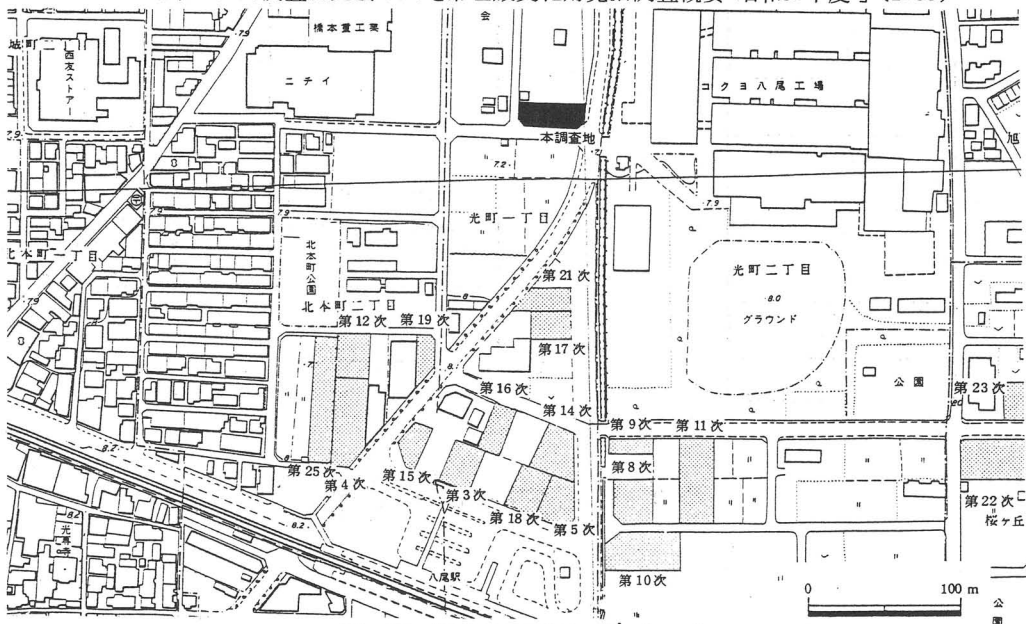
本調査は共同住宅建築に伴って実施した遺構確認調査である。本調査地の南方では近鉄八尾駅前の開発に伴い八尾市教育委員会・(財)八尾市文化財調査研究会が発掘調査を実施しており、古墳時代初頭・古墳時代後期・中世の集落跡が検出されている。本調査は建物部分内に2ヶ所のグリッドを設定し、機械及び人力掘削によって行った。盛土・攪乱層の下には黒灰色シルト・緑灰色シルト・黄褐色粘土が堆積し、西グリッドではその下層に茶褐色粘土・灰色シルトがみられ、東グリッドでは黄褐色シルト混じり粘土・褐灰色粗砂がみられた。遺物はいずれの層からも出土しなかった。

2. まとめ

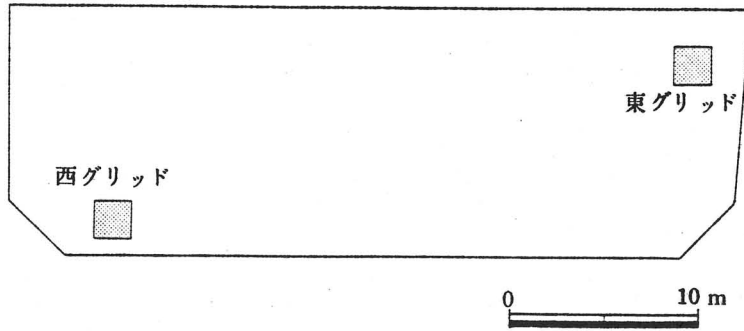
本調査地では遺構・遺物は検出されなかった。本調査地の南方100mの地点の第17次・第21次調査では古墳時代初頭（庄内式古相）の方形周溝墓が検出されており（註1）、墓域であったことがわかるが、本調査地までは連続していないことが確認された。（嶋村）

註

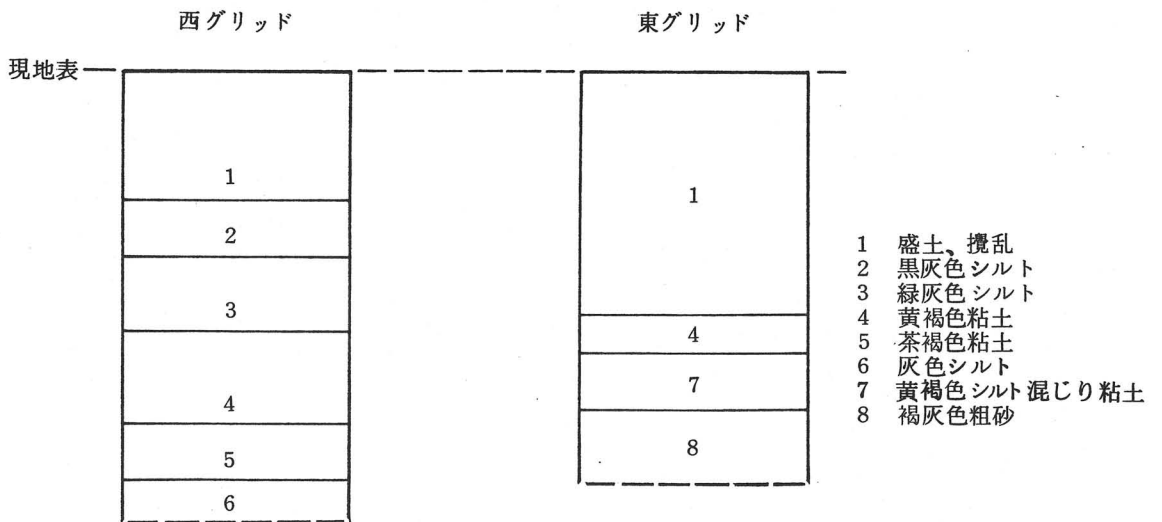
1. (財)八尾市文化財調査研究会「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和59年度」(1985)



第2図 調査地周辺図 (1/5000)



第3図 調査区位置図(1/400)



第4図 土層断面模式図(1/80)

2. 東郷遺跡（86-531）の調査

調査地 八尾市本町5丁目5

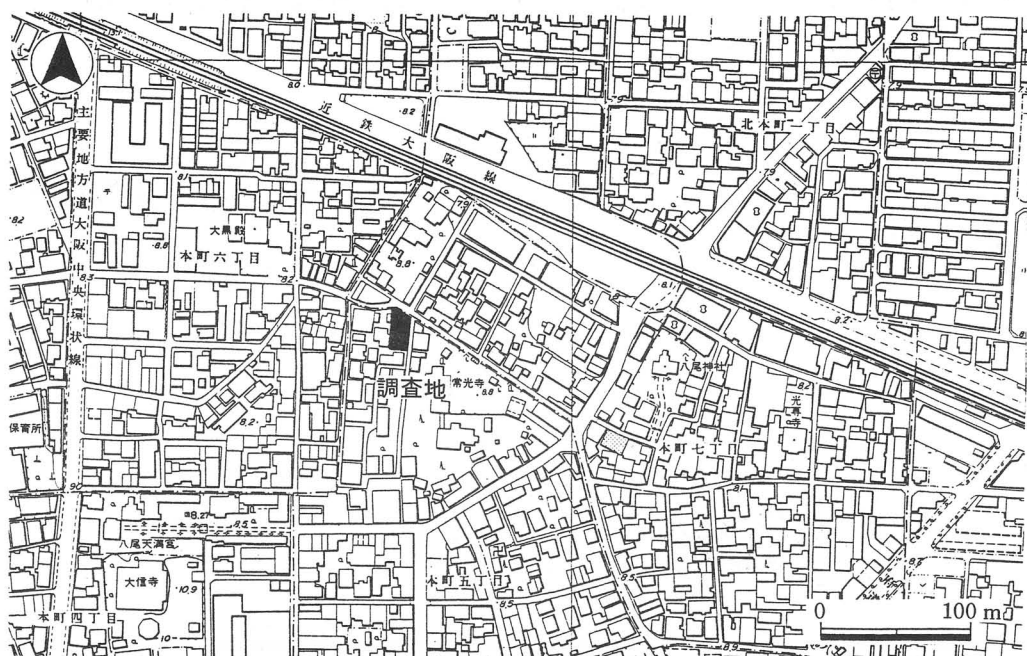
調査期間 昭和62年5月18日

1. 調査概要

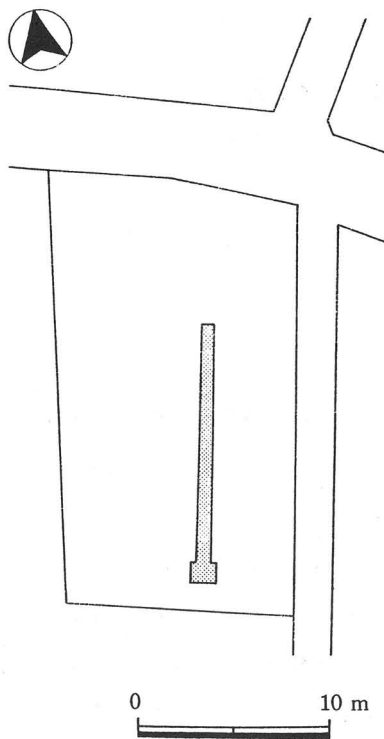
本調査はマンション建築に伴って実施した遺構確認調査である。調査地は八尾地藏で名高い常光寺の北西側隣接地である。また、常光寺の東方にある八尾神社付近を中心とする地域には天正11年(1583)廃城となった八尾城があったものと推定されている(註1)。

調査は当初、建物部分内に2m×2mのトレンチを設定し、重機と人力によって現地表より1.6mまで掘削し、調査を行った。調査の結果、微量の遺物が出土したが、遺物の量が少なく、磨滅していたため、重機による掘削でトレンチを延長し、土層断面を観察するにとどまった。

土層の堆積は第7図のとおりである。まず、10～95cmの厚さで攪乱・盛土層があり、その下層には第2層オリーブ灰色シルト、第3層灰緑色粘質シルトが水平に堆積している。以下、第5層オリーブ灰色シルト、第7層明灰色粘土、第8層オリーブ灰色砂礫、第9層暗灰色粘土、第10層黄灰色砂礫というように砂礫層の中に粘土層がブロック状に堆積しており、旧河道であ



第5図 調査地周辺図(1/5000)



第6図 調査区位置図(1/400)

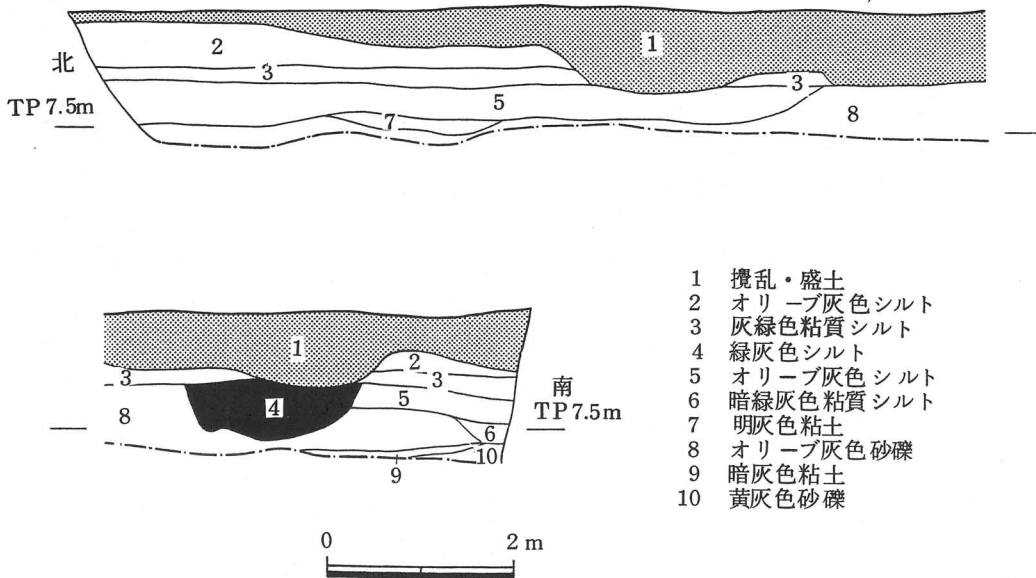
ったことがうかがわれる。遺物は第3層から少量出土しており、トレンチの南端では第5・8層上面で土坑または溝と考えられる遺構が確認された。

遺構の東西は調査区外に続くため全体は不明であるが、南北は1.8mを測る。埋土は緑灰色シルトである。

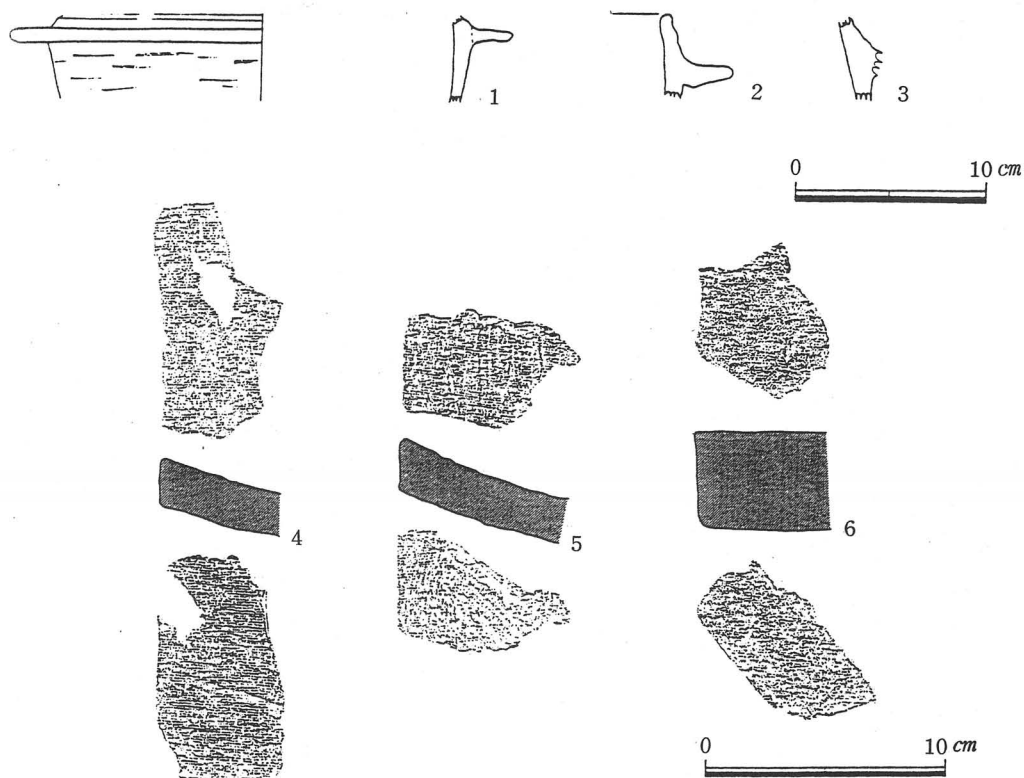
遺構出土遺物は羽釜(1~3)・平瓦(4・5)・埴(6)がみられる。平瓦はハナレ砂を使用しており、また、羽釜の形態からこれらは14~15世紀のものであると考えられる。また、煮沸用である羽釜は別として平瓦(5)・埴(6)は二次焼成を受けていることから火災にあったものであると思われる。

また、第3層出土遺物は羽釜(7)・摺鉢(8)・美濃焼か瀬戸焼の壺(9)・青磁か伊万里焼の碗(10)・軒平瓦(11)丸瓦(12)・平瓦(13・14)がみられる。羽釜(7)はその形態から14~15世紀のもので、壺(9)は江戸時代のものであろう。また、碗(10)は14世紀の輸入品か、もしくは江戸時代に作られた輸入品を模倣した伊万里焼であろう。

また、軒丸瓦(11)は巴文である。文様の全体は不明であるが、巴の尾の先で圏線を形成しており、ハナレ砂は使用されていない。おそらく室町時代のものであろう。平瓦(13・14)はいずれもハナレ砂を用いており、中世のものと思われる。



第7図 土層断面図(1/80)



第8図 遺構出土土器 (1/4)・瓦 (1/3)

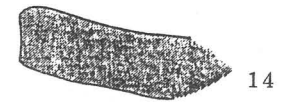
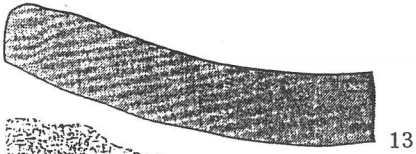
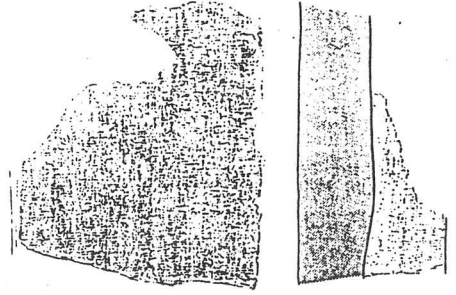
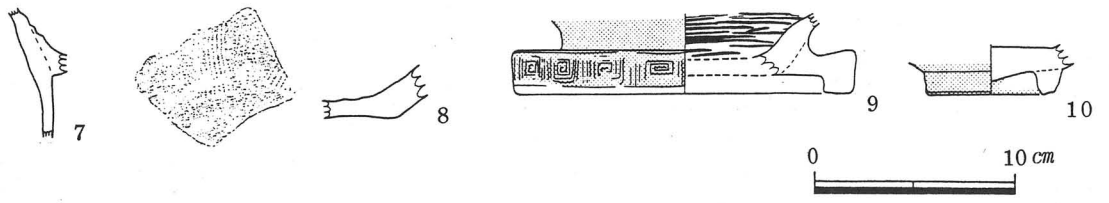
2. まとめ

本調査地から14～15世紀の溝ないし土坑と考えられる遺構が検出された。遺構内からは火災にあったと考えられる羽釜・平瓦が出土した。第3層は江戸時代の壺を含むものの、その他の出土遺物は主として14～15世紀の羽釜・摺鉢・軒丸瓦・丸瓦・平瓦であった。

前述のように本調査地は常光寺の西側に隣接し、また、「八尾城址図」(註2)に常光寺の東側に隣接して八尾城が描かれていることから、この周辺は中世の八尾城があったと推定されている。常光寺縁起(註3)には八尾城は延元2年(1337)10月南朝方の高木遠盛等が押し寄せ、城内の堂舎、仏閣、天蔵、役所等を焼き払ったため常光寺の一切の堂舎が焼失したので、その後、元中2年(1385)又五郎夫藤原盛継がその復興に着手したということが記されている。

本調査地では火災にあったと考えられる14～15世紀の遺物が出土しているが、以上のような火災に関する記事の存在から、本調査地で検出された遺構・遺物は延元2年(1337)の南北朝の戦乱で焼き払われた常光寺の堂舎に関連するものであろうと考えられる。

また、中世八尾城は常光寺付近の西郷にあったと言う説の他に、本調査の約2km東南の八尾



第9図 遺構外出土器 (1/4)・瓦 (1/3)

座付近にあったという説がある（註4）。八尾城八尾座説は八尾座の小字「城ヶ後」の存在を根拠とするものであるが、また、辻村輝彦氏は「城ヶ後」をはじめ「城ヶ橋」「出口」「中道」「津官」「弓場」「馬場」の小字が存在すること、「土屋宗直軍忠状」（建武4年1337）にみられる「今月十六日同凶徒等寄来之間馳向五条河原抽忠」という五条河原が八尾座の南方200～300mに位置する老原の五条宮跡と古くから称される五条宮跡廃寺付近であったと推定しており、また、「常光寺縁起」の地蔵の新堂の移転等の記事から、延元年間の南北朝の合戦で常光寺が焼失したことについては否定している。

しかし、本調査によって「常光寺縁起」に記載された火災が実際におこったことが遺物の痕跡から推定されたことから「八尾城址図」に描かれたとおり中世八尾城は常光寺の近隣の西郷に存在したものと考えられる。（嶋村）

註

1. 棚橋利光『八尾城址図』「八尾市史」文化財編（1977）
2. 註1と同じ
3. 沢井浩三「八尾市史」（1957）
4. 辻村輝彦「中世八尾城の所在について—八尾城西郷説批判—」八尾市史紀要第7号（1980）

第1表 東郷遺跡(86-531)出土遺物観察表

遺物番号	器種	法量(現存率) 單位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
1	羽釜	推定口径36.0(1/6)	外 口縁部～髷部一ナデ。 内 体部一ヘラケケズリ。 ナデ。	外・内一オリーブ灰色。断一浅黄色。 白色砂粒(小・中)をやや多量含み、 黒色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。土師質。 外・内面に煤が付着。
2	羽釜	口縁部破片	外 ナデ。 内 ハケ。	浅黄色。白色砂粒(小・中)をやや多量含み、 黒色砂粒を少量含む。	焼成良好、土師質。
3	羽釜	口縁部破片	外 ナデ。 内 ナデ。	外・内一灰色。断一灰白色。白色砂粒(小・中)・黒色砂粒(小)を少量含む。	焼成良好。瓦質。
4	平瓦	厚 1.8	凹 ナデ。 凸 ナデ。	灰白色。白色砂粒(小・中)を少量含み、 雲母(小)を微量含む。	焼成良好。
5	平瓦	厚 1.9	凹 ヘラケケズリ。 凸 ヘラケケズリ。ハナレ砂。	凹・凸一黒色。断一灰白色。白色砂粒(小・中・大)・黒色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。凹面に煤が付着。
6	塼	厚 4.2	上 ナデ。 下 ナデ。ハナレ砂。	上・断一灰色。下一浅黄色。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。上面に煤が付着。
7	羽釜	口縁部～ 体部破片	外 口縁部～髷部一ナデ。 内 体部一ヘラケケズリ。 ナデ。	外・内一灰色。断一灰白色。白色砂粒(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。瓦質。 外面に二次焼成を受ける。

8	摺鉢	体部～底部破片	外 ナデ。 内 ナデののち、5本柳の条痕。	外・内一灰色。断一にぶい橙色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む。	焼成良好。瓦質。
9	美濃焼 あるいは 瀬戸焼か? 壺	推定底径 16.2(1/5)	外 ナデ。 内 ナデ。	外一緑色。内・断一灰白色。白色砂粒(小・中)・黒色砂粒(小)を微量含む。	焼成良好。体部外面に釉が付着。
10	青磁ある いは伊万里 焼か? 碗	底径 6.0(完存)	外 ナデ。 内 ナデ。	外・内一淡緑色。断一乳灰色。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。体部外面・底部外面の一部に釉が付着。
11	軒丸瓦	厚 1.8	瓦当 巴文の周囲に珠文。 凸 ナデ。 凹 布目痕。	灰白色。白色砂粒(小・中)をやや多量含む、黒色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
12	丸瓦	厚 2.6	凸 ナデ。 凹 布目痕。	白色砂粒(小・中)を多量含む、灰色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
13	平瓦	厚 3.1	凹 ナデ。 凸 ナデ。ハナレ砂。	灰色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む。	焼成良好。凸面に煤が付着。
14	平瓦	厚 2.1	凹 ナデ。 凸 ナデ。ハナレ砂。	赤色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む、黒色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。二次焼成を受け、赤色化。

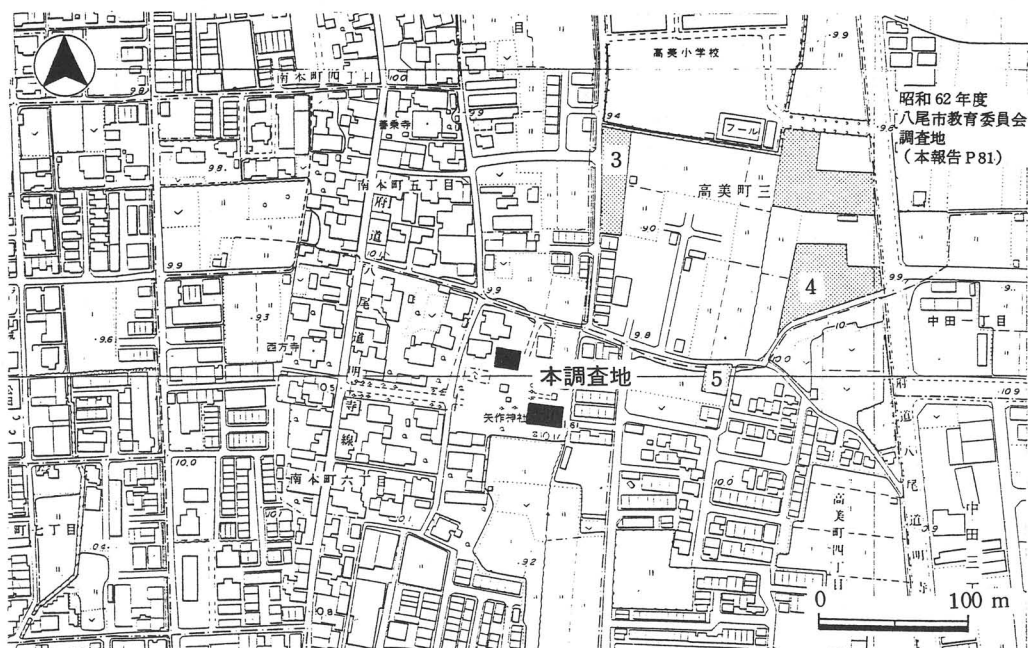
3. 矢作遺跡(86-506・87-404)の調査

調査地 八尾市南本町6丁目10

調査期間 昭和62年6月4日・昭和63年1月7日～9日

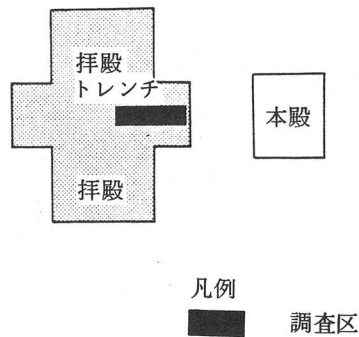
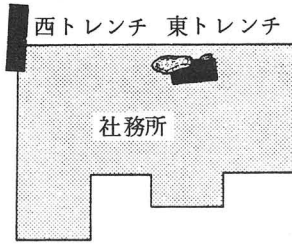
1. 調査概要

本調査は矢作神社の擁壁設置・拝殿・社務所建て替えに伴って実施した発掘調査である。矢作神社は経津主命を祭る式内社である。また、境内からは三角縁神獸鏡(註1)と軒丸瓦(註2第12図)の出土が伝えられている。矢作神社の西側には南北に細長く自然堤防が発達し、この自然堤防上には八尾街道(現在府道八尾道明寺線)と呼ばれる古道が南北に走る。この街道沿いには古くから集落が形成され、矢作神社はこの街道に西面する。この街道が立地する自然堤防は自然河川の土砂堆積に起因するものと思われるが、昭和46年に本調査地の北方1.2kmの東本町2丁目にある光明寺の裏で水道管敷設工事中、粗砂層から奈良時代の墨書人面土器が出土した(註3)ことより、この河川は奈良時代に流れていたもので、街道は奈良時代以降でできたものであると考えられる。以下、トレンチ別に報告を行う。



番号は第9表参照

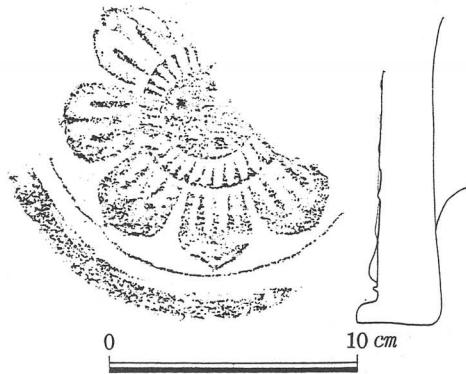
第10図 調査地周辺図(1/5000)



第11図 調査区位置図 (1/400)

拝殿トレンチ

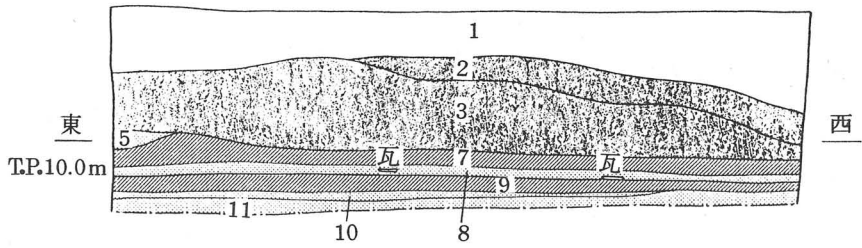
本殿・拝殿の立地する場所は現在、自然堤防の上を走る八尾街道とほぼ同じ高さに整地されており、本殿の東側の水田との比高差は約1 mを測る。今回、掘削工事を行ったのは本殿の東側と西側の拝殿建築部分であるが、発掘調査を行ったところ第13図のような土層の堆積状況が確認された。第1層は暗灰茶色砂質土で、この下には第2層灰茶色砂質土、第3層茶灰色礫混じり砂質土、第5層乳褐色粗砂、第7層暗茶灰色粘質土、第8層黄灰色細砂、



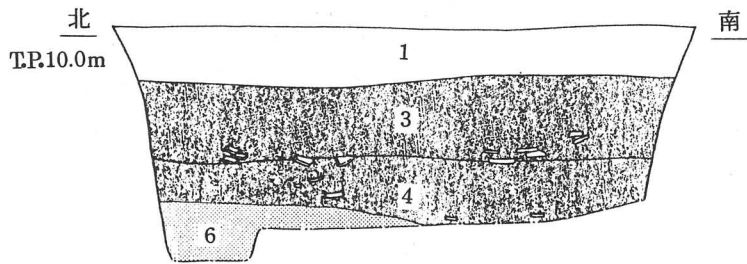
第12図 矢作神社境内採集瓦 (1/3)

第9層暗茶灰色粘質土、第10層黄灰色細砂、第11層茶灰色細砂が堆積する。第2・3層の上面は序々に西側が低くなっており、本殿・拝殿のあった場所は参道よりも一段高いマウンドであったことがわかる。また、第7層以下は粘質土と砂質土が互層に堆積している。

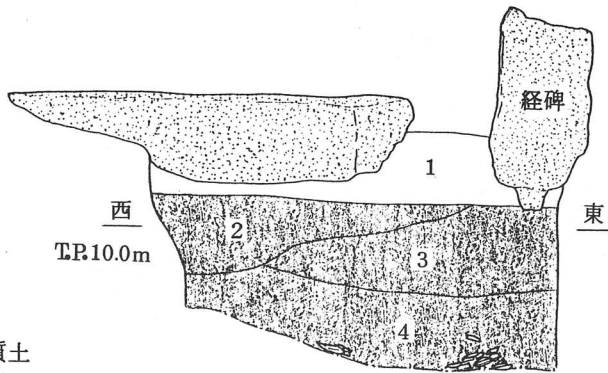
遺物は第2層以下で出土した。特に、第2・3層に多量の遺物を含んでいた。1・2・3は第2層以下で出土した。1は備前焼の摺鉢である。14～15世紀のものである。2・3は平瓦



拜殿トレンチ南壁土層断面図



西トレンチ西壁土層断面図

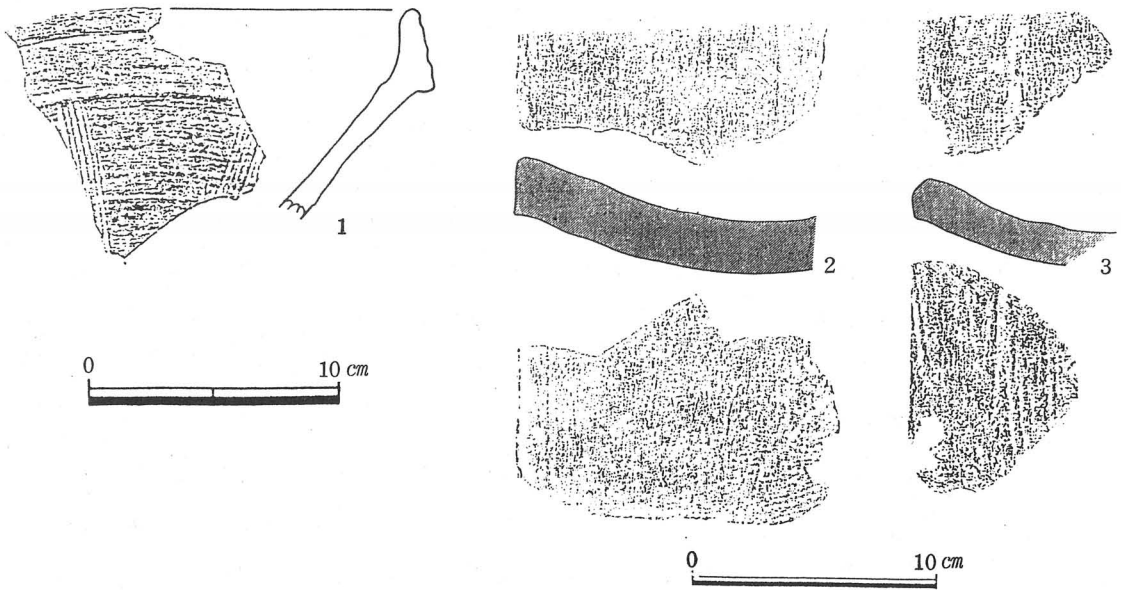


東トレンチ北壁土層断面図



- 1 暗灰茶色砂質土
- 2 灰茶色砂質土
- 3 茶灰色礫混じり砂質土
- 4 淡茶褐色礫混じり砂質土
- 5 乳褐色粗砂
- 6 茶色砂質土
- 7 暗茶灰色粘質土
- 8 黄灰色細砂
- 9 暗茶灰色粘質土
- 10 黄灰色細砂
- 11 茶灰色細砂

第13図 土層断面図 (1/40)



第14図 拝殿トレンチ出土瓦(1/3)・土器(1/4)

である。2はハナレ砂を用いていることから中世のものであろう。3は凸面に縄目タタキが施されていることから、奈良時代から平安時代のものであろう。また、この他にもハナレ砂を用いた平瓦数片、丸瓦1片・須恵器長頸壺と思われる体部破片が1片出土した。

西トレンチ

現社務所の北側のトレンチである。現地表下70cm(T.P.9.4m)付近の第3・4層で瓦片等の集積がトレンチ一面に検出された。この集積の厚さは約40cmを測り、第6層上面まで続いていた。なお、第6層からは遺物は出土しなかった。

第1層は機械掘削したため遺物の有無は不明であるが、第3・4層からコンテナ2箱の遺物が出土した。湊焼の甕(4)、軒平瓦(5)、懸瓦(6)、平瓦(7)の他多量の平瓦・丸瓦が出土した。4は17世紀後半のものである。おそらく甕棺として使用されたものであろう。5・6は室町時代のもので、7は近世初頭のものであろう。

東トレンチ

拝殿の北東部、経碑の南側のトレンチである。このトレンチでは現地表下1.1m(T.P.9.4m)付近で瓦等の集積が検出された。この集積のレベルは西トレンチとほぼ同レベルである。このトレンチからはコンテナ5箱の遺物が出土した。第1層からは伊万里焼系の碗(8)、平瓦(9・10)が出土した。8は江戸時代の後半のものである。9はいぶし焼きであり、江戸時代の前半のものであろう。この他、丸瓦・平瓦が少量出土した。第2・3層からは軒丸瓦(11)が出土し

た。瓦当は巴文で、珠文が大きく、圀線はみられない。また、いぶし焼きされていることから江戸時代のものであろう。この他、丸瓦・平瓦が少量出土した。第4層は瓦等の集積がみられた層である。羽釜(12)・備前焼の摺鉢(13・14)・伊万里焼輪花皿(15)・青磁碗(16)・軒丸瓦(17～19)・軒平瓦(20～22)・平瓦(23～24)のほか丸瓦・平瓦などコンテナ5箱出土した。12はその形態から15世紀後半のものである。13・14は16世紀後半のものである。16は碗の底部内面に「長命富貴」と刻まれている。これも16世紀中葉のものである。17・18はいずれも巴文で一重の圀線がみられる。珠文はやや大きいことから室町時代のものであろう。19も巴文の軒丸瓦であるが、一重の圀線がみられ、珠文が細かいことから鎌倉時代のものであろう。23は縄目タタキ、24は格子目タタキが施される。いずれも鎌倉時代のものであろう。

2. まとめ

本調査地では西・東両トレンチで瓦片等の集積が検出された。この集積には鎌倉時代から江戸時代前半までの遺物を含んでいた。東トレンチでは慶長14年の年号が刻まれている経碑の埋められている第1層からは江戸時代前半から後半の遺物が出土しており、ほぼ経碑の年代と一致している。また、拝殿トレンチでは14～15世紀の遺物を含む層の上面はマウンド状を呈していた。他のトレンチの土層の堆積状況や遺物出土状況からこのマウンドはおそらく江戸時代前半に盛土されて作られたものであると思われる。これらのことから、鎌倉時代から江戸時代前半にかけて寺院がこの周辺に存在し、江戸時代前半に整地され、矢作神社本殿・拝殿の下のマウンドが築造され、矢作神社の本殿・拝殿が現位置に作られたものと思われる。(鳴村)

註

1. 大阪府神社庁「大阪府神社文化財図録」(1986)
2. 矢作神社宮司友田善彦氏のご好意で図化させていただいた。
3. 西岡三四郎ほか「八尾市史」文化財編(1977)

第2表 矢作遺跡(86-506・87-404)出土遺物観察表

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
1	備前焼鉢	口縁部破片	内外ナデ。 ナデののち、5本櫛の条痕。	外・断一にふい赤褐色。内一褐色。白色砂粒(小・中)・黒色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
2	平瓦	厚 2.2	凹凸ハケののち、ナデ。ハナレ砂。	灰色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む、黒色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
3	平瓦	厚 1.5	凹凸布目痕。 細目タタキ。	淡黄色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む、黒色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
4	湊焼甕	厚 1.1	外口縁部一ヨコナデ。体部一タタキ。 内口縁部一ヨコナデ。体部一ハケ。	黄橙色。白色砂粒(小・中・大)、茶色砂粒(小・中・大)をやや多量含む。	焼成良好。
5	軒平瓦	瓦当厚 3.0	瓦当唐草文。 凹凸布目痕。 ナデ。	灰白色。白色砂粒(小・中・大)を少量含む。	焼成良好。
6	懸瓦	玉縁長 4.5 幅 13.3	凸凹ナデ。 布目痕。	暗灰色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む。	焼成良好。いぶし焼。
7	平瓦	厚 2.1	凸凹ナデ。ハナレ砂。	暗灰色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む。	焼成良好。いぶし焼。
8	伊万里系焼碗	推定高台径 3.8 (1/4)	外体部一網目文。高台一砂が付着。	白色。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
9	平瓦	厚 1.5	凹 布目痕。 凸 ナデ。ハナレ砂。	灰色。白色砂粒(小・中・大)を少量含む。	焼成良好。いぶし焼。
10	平瓦	厚 2.2	凹 ナデ。 凸 ナデ。ハナレ砂。	にぶい黄褐色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含み、雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。
11	軒丸瓦	推定瓦当径 13.4(1/4) 瓦当厚 1.7	瓦当 巴文。周囲に珠文。	暗灰色。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。いぶし焼。
12	羽釜	口縁部破片	外 ナデ。 内 ハケ。	暗灰色。白色砂粒(小・中・大)を少量含む。	焼成良好。瓦質。
13	備前焼 摺鉢	口縁部破片	外 ヨコナデ。 内 ヨコナデののち、9本櫛の条痕。	褐灰色、白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
14	備前焼 摺鉢	体部～底部破片	外 体部～ヨコナデ。底部～ヘラケズリ。 内 ヨコナデののち、11本櫛の条痕。	褐灰色。白色砂粒(小・中・大)を少量含む。	焼成良好。
15	伊万里焼 輪花皿	高台径 4.8	外 体部～ヘラ彫りで花卉をつける。 内 底部～トキンを残す。 ヘラ掘りで花卉をつける。	明緑灰色。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。釉に嵌入あり。
16	青磁 碗	高台径 4.2	内 底部～「長命富貴」	明緑灰色。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。

17	軒丸瓦	瓦当厚 2.6	瓦当 巴文。一重の圈線の外側に珠文。	灰色。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
18	軒丸瓦	推定瓦当径 18.0(1/4)	瓦当 巴文。一重の圈線の外側に珠文。	灰色。白色砂粒(小・中・大)を少量含む。	焼成良好。
19	軒丸瓦	推定瓦当径 12.0(1/2)	瓦当 巴文。一重の圈線の外側に珠文。	灰色。白色砂粒(小・中・大)を少量含む。	焼成良好。いぶし焼。
20	軒平瓦	瓦当幅 1.8	瓦当 唐草文。	灰色。白色砂粒(小・中・大)を少量含む。	焼成良好。
21	軒平瓦	瓦当幅 2.0	瓦当 唐草文。	灰色。白色砂粒(小・中・大)を少量含む。	焼成良好。
22	軒平瓦	瓦当幅 2.2	瓦当 唐草文。	灰色。白色砂粒(小・中・大)をや多量含む。	焼成良好。
23	平瓦	厚 1.5	凹 布目痕。 凸 縄目叩き。	灰色。白色砂粒(小・中・大)をや多量含む。	焼成良好。
24	平瓦	厚 2.0	凹 ナデ。 凸 叩き目。ハナレ砂。	灰色。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。

4. 大正橋遺跡（86-516）の調査

調査地 八尾市太田7丁目～沼1丁目

調査期間 昭和62年7月7日～10日

1. 調査概要

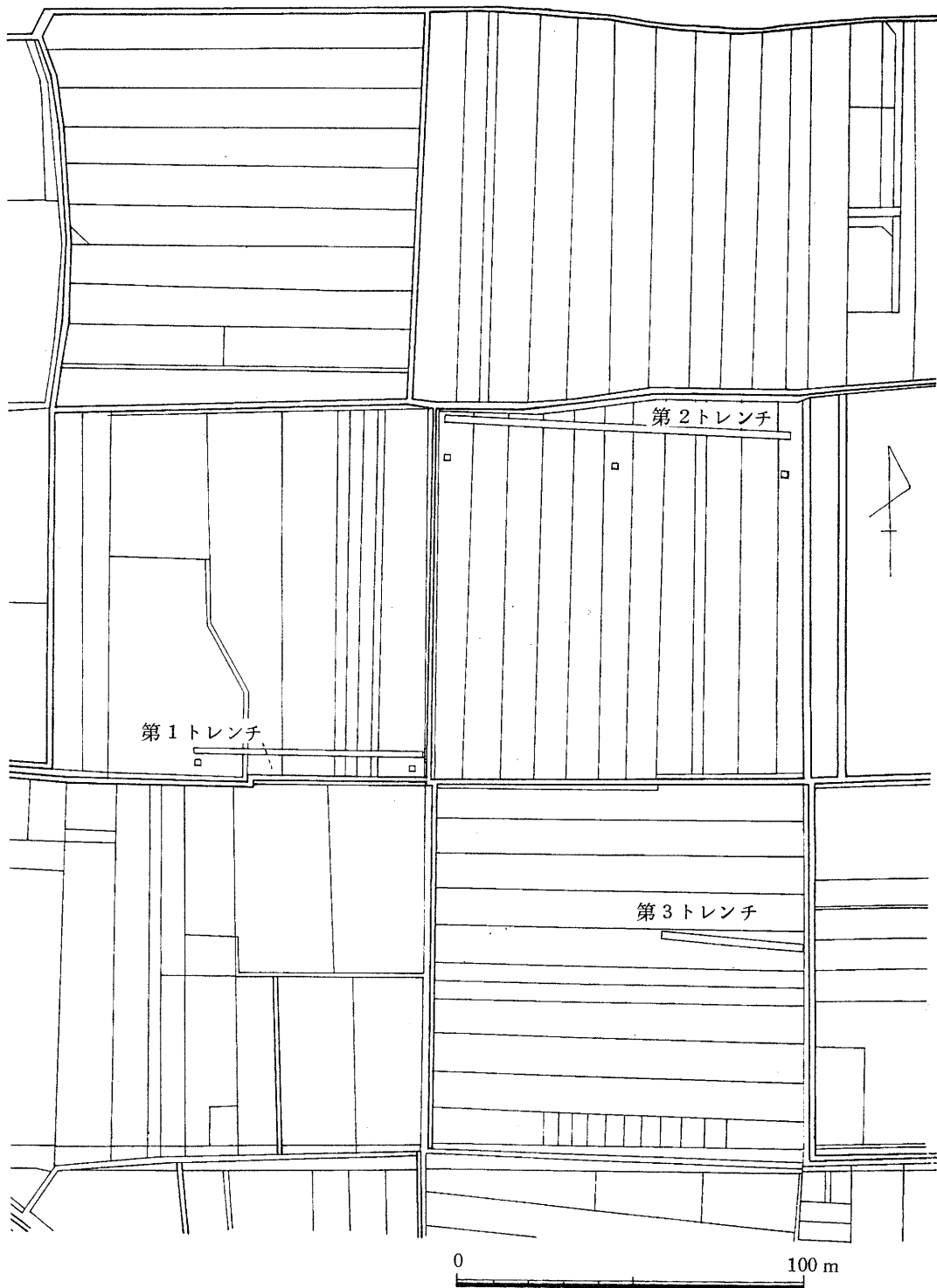
大正橋遺跡は羽曳野丘陵縁辺の沖積地に営まれた古墳時代を中心とする集落遺跡である。本調査地は、大正橋遺跡の西北方約500mに位置しており、当遺跡の隣接地であるが、付近で従来に調査が実施されたことがなく、遺跡の広がりについては全く不明であった。

八尾市太田7丁目～沼1丁目地内において、大阪開発業協同組合より、病院、住宅、マンション建設のため土木工事を計画している旨の届出に基づき、昭和62年7月7日～10日の間で、遺構確認調査を実施した。調査は2m幅の調査区をそれぞれ100m、70m、30mの長さで施行範囲内に東西方向に設定し、地表下1.5mまで機械掘削した後手掘りによる精査を行なった。また、その他にも任意にグリットを設定し、地下5mまでの層位の確認を実施した。その結果遺構の存在を確認することはできなかったがその概要を以下に報告する。

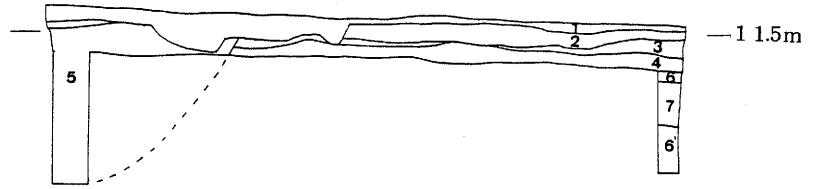
調査地の基本層序は、地表下約1mまでは第1層耕土、灰褐色粘質土、黄灰色粘砂土、青灰



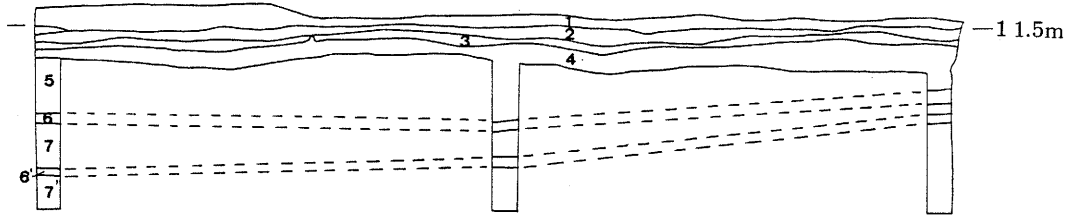
第15図 調査地周辺図 (1/5000)



第16図 調査区位置図 ($\frac{1}{2000}$)



第1トレンチ



第2トレンチ

- | | |
|-----------|----------|
| 1. 耕土 | 5. 灰色粗砂 |
| 2. 灰褐色粘質土 | 6. 灰褐色粗砂 |
| 3. 黄灰色粘土 | 7. 暗灰色粘土 |
| 4. 青灰色粘土 | |

第17図 土層断面図 (縦 1/200。横 1/800)

色粘土で、この層の上面が八尾飛行場の中の平安時代水田面に対応する地層であるが、畦畔等の水田遺構の存在は確認できなかった。それ以下は、地表下5 mまで、粘土と砂が交互に堆積しているが泥質化していて、遺構の存在を確認するまでには至らなかった。

第1調査区西側の自然河川より須恵器、土師器、瓦の磨耗した小片を、地表下2 m前後の灰色粗砂層に磨耗した小片の土師器がごく希に含まれている他は遺物の包含を認めることはできなかった。

2. まとめ

本調査では、かなりの範囲で掘削を実施したにもかかわらず大正橋遺跡に関連する遺構の存在を認めることができなかった。この付近は地名が示すとおり、古来よりかなりの湿地になっていたものと思われる。(米田)

5. 恩智遺跡(86-494)の調査

調査地 八尾市恩智南町1丁目130-2、130-3、131-2、131-3

調査期間 昭和62年7月16日

1. 調査概要

本調査地は寮建築に伴って実施した遺構確認調査である。調査地の北東部の「天王の杜」付近は生駒山地西麓の扇状地であり、古くから縄文・弥生時代の遺跡の包蔵が知られており、数ヶ所の発掘調査がなされている。本調査地付近は「天王の杜」付近とは異なり、扇状地の下の沖積地に位置している。恩智川をはさんで東側の対岸でも昭和56年に遺構確認調査が実施されているが、弥生時代・古墳時代の遺物が数片出土しただけで、恩智遺跡の中心部である「天王の杜」付近の様相とは大きく異なっていた。本調査地では浄化槽設置部分に約2×2mのグリッドを設定し、機械及び人力掘削によって深さ1.7mまで調査を行った。

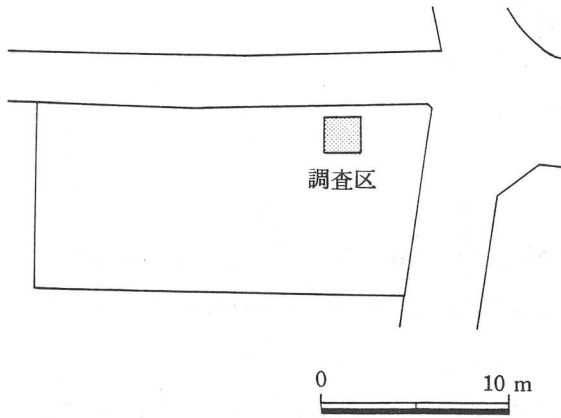
土層の堆積状況は第20図のとおりである。現地表下50mまで盛土が存在し、その下層には第2



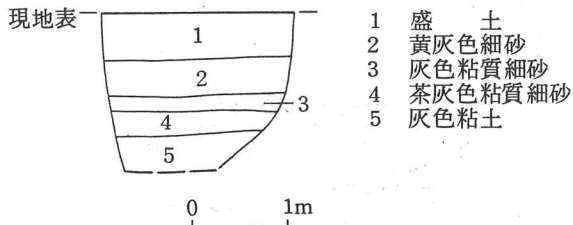
第18図 調査地周辺図 (1/5000)

第3表 本調査地周辺の既応の調査一覧表

	調 査 地	調 査 主 体	調 査 期 間	調 査 結 果
1	恩智中町3丁目	京都大学 梅原末治・島田貞彦	大正6(1917)年7月	弥生時代の遺物出土。
2	恩智中町3丁目 (宇茶の木)	鳥 居 龍 蔵	大正6(1917)年8月	弥生時代の遺物出土。
3	恩智中町3丁目	藤 岡 謙 二 郎	昭和14(1939)年	弥生時代の遺物出土。
4	恩智中町3丁目 「天王の杜」内東南部	八尾市教育委員会	昭和49(1974)年12月	弥生時代・縄文時代の遺物出土。
5	恩智北町～恩智中町	瓜生堂遺跡調査会	昭和50(1975)年	弥生時代の遺構・遺物、縄文時代の遺物出土。
6	恩智中町3丁目240・245	八尾市教育委員会	昭和51～53 (1976～1978)年	弥生時代の遺構・遺物出土。
7	恩智中町2丁目94	八尾市教育委員会	昭和54(1979)年	弥生時代の遺構・遺物出土。
8	恩智146-1 (恩智南町2丁目131)	八尾市教育委員会	昭和56(1981)年5月	弥生・古墳時代の遺物数片出土。
9	恩智中町2丁目265	八尾市教育委員会	昭和58(1983)年2月	弥生時代の遺物出土。
10	恩智中町3丁目214	八尾市教育委員会	昭和59(1984)年6月	弥生時代の遺構・遺物出土。
11	恩智中町1丁目77-2	八尾市教育委員会	昭和59(1984)年6月	弥生時代の遺構・遺物出土。
12	恩智中町2丁目～3丁目	八尾市教育委員会	昭和61(1986)年2月	水道工事立会。 弥生時代の遺物出土。
13	恩智中町3丁目	八尾市教育委員会	昭和61(1986)年7月	水道工事立会。 弥生時代の遺物出土。
14	恩智中町3丁目112	八尾市教育委員会	昭和61(1986)年7～9月	弥生時代包含層は攪乱を受ける。 縄文時代晩期の遺構・遺物出土。
15	恩智南町2丁目136	八尾市教育委員会	昭和61(1986)年9月	遺構・遺物なし。
16	恩智中町3丁目188	八尾市教育委員会	昭和62(1987)年3月	工事立会。弥生時代の遺物出土。
17	恩智中町2丁目260	八尾市教育委員会	昭和62(1987)年4月	中世の遺物出土。
18	恩智中町3丁目	八尾市教育委員会	昭和62(1987)年7月	水道工事立会。 弥生時代の遺物出土。
19	恩智中町3丁目 123、131、133、134	八尾市教育委員会	昭和62(1987)年8月	弥生時代の遺構・遺物出土。 本書P 26



第19図 調査区位置図 (1/400)



第20図 南壁土層断面図 (1/80)

層黄灰色細砂、第3層灰色粘質細砂、第4層茶灰色粘質細砂、第5層灰色粘土が堆積する。遺物はいずれの層からも出土しなかった。

2. まとめ

本調査地では遺構・遺物は検出されなかった。第18図は本調査地付近の既応の調査地位置図である。「天王の杜」付近の1～7・9～14・16～19の調査地では多量の遺構・遺物が検出されたが、8・15・本調査地では殆ど遺構・遺物は検出されなかった。また、13の調査地では天理教中河大教会付近まで遺構・遺物が検出されているが、これより東側では遺構・遺物は検出されなかった。

これらの調査結果から、恩智遺跡は生駒山地の西麓に形成された扇状地上に広がる遺跡であり、遺跡の東限は天理教中河大教会付近までで、遺跡の南限は扇状地の末端の恩智川茶之木橋付近までであると推定される。(嶋村)

6. 恩智遺跡（86-518）の調査

調査地 八尾市恩智中町3丁目126、131、133、134

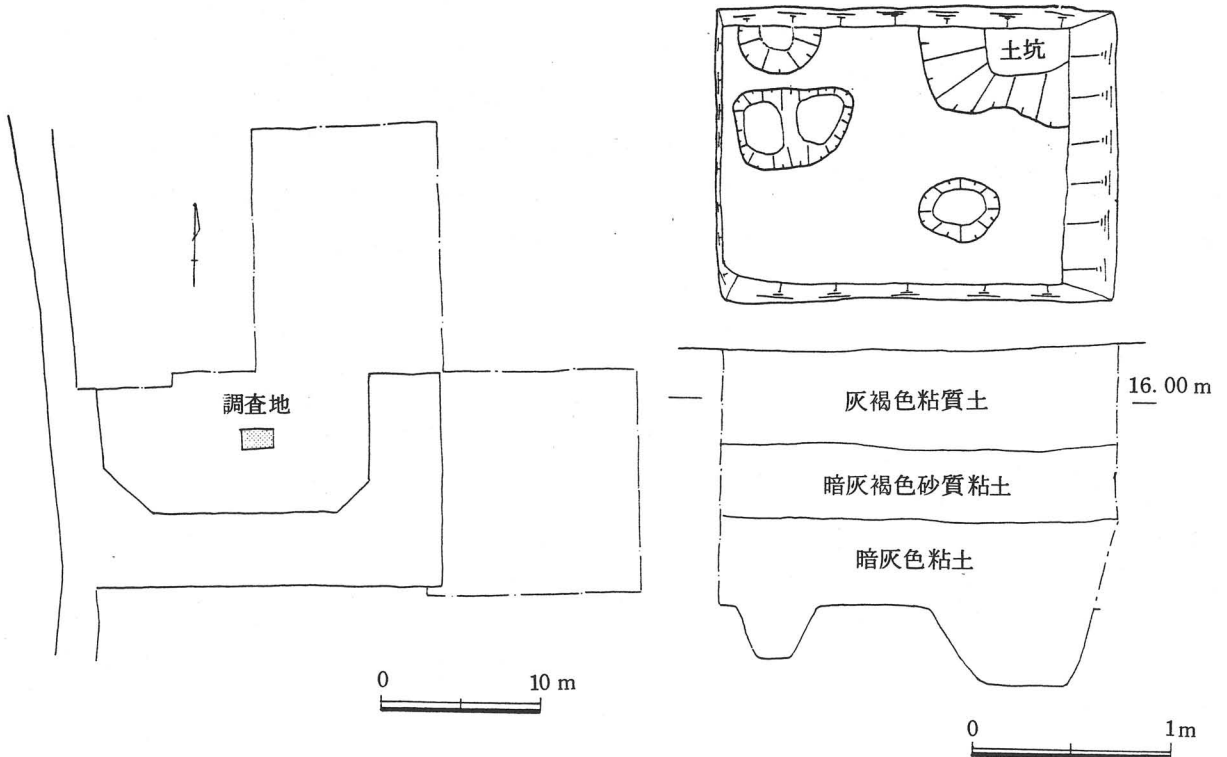
調査期間 昭和62年8月3日～4日

1. 調査概要

恩智遺跡は高安山西麓の扇状地に営まれた縄文時代から弥生時代を中心とする著名な集落遺跡である。本調査地は、恩智遺跡の扇状地の南側に位置しており、当遺跡のほぼ中心部にあたる。

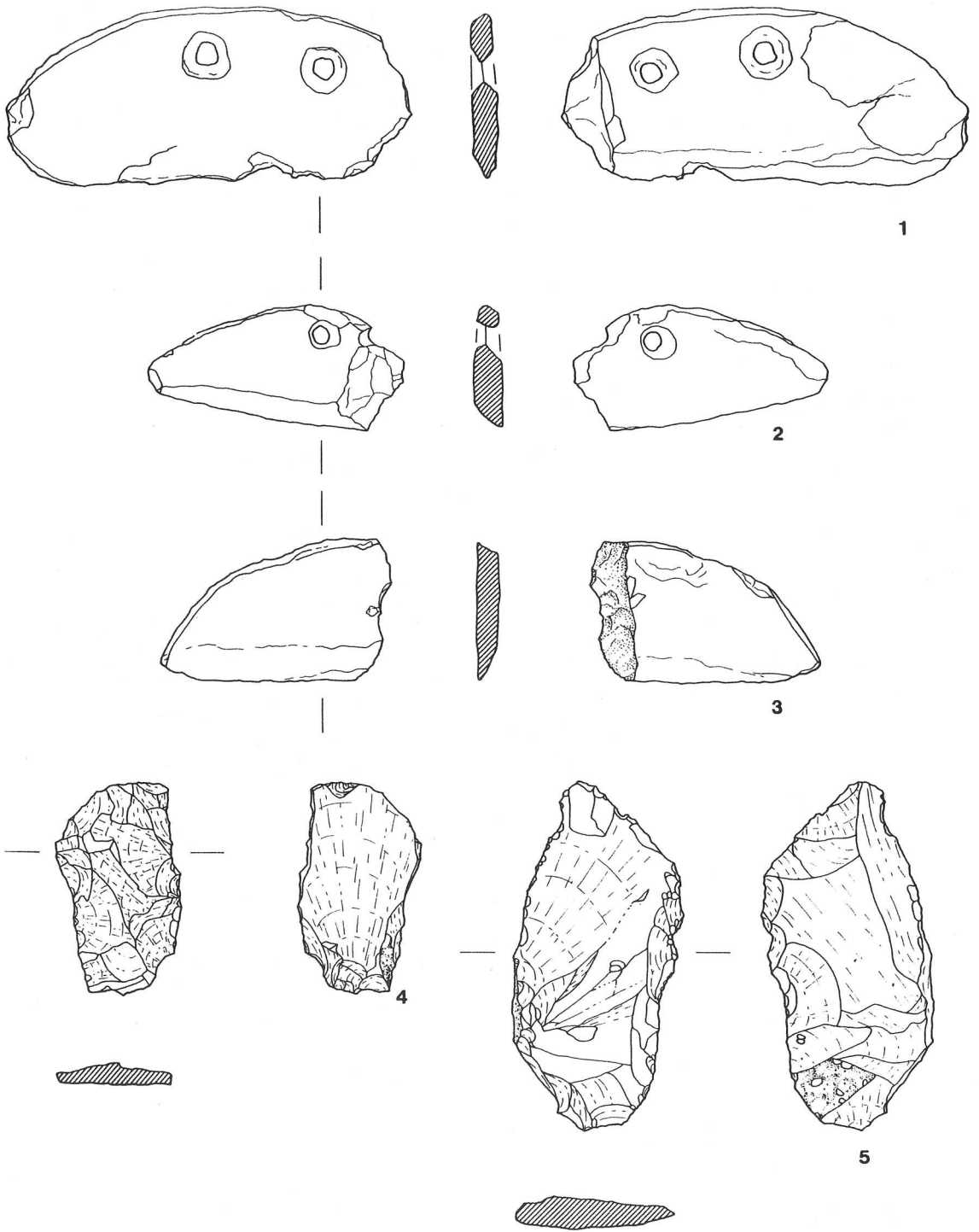
八尾市恩智中町3丁目126他において、伊南節夫氏より、住宅建設のため土木工事を計画している旨の届出に基づき、昭和62年8月3日に、遺構確認調査を実施した。調査は1.5m×2mの調査区を施工範囲内に1箇所設定し、地表下0.5mまで機械掘削した後手掘りによる精査を行なった。その結果弥生時代中期の遺構の存在を確認したので以下に報告する。

調査地の層序は、約0.4mで弥生時代中期の遺物包含層に達する。この層は約80cmの厚みで



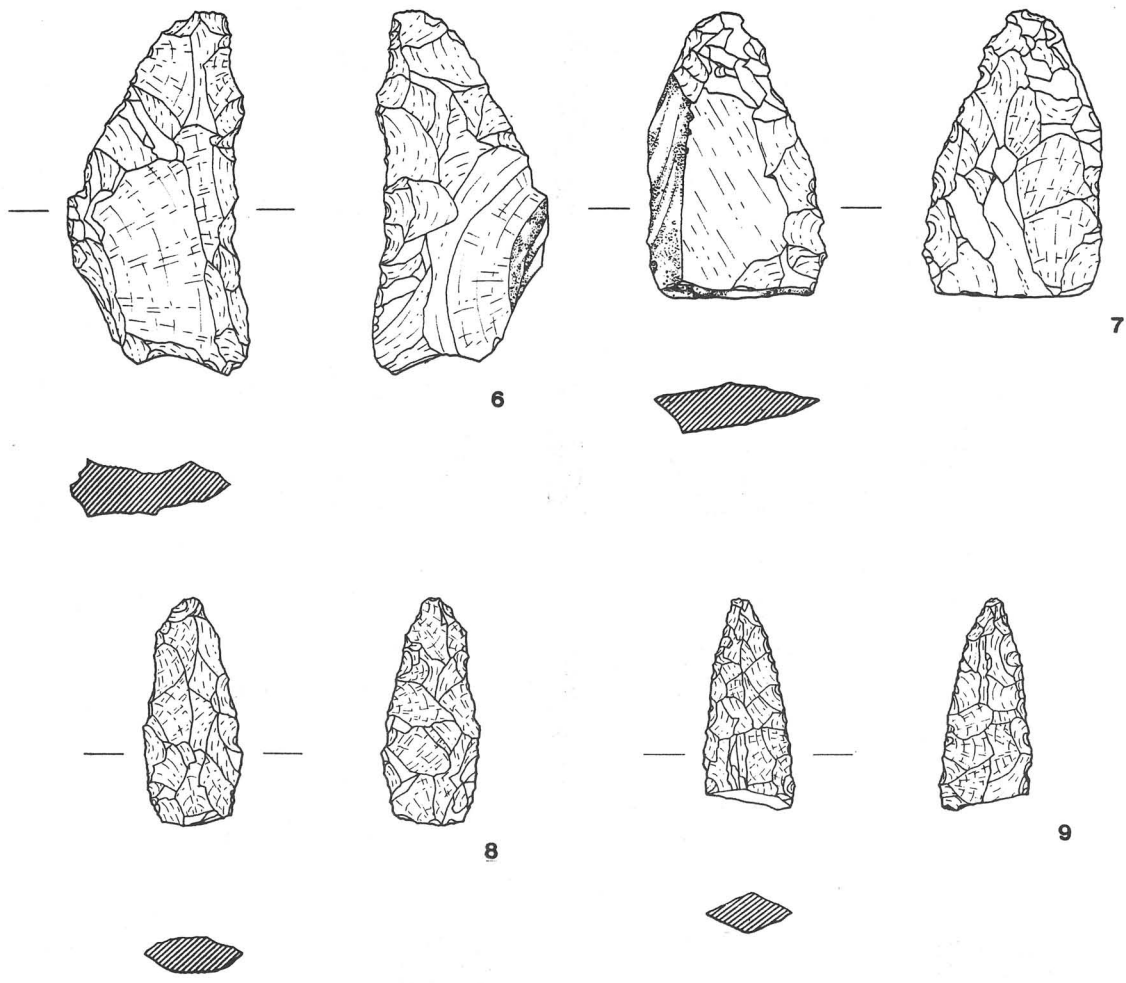
第21図 調査区位置図 (1/500)

第22図 調査平・断面図 (1/40)

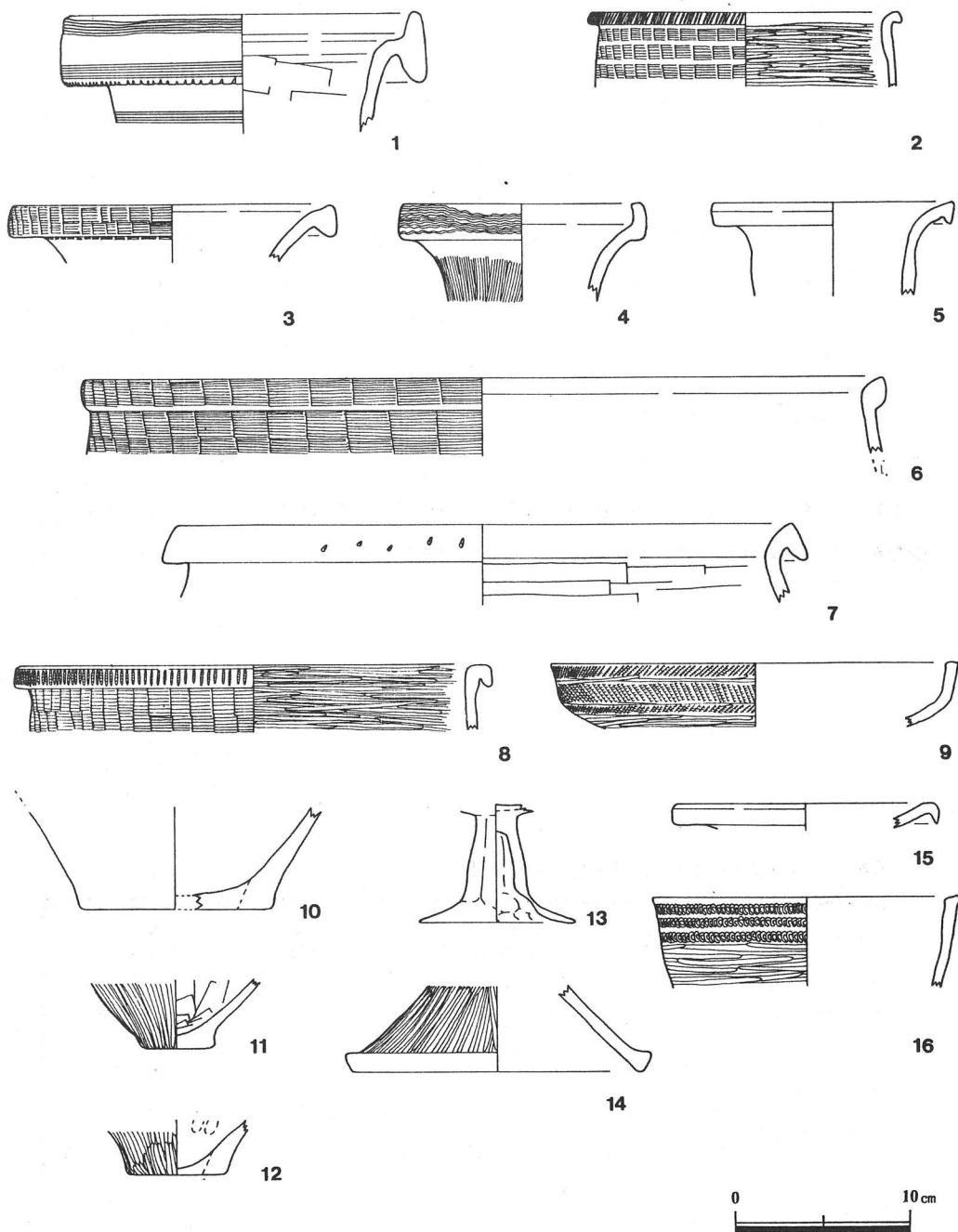


第 23 图 出土石器 (1/2)





第 24 图 出土石器 (1/2)



第25图 出土土器 (1/4)

存在し、上層暗灰褐色砂質粘土と下層暗灰色砂質粘土の2層に分かれる。包含層下層は弥生時代中期の単純包含層で、石器や弥生中期の土器を多数包含する。この層を除去した下に暗褐色砂質土をベースとして遺構が掘り込まれている。遺構面の標高は15mである。遺構面からは、3個の小穴と土坑を1基検出した。小穴は径30cm～50cmで、深さは30cm前後を測る。また土坑は完掘はできなかったが、50cm以上×70cm以上の範囲で、深さも40cm以上を測る。遺構の埋土は基本的には下層包含層と同じである。

今回包含層および遺構から検出した遺物は、弥生時代中期を主とする土器と石器である。弥生中期の土器として図化できたものは、壺(1・3～4)、鉢(2・6～9・16)、高杯脚部(14)および底部(10～12)である。13は古墳時代の土師器で、上層の包含層から出土したものである。石器には石包丁(1～3)とくさび型石器(4・5)、スクレーパー(6)、石槍未製品と思われるもの(7)、石槍(8・9)である。

2. まとめ

本調査で検出した遺構は恩智遺跡の集落中心部の様相を示す資料で、本地点は調査面積こそ少なかったが、集落の範囲と構造を解明する上で貴重な成果をおさめることができた。(米田)

第4表 恩智遺跡(86-518)出土石器計測表

番号	種 類	長 さ (単位cm)	幅 (単位cm)	厚 さ (単位cm)
1	石 包 丁	11.65	4.75	0.85
2	石 包 丁	7.4	3.5	0.85
3	石 包 丁	6.9	4.1	0.6
4	楔 型 石 器	6.1	3.3	0.6
5	楔 型 石 器	10.2	4.7	0.95
6	搔 器	9.0	4.1	1.35
7	石 槍 未 製 品	7.3	4.2	0.6
8	石 槍	5.8	2.45	0.85
9	石 槍	5.15	2.25	0.9

第5表 恩智遺跡(86-518)出土遺物観察表

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
1	壺	推定口径 11.8(1/3)	外 口縁部ヨコナデ後、 櫛描文。口縁端部ヘ ラキザミ。頸部ヨコ ナデ後、櫛描文。 内 口縁部ヨコナデ。頸 部ヘラナデ。	外-にぶい橙色~淡黄 褐色。内・断-灰褐色 ~黒褐色。 粗砂粒を少量、細・微 砂粒を多量に含む。	焼成良好。
2	鉢	推定口径 17.0(1/8)	外 口縁部ヘラキザミ。 胴部ナデ後、簾状文。 内 口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラミガキ	外・内・断-淡橙褐色。 細・微砂粒を多量に含 む。	焼成良好。
3	壺	推定口径 18.0(1/8)	外 口縁部簾状文。頸部 ヨコナデ後、最上部 のみ簾状文。 内 ヨコナデ。	外・内-淡黄褐色。断 -灰褐色。 細・微砂粒を多量に含 む。	焼成良好。
4	壺	推定口径 13.4(1/4)	外 口縁部櫛描波状文。 頸部ヨコナデ後、ハ ケ(7本/1cm)。 内 ヨコナデ。	外・内-黒褐色。断- 褐色。 微砂粒を多量に含む。	焼成良好。
5	壺	推定口径 13.8(1/5)	外 ヨコナデ。 内 ヨコナデ。	外・内-橙色。断-淡 橙褐色。 細・微砂粒を多量に含 む。	焼成良好。
6	鉢	推定口径 44.8(1/14)	外 簾状文。 内 ヨコナデ。	外・内-黒褐色。断- 褐色。 微砂粒を多量に含む。	焼成良好
7	鉢	推定口径 34.6(1/9)	外 口縁部ヨコナデ後、 刺突文。胴部ナデ。 内 口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。	外-黒褐色。内・断- 灰褐色。 微砂粒を多量に含む。	焼成良好。
8	鉢	推定口径 26.8(1/8)	外 口縁部ヨコナデ後、 櫛描列点文。胴部簾 状文。 内 ヘラミガキ。	外・内-灰褐色。断- 灰白色。 細・微砂粒を多量に含 む。	焼成良好。

遺物 番号	器種	法量(現存率) 単位:cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
9	高杯	推定口径 22.8(1/6)	外 ヘラミガキ後、櫛描 列点文。 内 ヨコナデ。	外・内・断-淡橙褐色。 微砂粒を多量に含む。	焼成良好。
10	甕	推定底径 10.8(2/5)	外 ナデ。 内 ナデ。	外-淡褐色~橙色。内 -褐色~橙色。断-淡 褐色。 微砂粒を多量に含む。	焼成良好。
11	甕	底径 4.3	外 胴部ヘラミガキ。底 部ナデ。 内 ヘラナデ。	外・断-橙色~褐色。 内-黒褐色。 微砂粒を多量に含む。	焼成良好。
12	甕	推定底径 5.6(2/3)	外 胴部ヘラミガキ。底 部ナデ。 内 ナデ。ユビオサエ痕 あり。	外・内-黒色~淡褐色。 断-淡褐色。 細・微砂粒を多量に含 む。	焼成良好。 外面黒斑あり。
13	高杯	推定底径 9.0(1/2)	外 剥離の為、調整不明。 内 脚部シボリメ。底部 ユビオサエ。	外-橙色。内・断-灰 白色。 細・微砂粒を多量に含 む。	焼成良好。
14	高杯	推定底径 16.6(1/6)	外 裾部ヘラミガキ。裾 端部ヨコナデ。 内 ナデ。	外・断-黒褐色~淡褐 色。内-黒褐色~橙色。 微砂粒を多量に含む。	焼成良好。
15	壺	推定口径 14.8(1/6)	外 ヨコナデ。 内 ヨコナデ。	外・断-淡黄褐色。内 -黒色。 微砂粒を多量に含む。	焼成良好。
16	鉢	推定口径 17.2(1/9)	外 ヘラミガキ後、ヘラ 状工具による圧痕。 内 ナデ。	外・内・断-にぶい橙 色。 微砂粒を多量に含む。	焼成良好。

石器に使用されている石材を肉眼観察した。石鏃には玻璃質の輝石安山岩・カンラン石輝石安山岩、石庖丁には塩基性凝灰岩質点紋片岩が使用されている。鉱物の種類とその粒径から細分すれば、輝石安山岩がA・B・C、カンラン石輝石安山岩がA・B、塩基性凝灰岩質点紋片岩がA・B・Cとなる。

各石種について述べる。

輝石安山岩A：剥片。黒色、玻璃質で、流理が顕著である。石基には細粒の長石が多く、輝石がごくごく僅かである。

輝石安山岩B：№4、№8、№9、黒色、玻璃質である。石英の捕獲晶が含まれることがある。粒径は0.5 mm～0.7 mmである。輝石は柱状、淡茶褐色透明で、粒径が0.2 mm～1 mm、量がごくごく僅かである。石基には細粒の長石が見られる。

輝石安山岩C：№5・黒色、玻璃質である。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状で、粒径が0.2 mm～0.5 mm、量がごくごく僅かである。輝石は茶褐色透明、短柱状で、粒径が0.2 mm～0.3 mm、量がごくごく僅かである。石基には細粒の長石が多く見られる。

カンラン石輝石安山岩A：№6。黒色、玻璃質である。斑晶鉱物はカンラン石、輝石である。カンラン石は茶褐色透明で、粒径が0.2 mm～0.3 mm、量がごくごく僅かである。輝石は無色透明、粒径が0.2 mm～0.7 mm、量がごくごく僅かである。石基には細粒の長石が多く見られる。

カンラン石輝石安山岩B：№7、黒色、玻璃質である。石英の捕獲晶がある。粒径が2 mmである。斑晶鉱物はカンラン石、輝石、長石である。カンラン石は茶褐色透明、粒径が0.2 mm～0.4 mm、量がごく僅かである。輝石は無色透明、短柱状で、粒径が0.2 mm～0.4 mm、量が僅かである。長石は無色透明、短柱状で、粒径が0.2 mm～0.4 mm、量が中である。石基には細粒の長石が多い。

塩基性凝灰岩質点紋片岩A：№1、暗緑色で、片理が顕著である。長石は無色透明、球状で、粒径が0.2 mm～0.5 mm、量が中である。絹雲母、輝石が僅かに認められる。また、茶色を帯びた白色鱗片状の鉱物がみられる。基質は玻璃質である。

塩基性凝灰岩質点紋片岩B：№2。緑色で、片理が顕著である。長石、緑泥石、絹雲母が見られる。長石は無色透明、球状で、粒径が0.2 mm～0.3 mm、量が多い。緑泥石は緑色、針状で、0.2 mm～0.3 mm、量が多い。絹雲母は無色透明、板状で、粒径が0.1～0.2 mm、量が僅かである。基質は玻璃質である。

塩基性凝灰岩質点紋片岩C：№10、緑色で片理が顕著である。輝石、長石、緑泥石が見られる。輝石は黒色粒状、粒径が0.2～0.3 mm、量が僅かである。長石は無色透明、粒状で、粒径が0.1 mm～0.2 mm、量が多い。緑泥石は濃緑色、針状で、粒径が0.2 mm～0.3 mm、量が僅かである。

る。基質は玻璃質である。

輝石安山岩A・B・Cは鉱物粒の大小にて区分したもので、1つの岩体の中心部と周辺部との差によっても十分に起り得る(註1)。カンラン石輝石安山岩A・Bでも同様のことが言える。これらの石材片の一部に風化面の様子から判断すれば礫層中の礫であった可能性が高い。近距離で、輝石安山岩、カンラン石輝石安山岩の礫はドンズルポー北方の原川累層分布付近にも見られる。岩相的には酷似するものが多い。

以上のことから、輝石安山岩やカンラン石輝石安山岩はドンズルポー北方の地層の礫を採取したと推定される。

塩基性凝灰岩質点紋片岩は点紋が出かけた程度の変成を示す。変成が低くなれば点紋が認められなく、より高くなれば、黒雲母や柘榴石が認められるようになる。点紋片岩は三波川帯の北部に分布し、紀ノ川流域では和歌山市で広く、粉川から上市まではほぼ紀ノ川より北に分布し、小名で消滅する。この点紋帯の南縁部の岩相に石器の石材は酷似する。石材の採取時の形状が不明であるため、場所を限定することができないが、大和上市以西の紀ノ川が採取地であろう。点紋帯は四国吉野川流域にも分布するため遠地点を求めれば候補地は多くなる。また、同様のことが輝石安山岩やカンラン石輝石安山岩についてもいえる。

註

1. 二上山西方石まくり火山岩の産状をみても明らかのように、岩体の中心部では長石や輝石の斑晶が大きく、周辺部では斑晶がほとんど認められない玻璃質である。中心部の石は石器になりやすく、周辺部のものは貝殻状断口が顕著で、鋭利な割れ口を示す。

7. 東郷遺跡(86-419)の調査

調査地 八尾市桜ヶ丘3丁目23、29

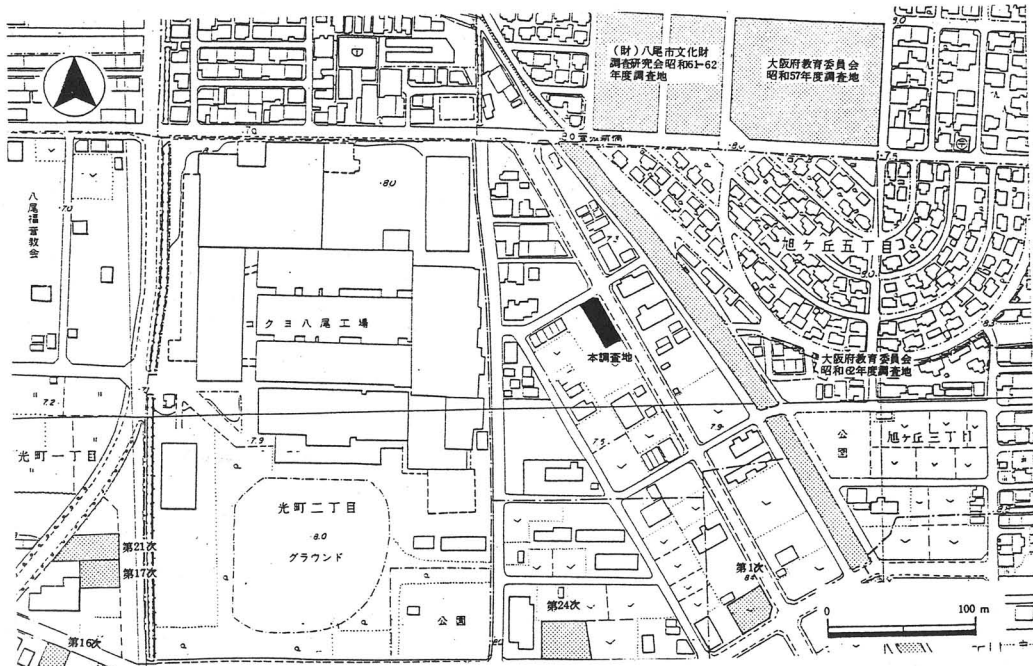
調査期間 昭和62年8月7日～8月19日

1. 調査概要

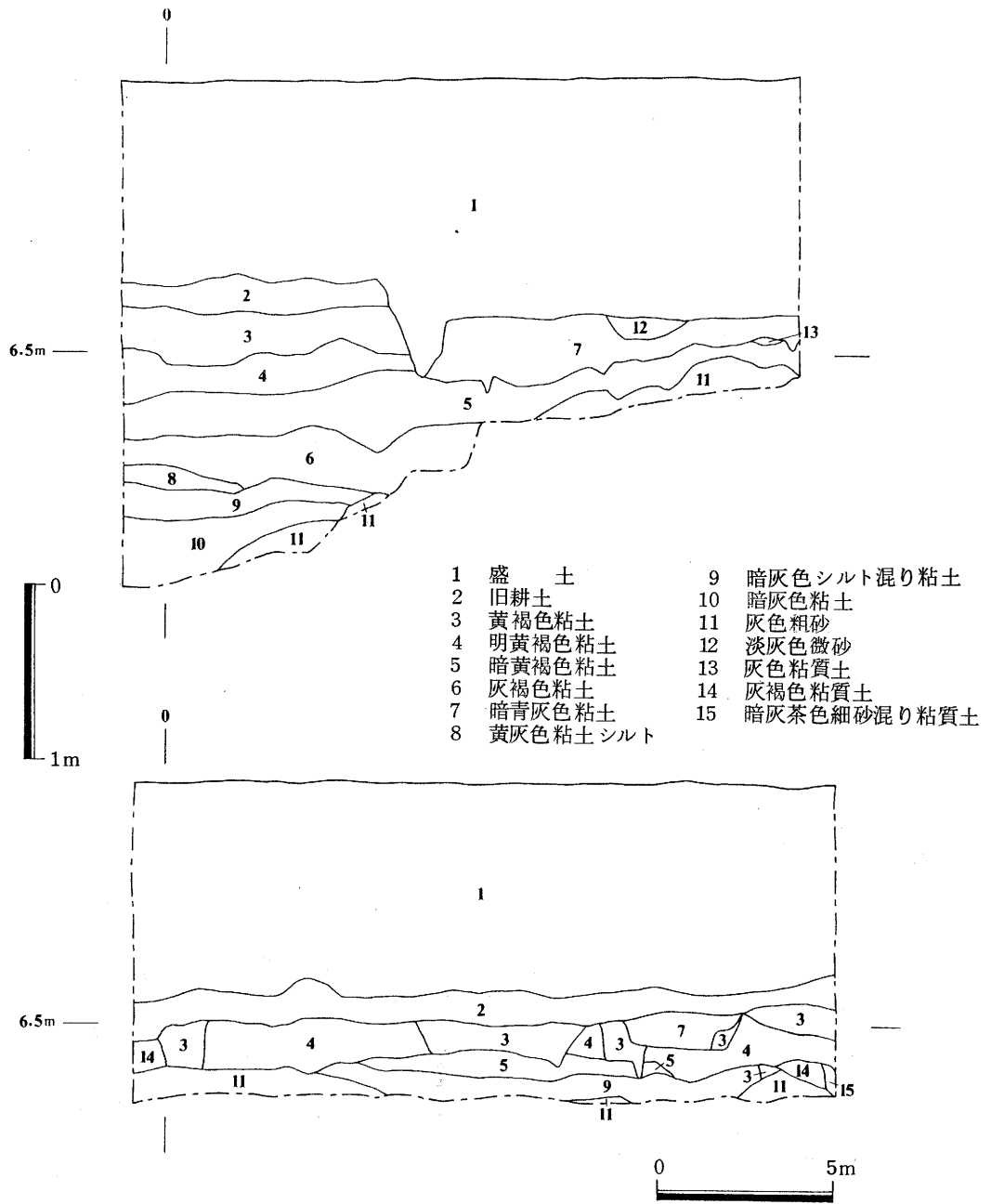
東郷遺跡は河内平野沖積地に営まれた弥生時代から中世に至るまでの複合集落遺跡である。本調査地は、東郷遺跡のほぼ北東端に位置しており、当遺跡と萱振遺跡との接点部分にあたる。

八尾市桜ヶ丘3丁目23・29において、佐伯一旭氏より、共同住宅建設のため土木工事を計画している旨の届出に基づき、昭和62年8月7日に、遺構確認調査を実施した結果、古墳時代の土器が出土したため、調査範囲を拡張することになった。発掘調査は2.5m×20mの調査区を施工範囲内に2箇所設定し、地表下2mまで機械掘削した後手掘りによる精査を行った。期間は昭和62年8月19日までの間、延べ10日を要した。その結果布留式～庄内式の時期の遺構の存在を確認したので以下に報告する。

調査地の盛り土は、約1.2mなされており、旧耕土より0.5～0.8m、標高6.2～6.5mの灰色粗砂をベースとする暗黄褐色粘質土以下が古墳時代の包含層である。この層は、西調査区の北



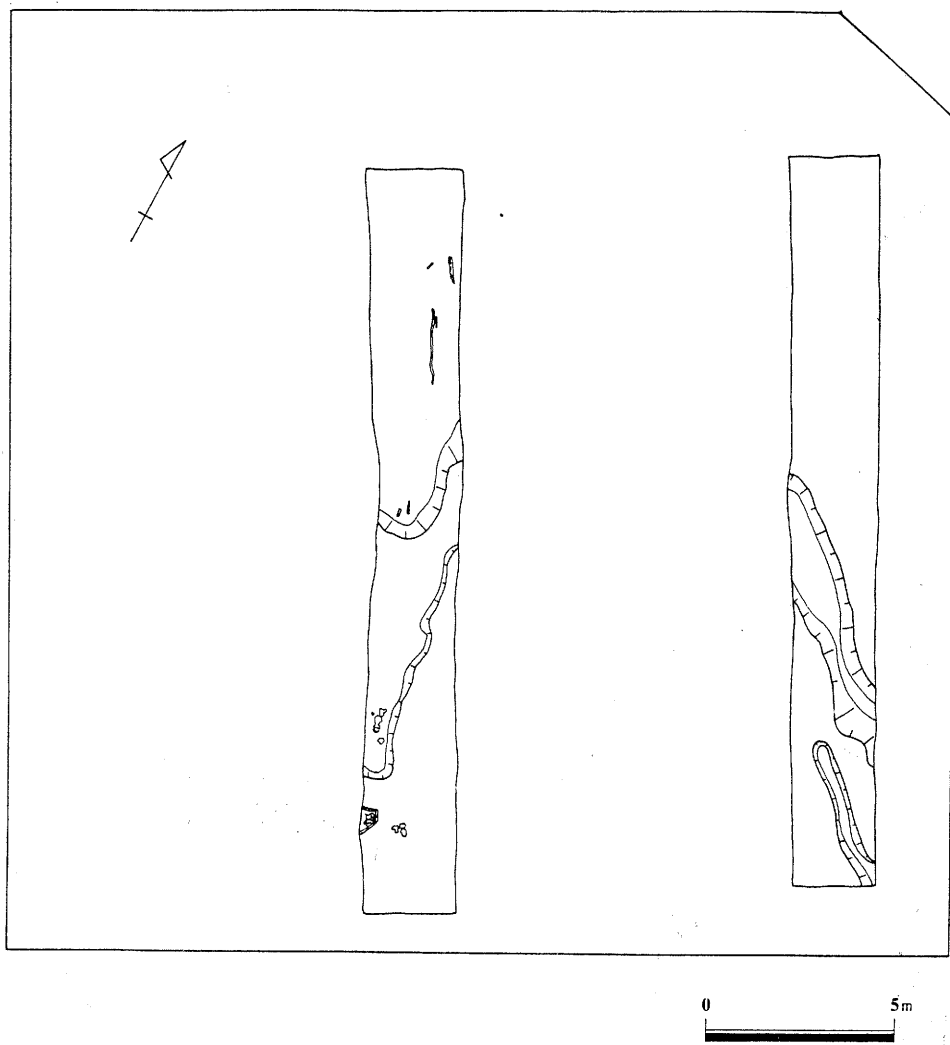
第26図 調査地周辺図(1/5000)



第 27 図 土層断面図 (縦 $1/40$ 、横 $1/200$)

側では、旧耕土より 1.5 m まで落ち込んでいる。

東調査区

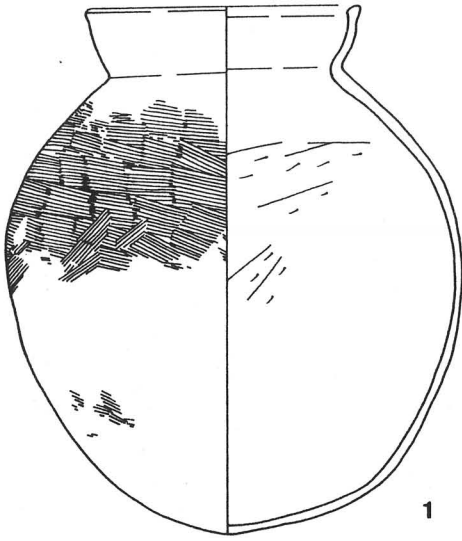


第 28 図 遺構平面図 (1/200)

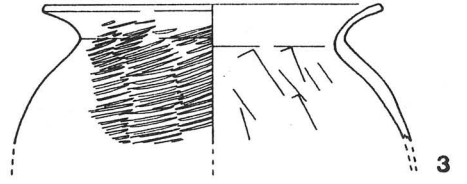
遺構面はほぼ平坦で、灰色粗砂をベースとする幅 1.4 m、深さ 10 ~ 20 cm の溝がほぼ南東から北西へのびていた。溝の埋土は暗灰色シルト混じり粘土で、古式土師器の小片が出土している。

西調査区

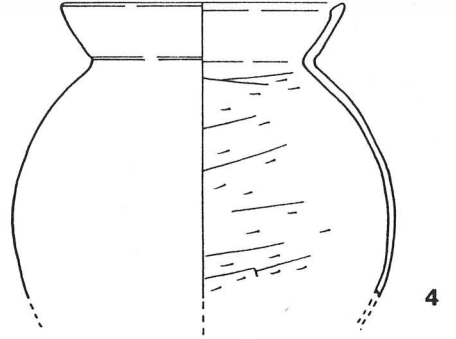
遺構としては土坑と沼状の落ち込みを検出した。これらの遺構は淡灰色粗砂をベースにして掘りこまれている。土坑は、調査区南西付近でその半分を検出した。径 0.75 m、深さ 0.4 m 強を測る。土坑内より完形の布留式甕が押しつぶされた状況で出土した。落ち込みは、調査区北半で検出した東から西に向かってなだらかに落ち込むもので、ほぼ南北方向の肩をもっている。遺構面からは、ほぼ 1.1 m の落ちを示す。この遺構の埋土は基本的に 4 層に分かれ、上層が灰



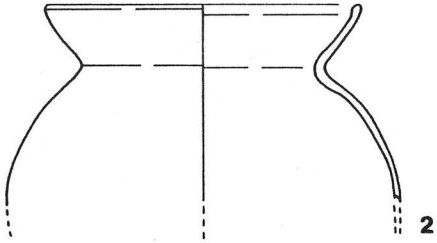
1



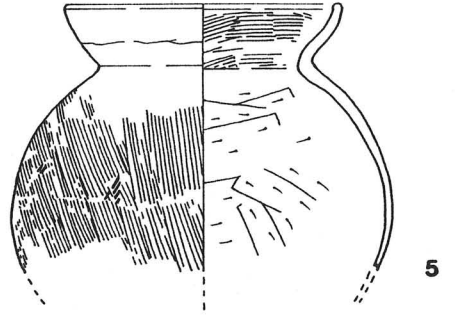
3



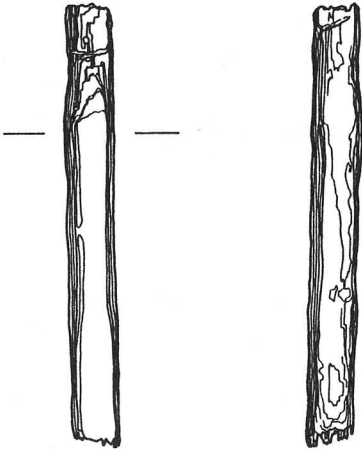
4



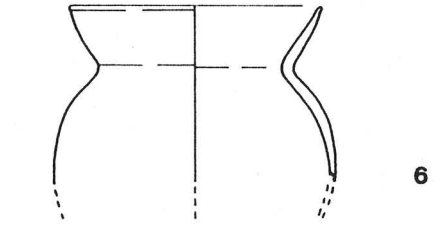
2



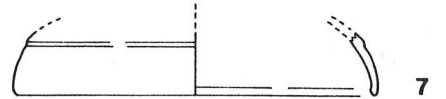
5



8



6



7



第29图 出土土器・木器 (1/4)



褐色粘土、中層が黄灰色の粘質シルトと暗灰色シルト混じり粘土、下層が暗灰色粘土で、上層肩付近で布留式甕が3個体、小型丸底壺が1個体、下層ベース直上で弥生時代末の土器片と自然木、木製品が出土した。

今回検出した遺物は、土器として図化できたものは、布留式の甕が4個体V様式末または庄内式に含められる甕の破片を1個体、小型丸底壺1個体、須恵器1個体、棒状木製品1点である。1は土坑出土の布留式甕で、口縁が立ち上がり、肩部に横方向の刷毛目がみられる。2・4～5は下半を欠くが内湾する口縁と球形の体部をもつ布留式甕である。6は同じく布留式の小型丸底壺で、3はV様式の甕であるが、叩きが細かいことと器壁が薄いことから庄内式に含められるかも知れない。7は東調査区包含層出土の古墳時代後期の須恵器である。8は棒状の木製品の断片である。断面方形を呈する。

2. まとめ

本調査は東郷遺跡の北東側と萱振遺跡の西南側の接点付近にあたっていることから、弥生時代末～古墳時代前期の遺構を確認できたことで、両遺跡が時期的にも、範囲としてもほぼ一体のものとしてとらえることができることを示している。(米田)

第6表 東郷遺跡(86-419)出土遺物観察表

遺物番号	器種	法量(現存率)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
1	甕	口径 12.7(完存) 器高 24.8~25.0 最大径 21.4	外 口縁部ヨコナデ。胴部ハケ(6本/1cm)。 内 口縁部ハケ後、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	外・内-黒色~淡黄褐色。断-橙色。 微砂粒を多量に含む。	焼成良好。外面全面・内面胴部に煤、内面底部に炭化米が付着。
2	甕	推定口径 14.8(³ / ₅)	外 口縁部ヨコナデ。胴部剥離の為、調整不明。 内 口縁部ヨコナデ。胴部剥離の為、調整不明。	外・内・断-淡黄橙色~橙色。 細・微砂粒を多量に含む。	焼成良好。
3	甕	推定口径 16.0(¹ / ₄)	外 口縁部タタキ後、ナデ。胴部タタキ(4条/1cm) 内 口縁部ナデ。胴部ヘラナデ。	外・内-淡黄褐色。断-黒灰色。 細砂粒を多量に含む。	焼成良好。
4	甕	推定口径 13.2(¹ / ₅)	外 口縁部ヨコナデ。胴部剥離の為、調整不明。 内 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	外-黒色~淡黄褐色。内-灰褐色。断-淡黄褐色~橙色。 細・微砂粒を多量に含む。	焼成良好。外・内面全面に煤が付着。
5	甕	口径 13.0(¹ / ₄)	外 口縁部ヨコナデ。胴部タタキ後、ハケ(5本/1cm)。 内 口縁部ハケ(7本/1cm)。胴部ヘラケズリ。	外-黒灰色~淡黄褐色。内-淡黄褐色。断-灰色。 微砂粒を少量含む。	焼成良好。
6	小型丸底壺	推定口径 12.0(¹ / ₂)	外 磨耗の為、調整不明。 内 磨耗の為、調整不明。	外・内・断-橙色。 微砂粒を少量含む。	焼成良好。
7	坏蓋	推定口径 16.8(¹ / ₅)	外 回転ナデ。 内 回転ナデ。	外・内・断-灰白色。 精密。	焼成良好。

8. 中田遺跡(86-532)の調査

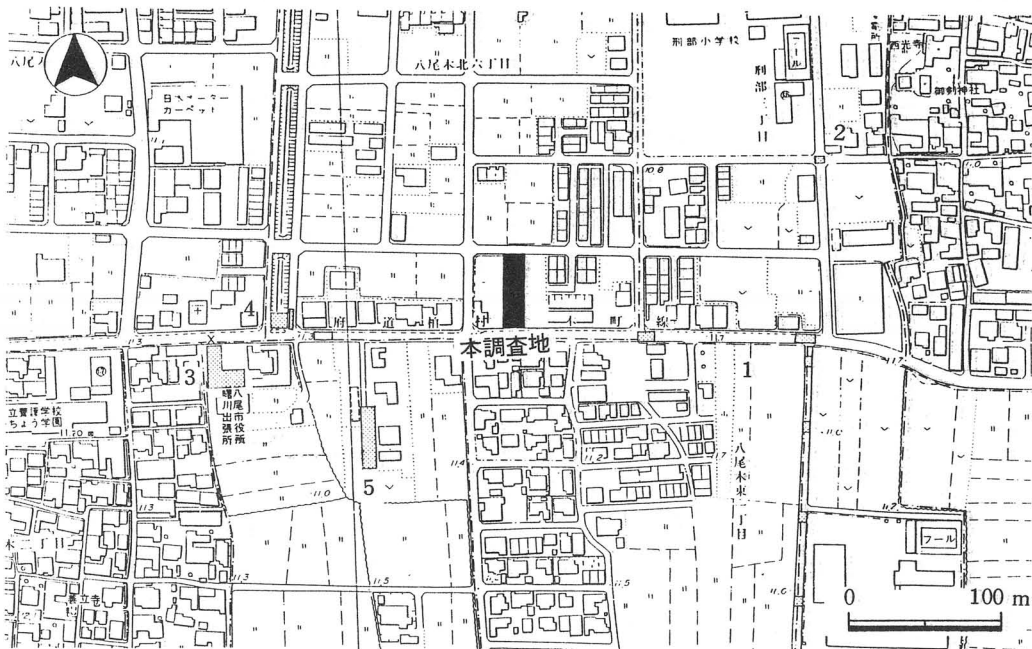
調査地 八尾市八尾木北6丁目166

調査期間 昭和62年8月19日・8月26日～9月5日

1. 調査概要

本調査は共同住宅建築に伴って実施した発掘調査である。調査地は楠根川と玉串川にはさまれた沖積平野に位置する。調査地の西方150 mの地点では(財)八尾市文化財調査研究会(第30図3 註1)、大阪府教育委員会が調査を実施しており(第30図4 註2)、弥生時代中期・古墳時代初頭の土坑等が検出されている。また、西方100 mの地点では八尾市教育委員会の調査によって弥生時代中期の壺棺、古墳時代初頭の遺構が検出されている。(第30図5 註3)。また、調査地の北東200 mの地点では八尾市教育委員会の調査によって古墳時代初頭の土坑が検出されており、庄内式土器に混じって多量の吉備地方の土器が出土した(第30図2 註4)。また、中田遺跡の南東に隣接する東弓削遺跡でも水道管布設工事に伴って、発掘調査を実施しており、弥生時代中期・古墳時代初頭・古墳時代中期・奈良時代の遺構・遺物が出土している(第30図1 註5)。

本調査地は調査以前は畑として利用されていた。昭和62年8月19日に遺構確認調査を実施したと



第30図 調査地周辺図 (1/5000)

第7表 本調査地周辺の既応の調査一覧表

番号	調査地	調査主体	調査期間	調査原因	主な検出遺構 出土遺物	文 献
1	八尾市八尾木 ～東弓削	八尾市教育委 員会	昭和50年12月 8日～昭和51 年3月31日	水道管布設	弥生土器(中期～ 後期)・土師器・ 須恵器・埴輪・瓦	八尾市教育委員会「東弓削 遺跡」(1976)
2	八尾市刑部3 丁目	八尾市教育委 員会	昭和53年4月	関西電力地 中線埋設	溝(?)、庄内式土 器、鳥形木製品	八尾市教育委員会「昭和53 ・54年度埋蔵文化財発掘調 査年報」(1981)
3	八尾市八尾木 4丁目	財)八尾市文 化財調査研究 会	昭和59年2月 2日～2月19 日	コミュニテ ィーセンタ ー建設	土坑・焼土坑・弥 生土器(中期～後 期)・庄内式土器	財)八尾市文化財調査研究 会「昭和58年度事業概要報 告」(1984)
4	八尾市八尾木 北5丁目	大阪府教育委 員会	昭和60年8月	下水管渠築	落ち込み(?)	大阪府教育委員会「中田遺 跡発掘調査概要」(1986)
5	八尾市八尾木 4丁目5	八尾市教育委 員会	昭和61年9月 24日～9月30 日	マンション 建設	壺棺(弥生中期) ・古式土師器	八尾市教育委員会「八尾市 内遺跡昭和61年度発掘調査 報告書Ⅱ」(1987)

ころ現地表下1 m付近に古墳時代初頭の遺物を含む遺物包含層が検出された。このため、施工者側と協議をした結果、基礎杭のため遺跡が破壊される部分に限定して発掘調査を行うことにした(第31図)。調査は現地表下0.5 m付近まで機械掘削を行ったのち、人力掘削によって行った。

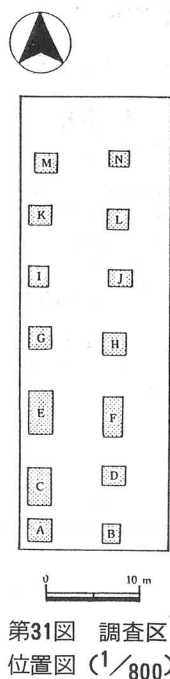
本調査地の土層の堆積は第32図のとおりである。第1層は暗褐色細砂で畑の耕地として利用されていた土層である。第2層は黄褐色細砂で、その下層には部分的に第3層赤褐色粗砂が堆積する。第4層は茶灰色粘土で、瓦・古式土師器を少量含む。第5層は暗褐色粘土で、調査地の北西にのみ存在し、古式土師器を少量含む。また、調査地の西半分は第7層暗青灰色～灰黄色粘土、第8層暗灰色粘土が存在し、その下層は東半分と同様第9層青灰色粘土、第10層灰色

シルト～細砂となる。第7・8層は多量の土器を含むことや東半分の調査区の土層とのレベルとの検討から遺構の埋土であると思われる。また、東側のF・Hグリッドでは第6層灰黄色シルト混じり粘土が部分的に存在するが、これも遺構の埋土であろうと思われる。なお、第9・10層には遺物は含まれておらず、激しい湧水がみられた。

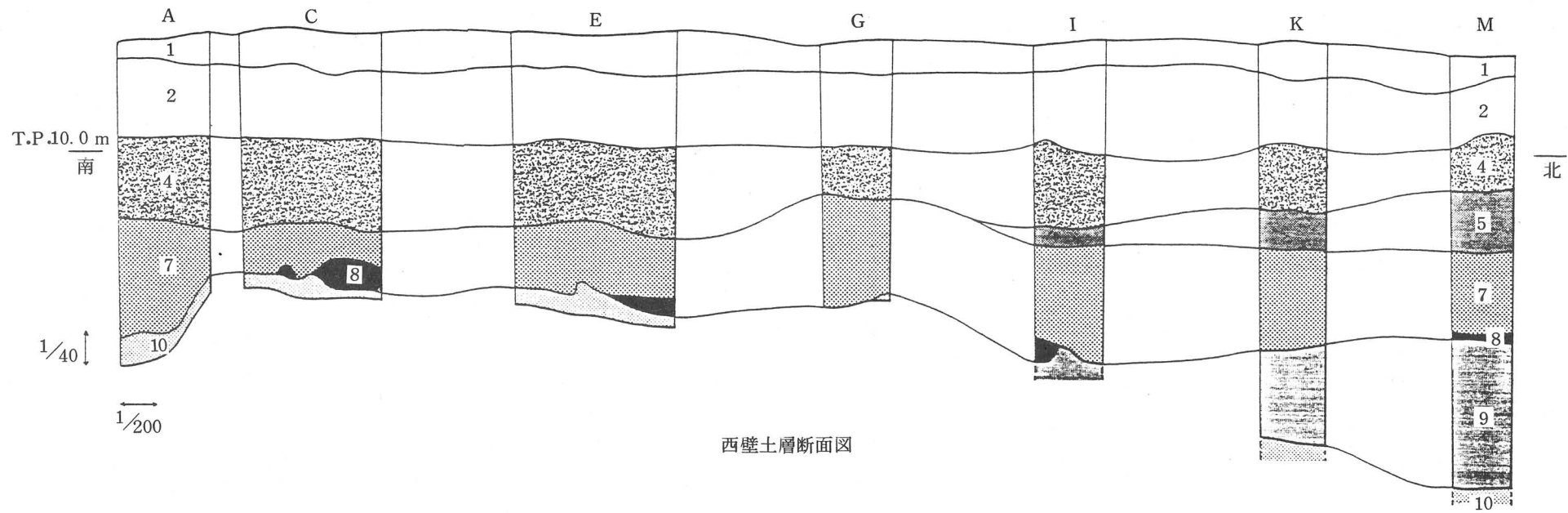
以下、西側(A・C・E・G・I・K・Mグリッド)で検出された遺構(溝?)と出土遺物について説明を加える。なお、本調査地からはコンテナ25箱の遺物が出土した。

A・C・E・G・I・K・Mグリッド検出遺構

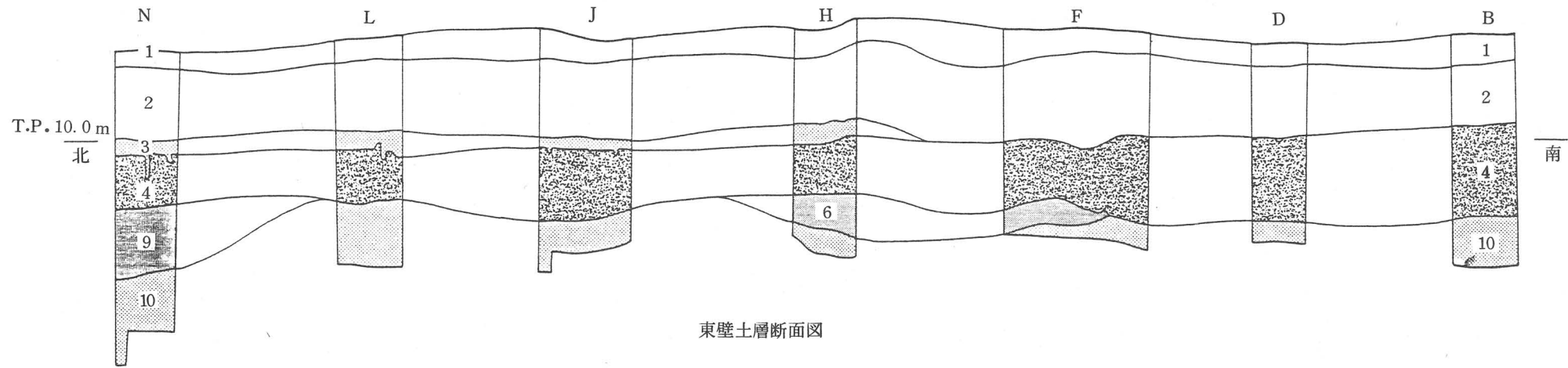
A・C・E・G・I・K・Mグリッド全体で検出された。東側のB・D・F・H・J・L・Nグリッドとのレベルの対応関係と出土土器の多さから遺構であると考えられ、西側のグリッドには連続して同一層がみられることから南北に伸びる溝状遺構ではないかと思われる。しかし、遺構の底面は一様ではなく、C・E・Gグリッドが高く、A・I・Kグリッドは低くなり、40 cmの高低差がみられる。また、



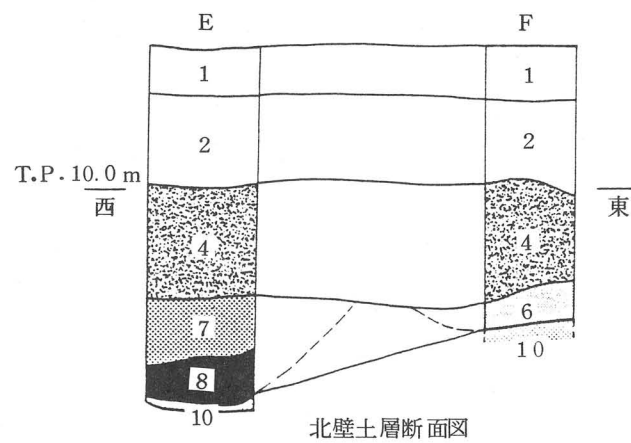
第31図 調査区
位置図 (1/800)



西壁土層断面図



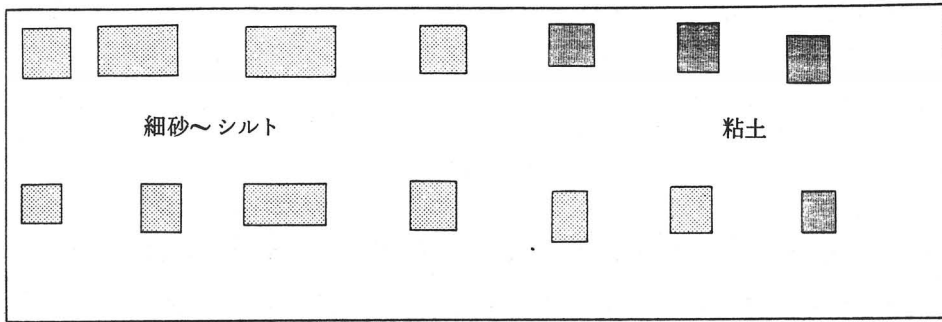
東壁土層断面図



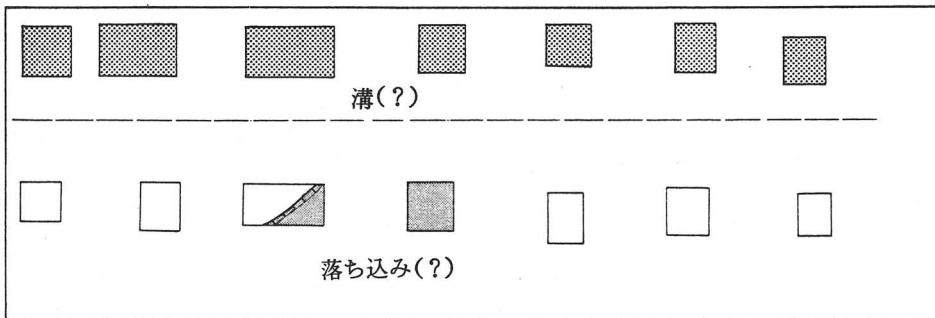
北壁土層断面図

- 1 暗褐色細砂層(耕土)
 - 2 黄褐色細砂
 - 3 赤褐色粗砂
 - 4 茶灰色粘土
 - 5 暗褐色粘土
 - 6 灰黄色シルト混り粘土
 - 7 暗青灰色～灰黄色粘土
 - 8 暗灰色粘土(炭化物を多量に含む)
 - 9 青灰色粘土
 - 10 灰色シルト～細砂
- } 遺物包含層

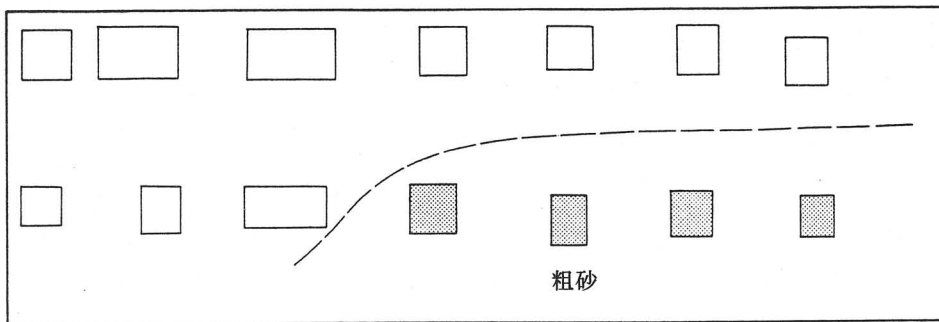
第32図 各グリッド土層断面図(縦1/40、横1/200)



第9～10層堆積状況



第9～10層上面検出遺構



第3層堆積状況



第33図 各グリッド平面図 (1/400)

第8層は部分的にC・E・I・Mグリッドでみられるだけである。以下、各グリッドごとに土器の出土状況を記述する。

A・C・Gグリッドでは完形品はほとんどみられず、いずれのグリッドもコンテナ1箱程度の土器が出土した。

Eグリッドは他のグリッドよりも調査面積が広いコンテナ4箱の土器が出土した。このグリッドでは南東部で木杭が底面に横たえた状態で出土した。また、壺の口縁部(32)が西壁付近の底面より10cm上で口縁部をななめ上にむけた状態で出土した。壺の口縁部(28)はグリッドの北西隅で底面に張り付き口縁部を下に向けた状態で出土した。

Iグリッドではコンテナ6箱の土器が出土した。第7層中部付近から壺(59・62)鉢(87)・高坏(90)・器台(95)などの完形品が出土した。また、底面付近では甕などの土器片が一面に張り付いた状態で出土した。

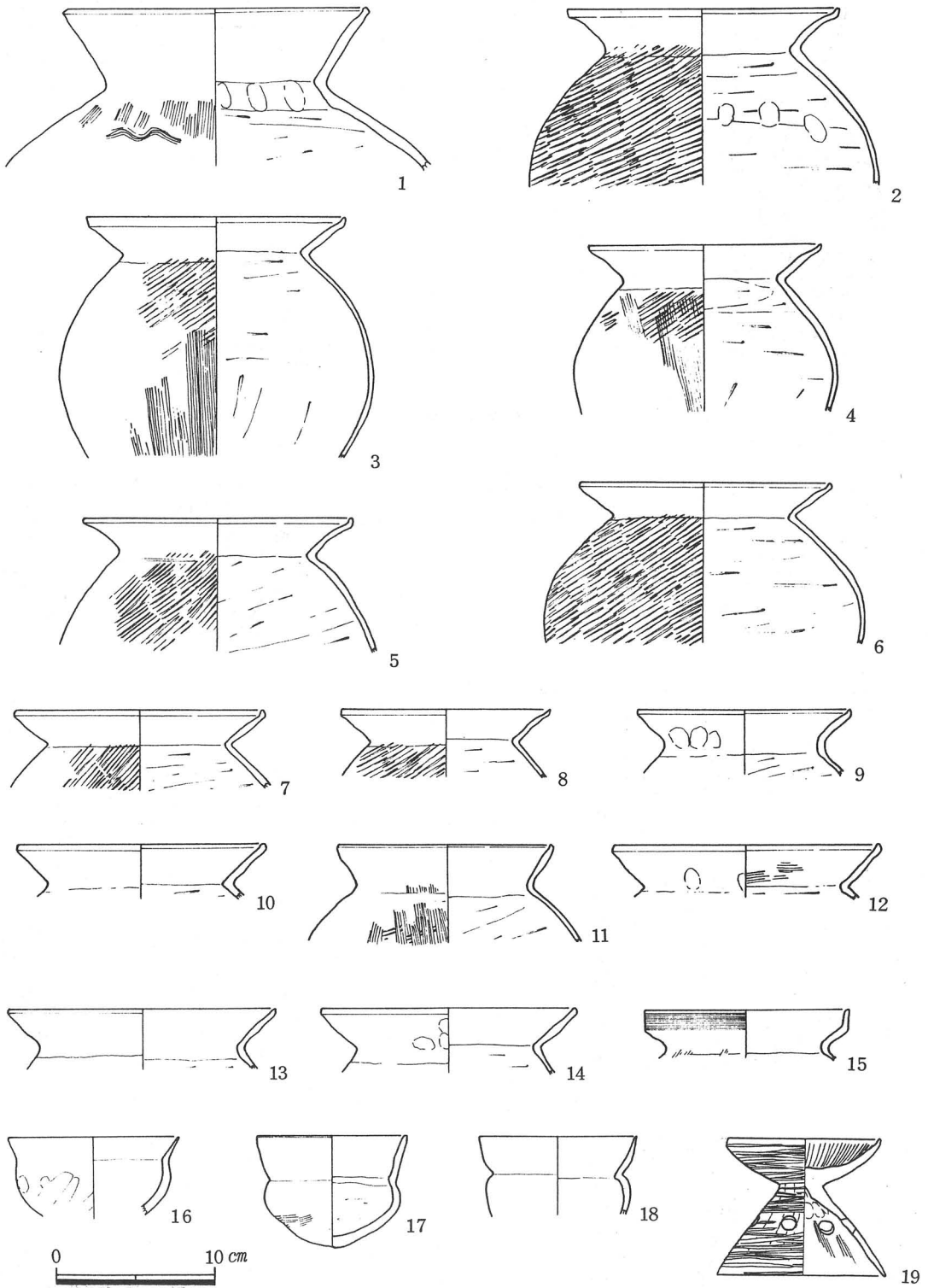
Kグリッドではコンテナ3箱の土器が出土した。ほとんどの土器は第7層中部付近から出土し、底面付近にはあまり土器はみられなかった。

Mグリッドではコンテナ7箱の土器が出土した。第7層中部付近から甕を中心とする多量の完形品が出土した。また、底面付近からは小破片の土器片が出土したのみであった。

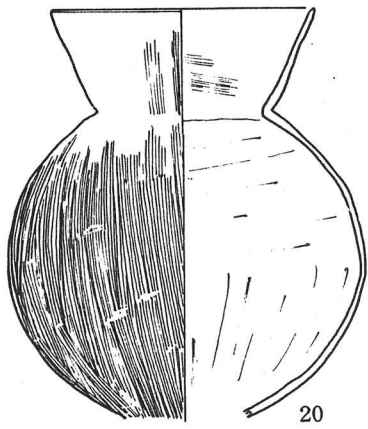
これらの土器の中には甕(33・100・114~116)など庄内式のなかでも古相の特徴をもつものも含まれるが、庄内式の新相から布留式の古相の特徴をもつものがほとんどである。また、吉備地方の甕(15・22・45・82・83・133・142)、山陰地方の甕(84)・器台(25)が含まれていた。

2. まとめ

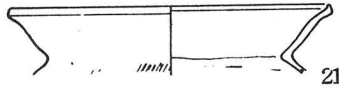
本調査地においては部分的な調査に留まらざるを得なかったため遺構等を明確に把握することはできなかった。しかし、溝と思われる遺構が西側グリッド全面で検出された。この遺構からは庄内式の新相から布留式の古相の特徴をもつ多量の土器が出土した。この周辺では西方100mの地点で八尾市教育委員会が実施した調査において本調査地とほぼ同時期の庄内式新相から布留式古相の土器が出土している(第30図5 註5)。また、調査地の北東200mの地点では庄内式最古相の土器を含む土坑が検出されている(第30図2 註6)。この調査は立会調査のため詳細な遺構の状況は不明であるが、現在の道路地表下1m付近で検出されており、この周辺の道路の標高から考えると本調査地より遺構確認面が40cm程高くなっている。おそらく当時の地形は本調査地から北東方向にかけては徐々に高くなっており、このため庄内式でも古相の段階には安定した地形環境である刑部小学校付近を生活域とし、庄内式新相になって南西部の本調査地付近まで生活域は広がってきたものと考えられる。(嶋村)



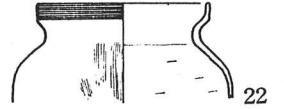
第 34 図 A グリッド出土土器 (1/4)



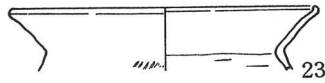
20



21



22



23

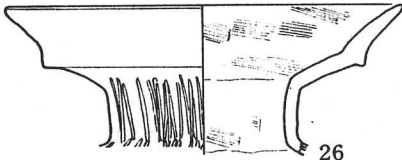


24

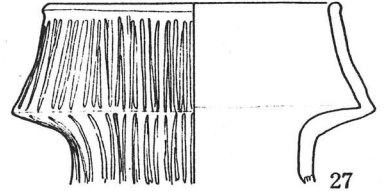


25

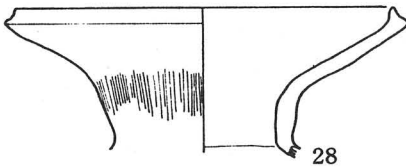
Cグリッド



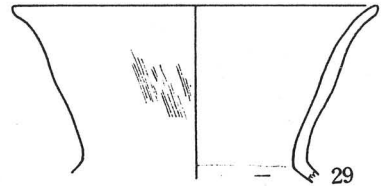
26



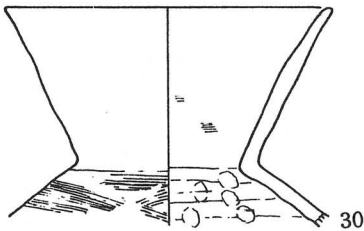
27



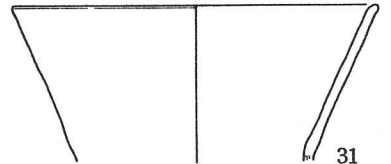
28



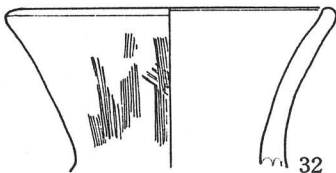
29



30



31

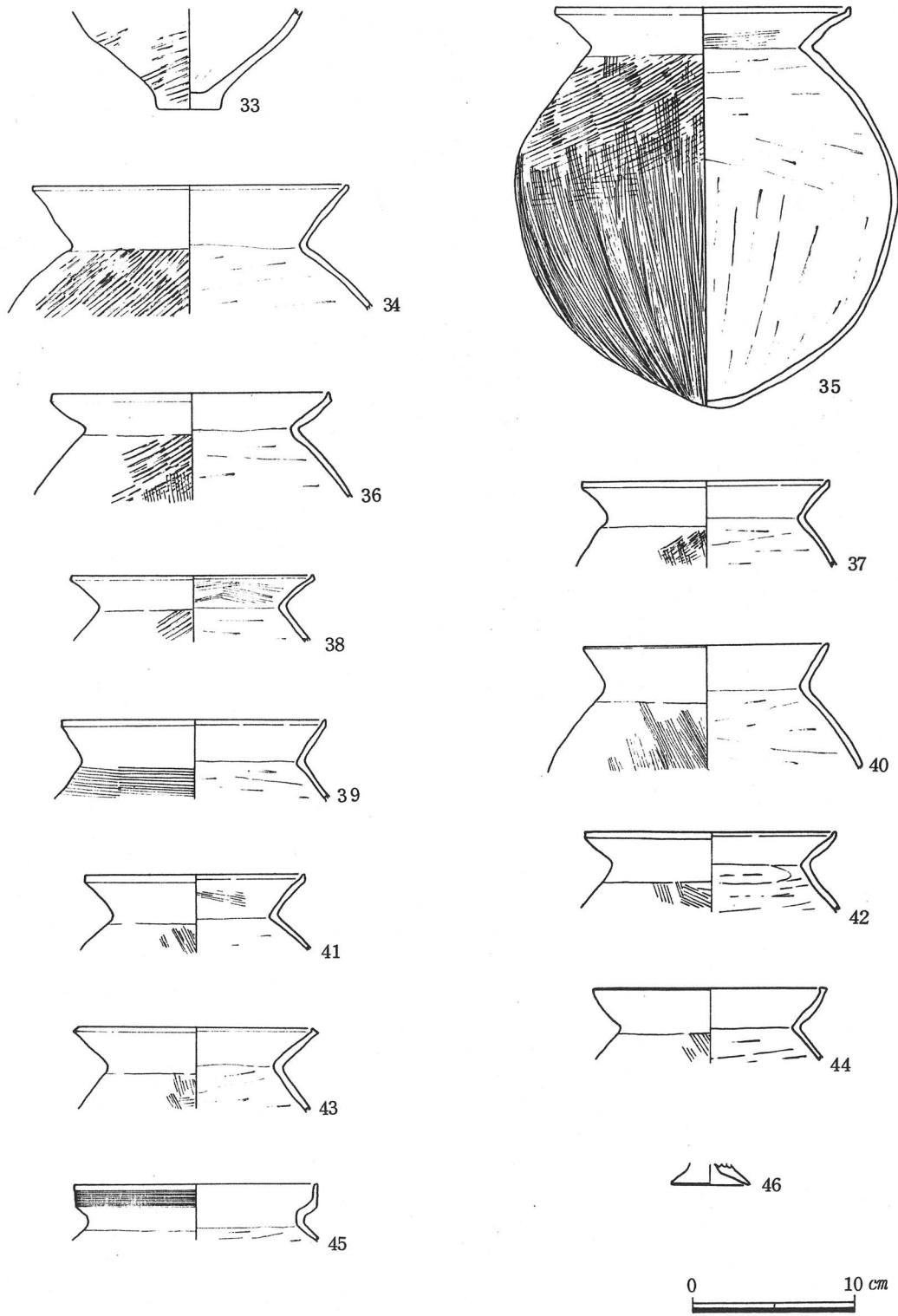


32

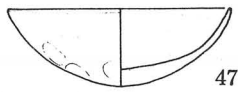
Eグリッド



第 35 図 C・Eグリッド出土土器(1/4)



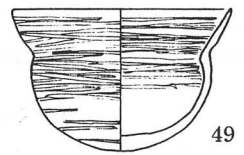
第 36 図 E グリッド出土土器 (1/4)



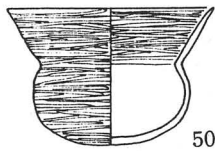
47



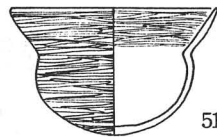
48



49



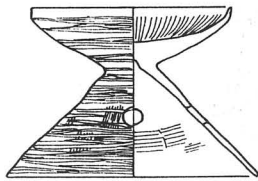
50



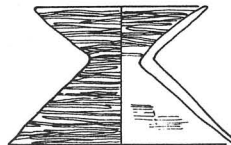
51



52

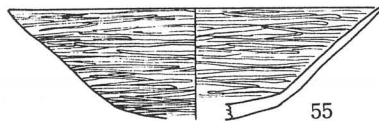


53



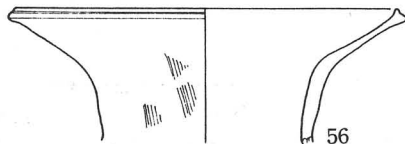
54

Eグリッド

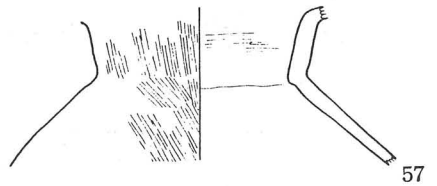


55

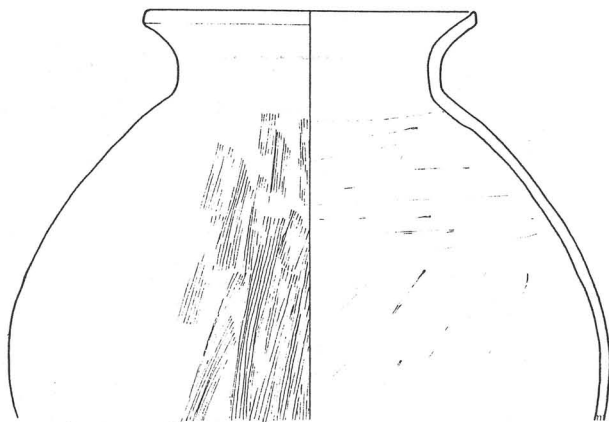
Gグリッド



56

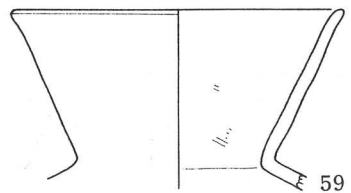


57



58

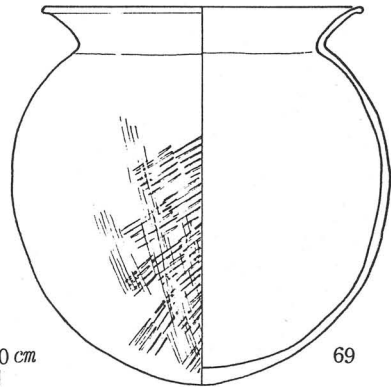
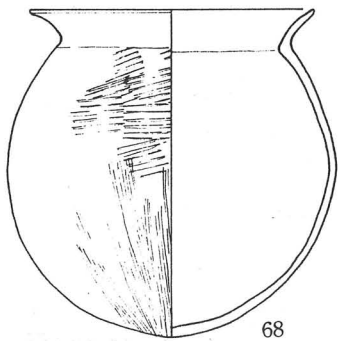
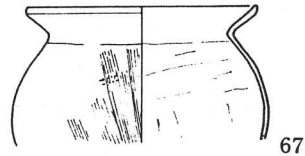
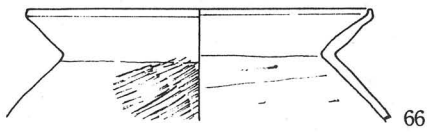
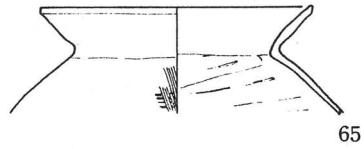
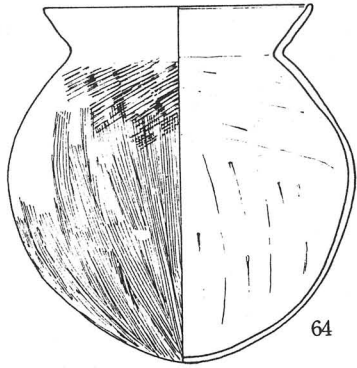
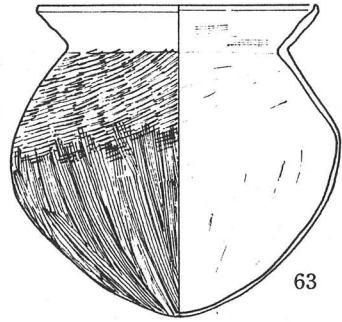
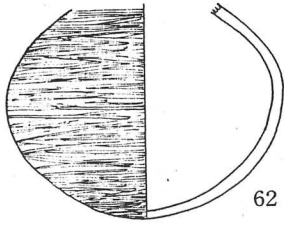
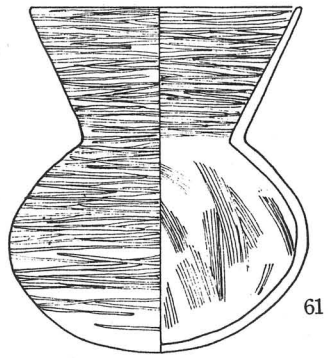
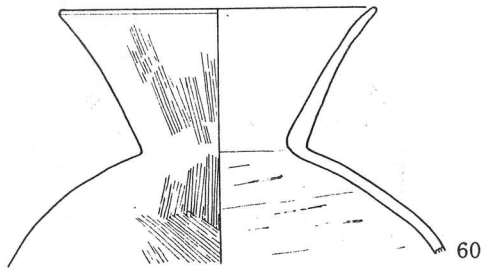
Iグリッド



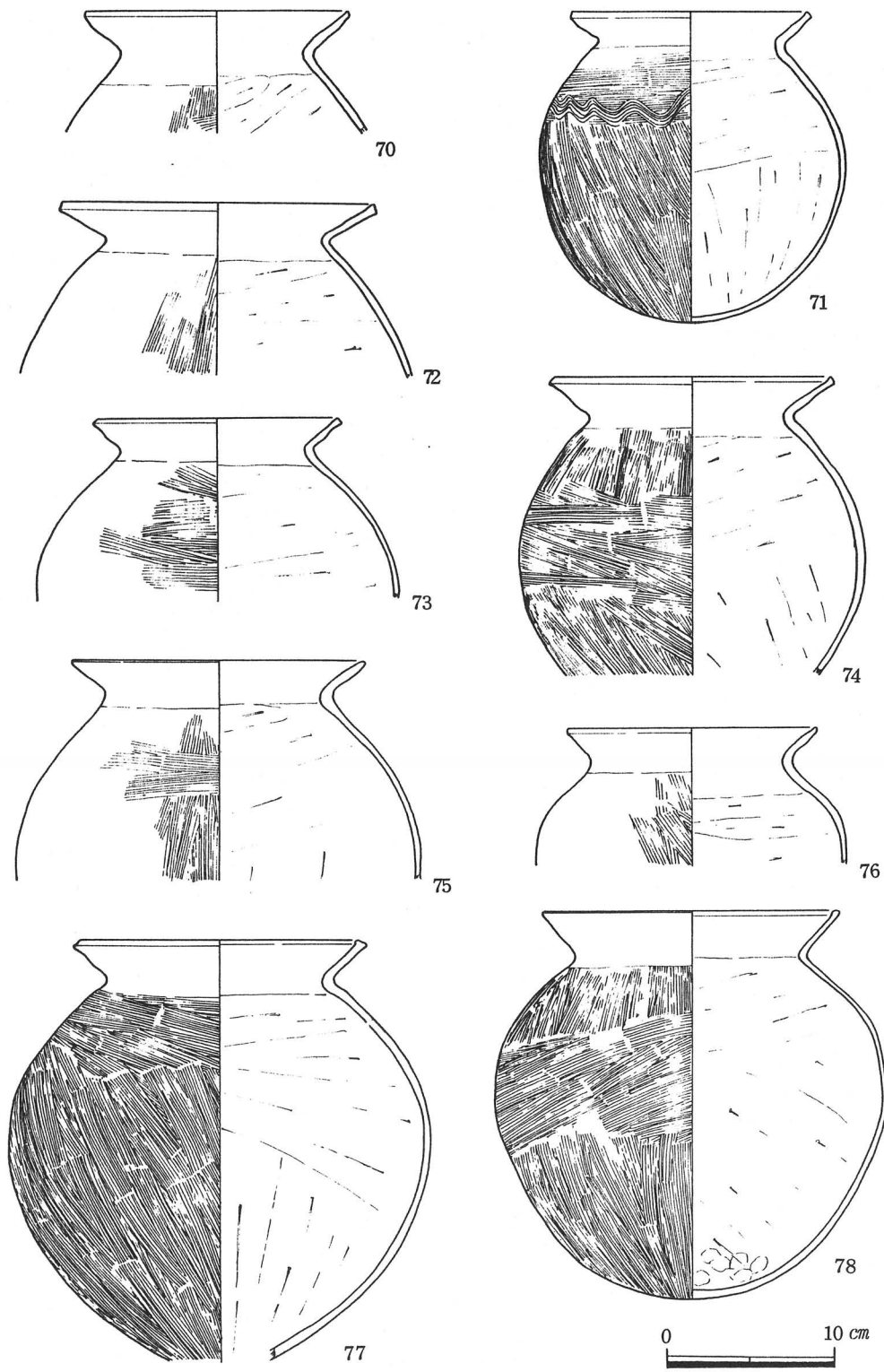
59



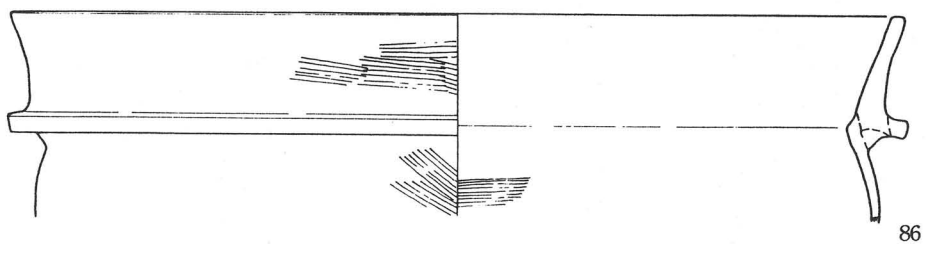
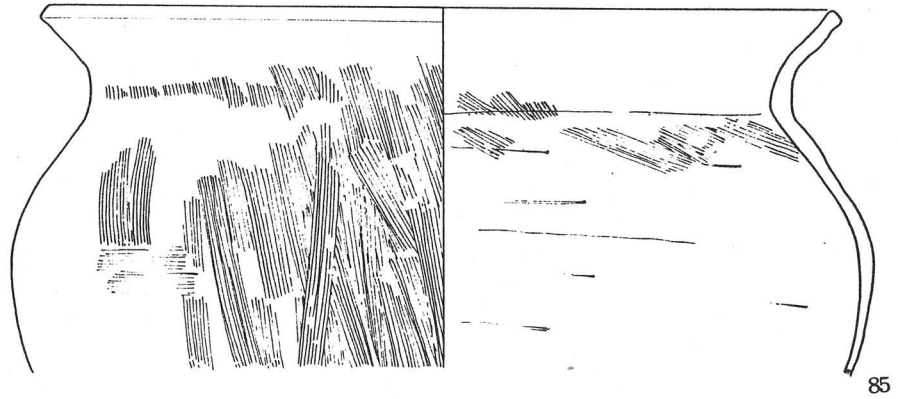
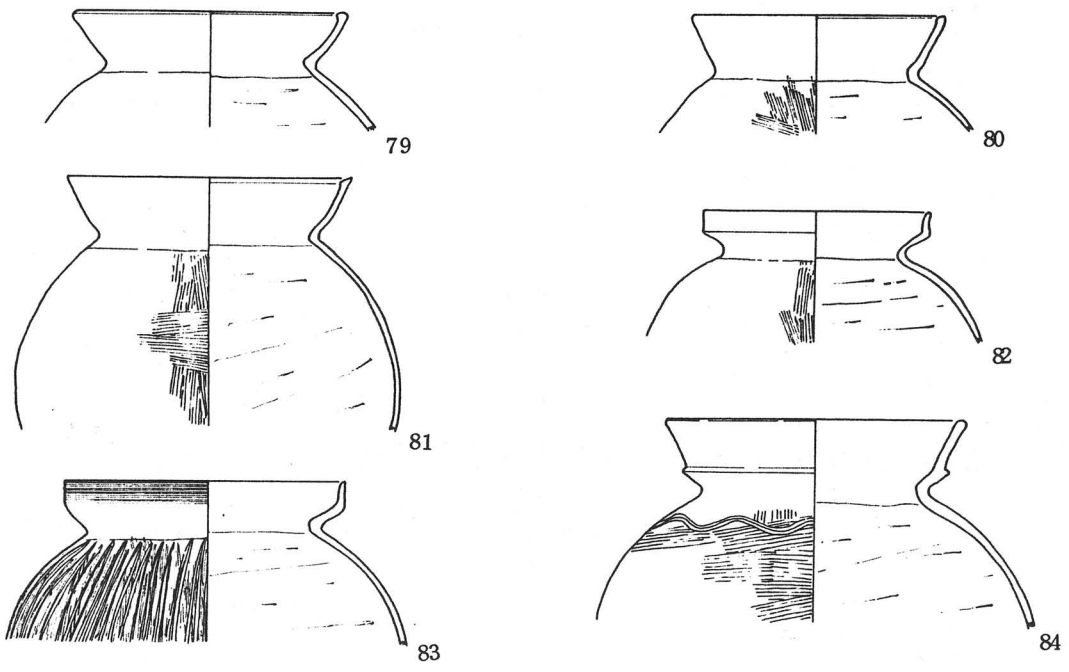
第 37 図 E・G・I グリッド出土土器 (1/4)



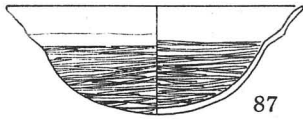
第38図 I グリッド出土土器(1/4)



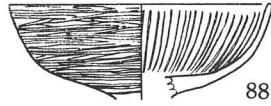
第 39 図 I グリッド出土土器 (1/4)



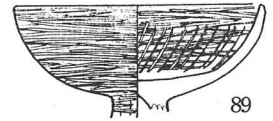
第40図 I グリッド出土土器(1/4)



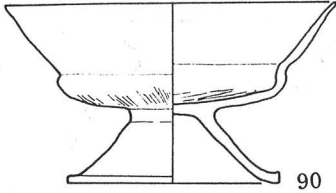
87



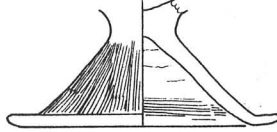
88



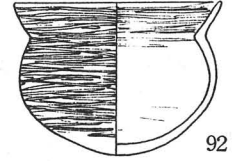
89



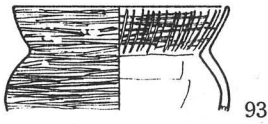
90



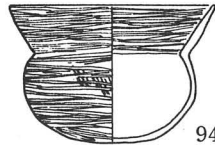
91



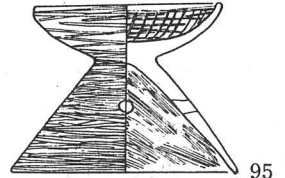
92



93



94

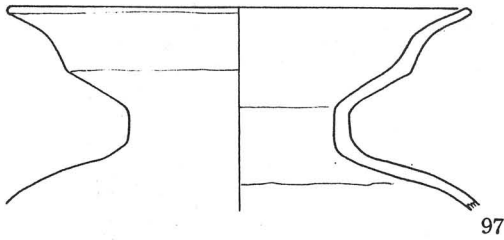


95

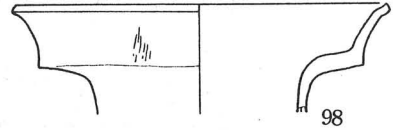


96

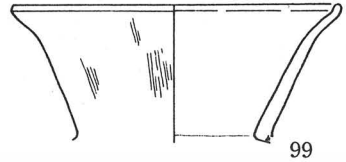
I グリッド



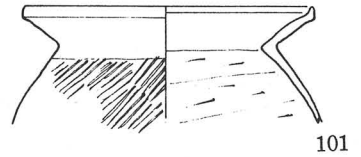
97



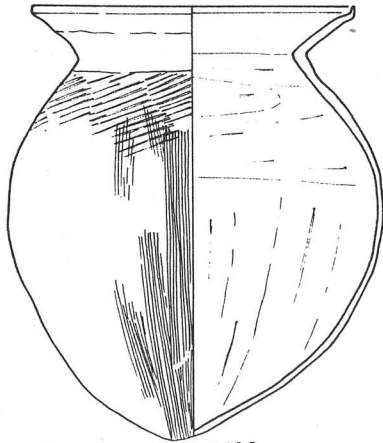
98



99



101

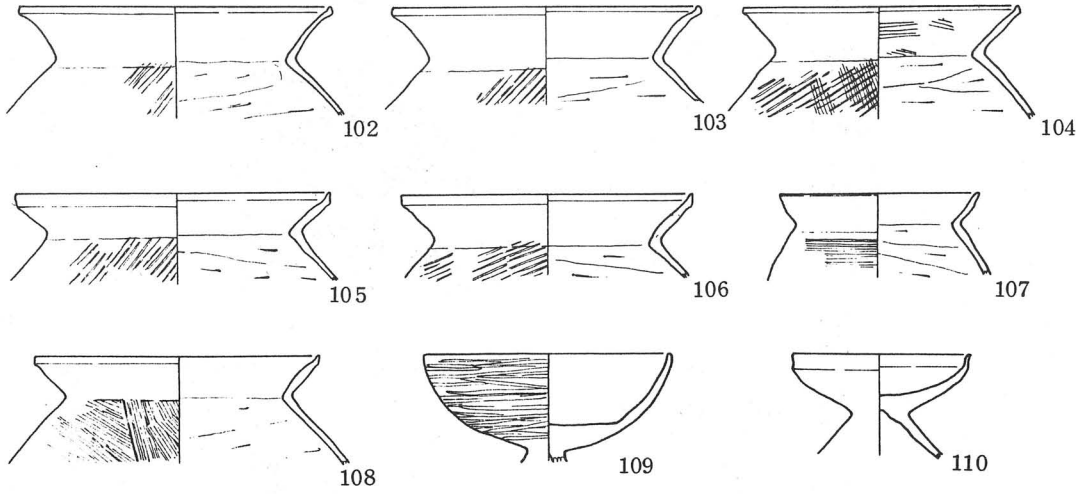


100

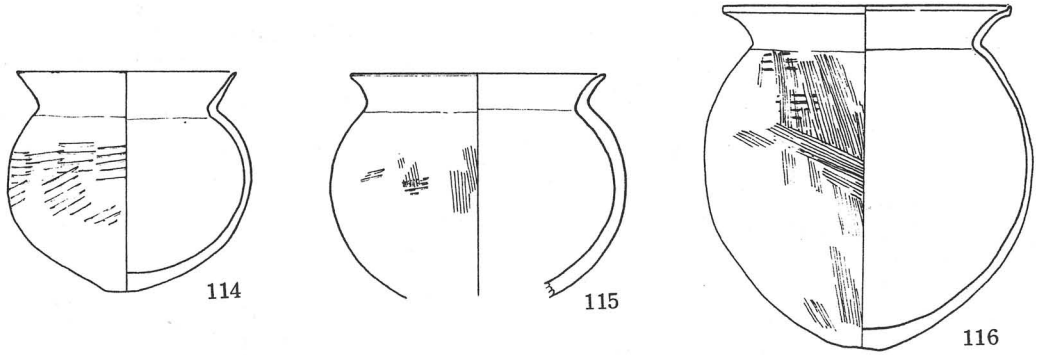
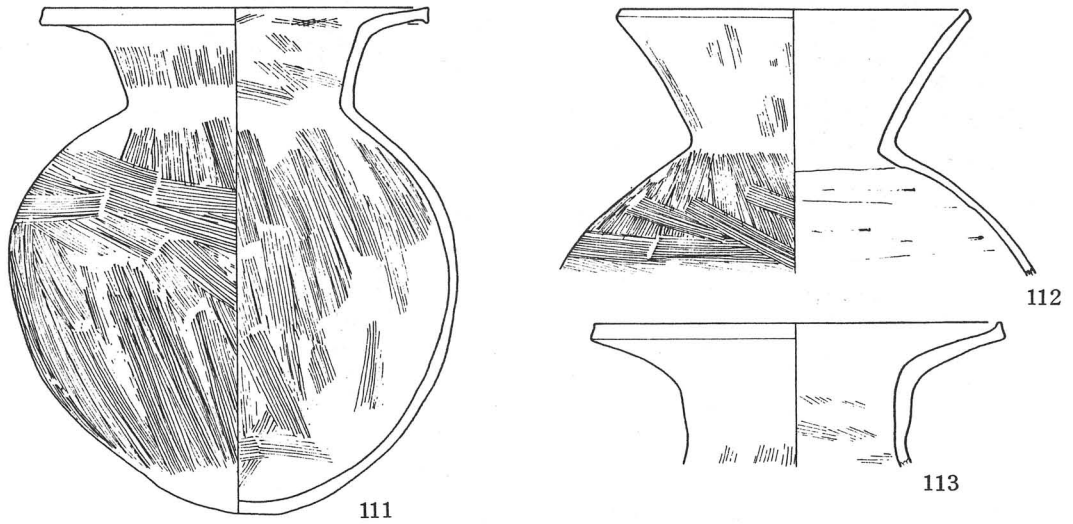
K グリッド



第41図 I・Kグリッド出土土器(1/4)



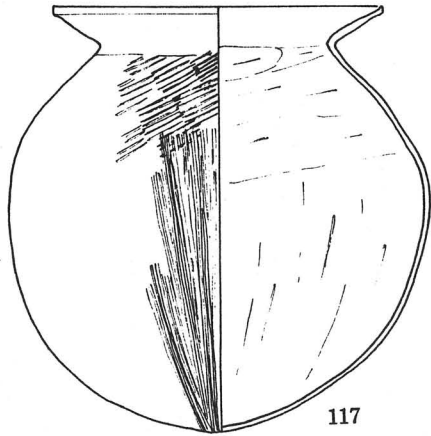
Kグリッド



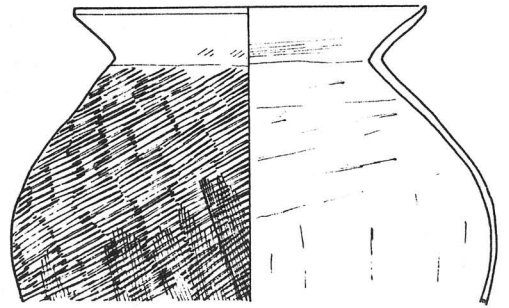
Mグリッド



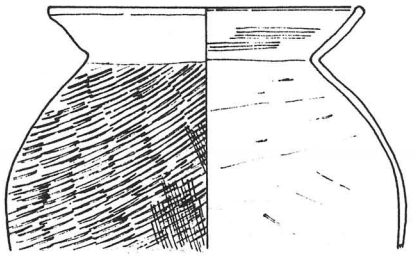
第42図 K・Mグリッド出土土器(1/4)



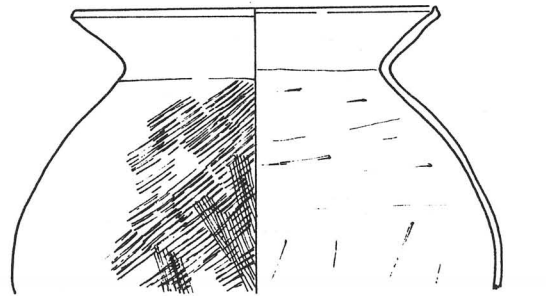
117



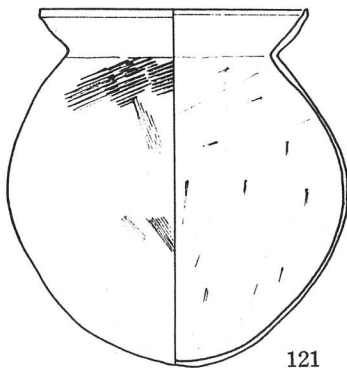
118



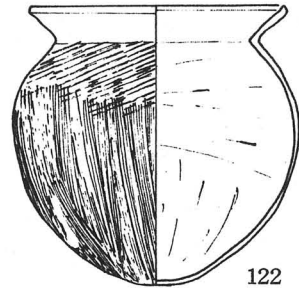
119



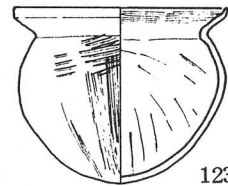
120



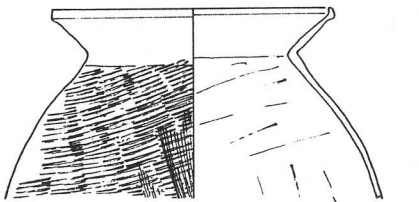
121



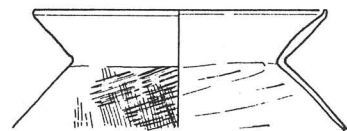
122



123

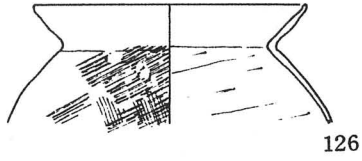


124

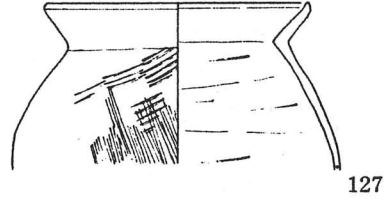


125

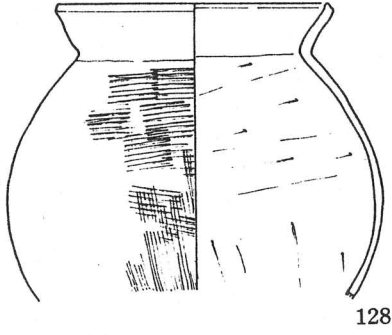
第 43 図 M グリッド 出土土器 (1/4)



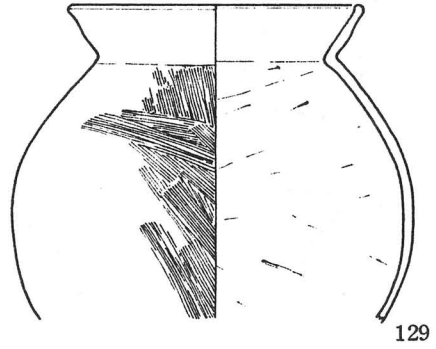
126



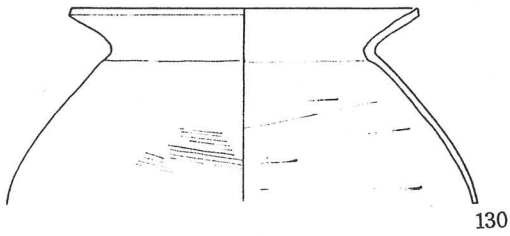
127



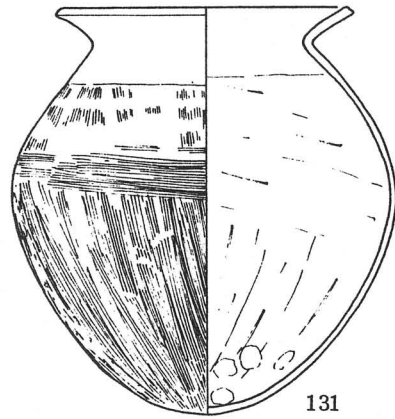
128



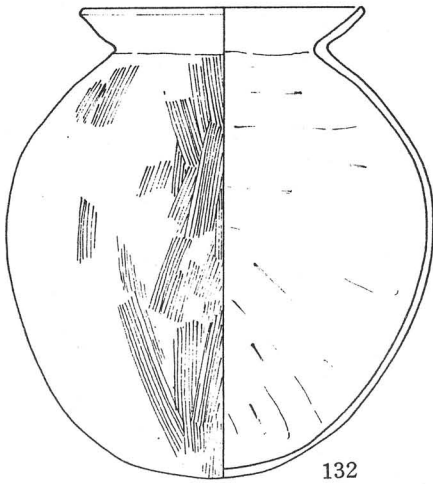
129



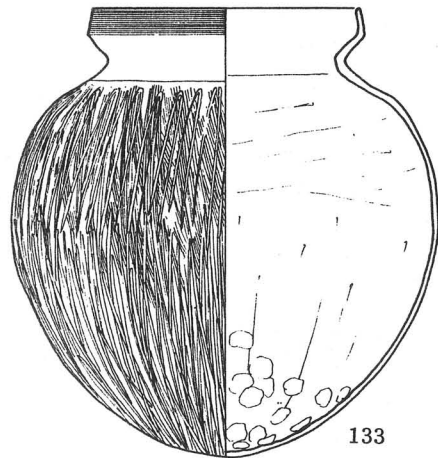
130



131



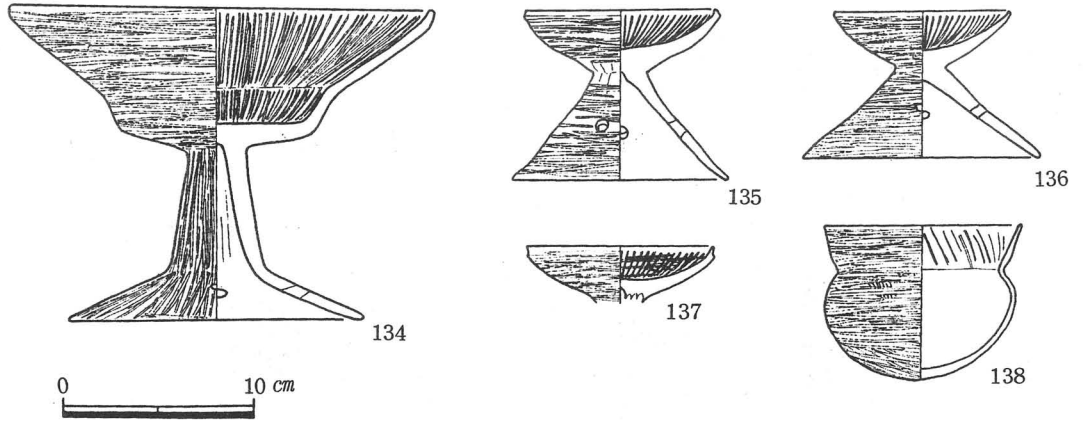
132



133



第44図 Mグリッド出土土器(1/4)



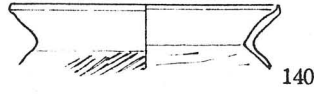
第45図 Mグリッド出土土器(1/4)

註

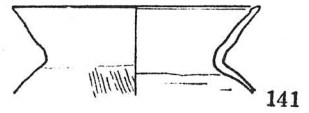
1. (財)八尾市文化財調査研究会「昭和58年度事業概要報告」(1984)
2. 大阪府教育委員会「中田遺跡発掘調査概要」(1986)
3. 八尾市教育委員会「八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書」(1987)
4. 八尾市教育委員会「昭和53・54年度埋蔵文化財発掘調査年報」(1981)
5. 八尾市教育委員会「八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ」(1987)
6. 註4と同じ



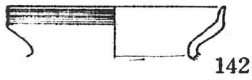
139



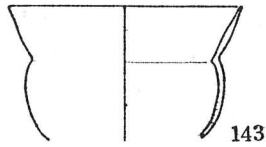
140



141



142



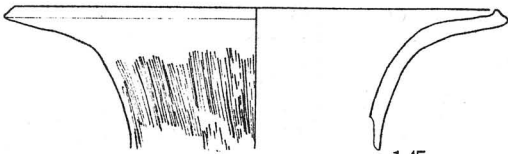
143

J グリッド

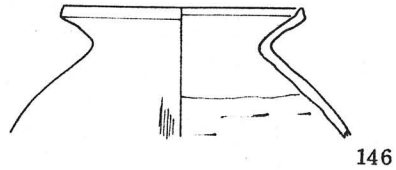


144

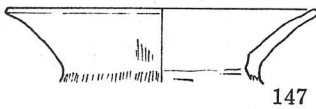
L グリッド



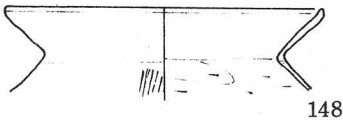
145



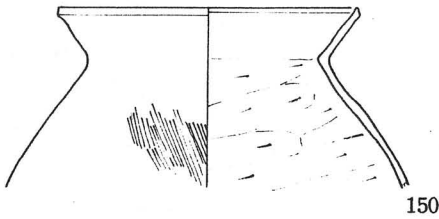
146



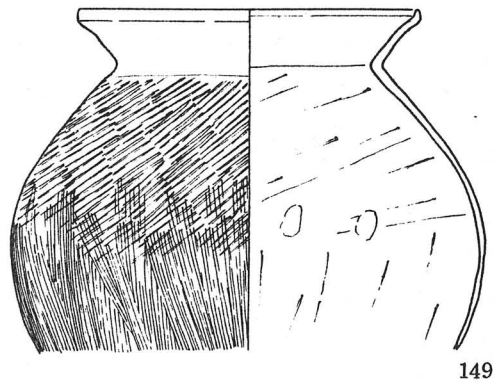
147



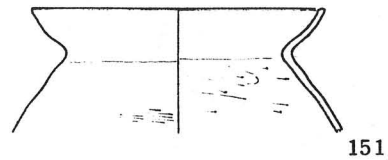
148



150



149



151

N グリッド



第 46 図 J・L・N グリッド 出土土器 (1/4)

第8表 中田遺積(86-532)出土遺物観察表

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
1	壺	推定口径 18.9(1/3)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケのち、櫛描波状文3本。 内 口縁部-ヨココナデ、頸部-ユビオサエ。体部-ナデ。	外・内-灰白色。断-黒褐色。白色砂粒(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。
2	甕	推定口径 16.6(1/6)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-タタキ(5本/cm)。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘラケズリのち、ユビオサエ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む、雲母(小・中)・角閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。
3	甕	推定口径 16.0(1/3)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-タタキ(4本/cm)のち、ハケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中・大)を少量含む、角閃石(小・中)、雲母(小・中)を微量含む。	焼成良好。
4	甕	推定口径 14.2(1/2)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-タタキ(5本/cm)のち、ハケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘラケズリ。	灰褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)、角閃石(小)、雲母(小)を少量含む。	焼成良好。口縁部~体部外面の一部に煤が付着。
5	甕	推定口径 16.4(1/3)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-タタキ(5本/cm)。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む、角閃石・雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部~体部外面の一部に煤が付着。
6	甕	口径 15.4(2/3)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-タタキ(6本/cm)。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)をやや多量含む、角閃石(小・中)・雲母(小・中)を少量含む。	口縁部~体部外面の一部、口縁部内面の一部に煤が付着。

7	甕	推定口径 15.4 (1/2)	外 口縁部ーヨココナデ。体部ータ タキ (5本/cm)。 内 口縁部ーヨココナデ。体部ーハ ラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中)・角閃石(小)・雲母 (小)をやや多量含む。	焼成良好。口縁部 内・外面に煤が付 着。
8	甕	口径 12.8 (ほぼ完存)	外 口縁部ーヨココナデ。体部ータ タキ (5~6本/cm)。 内 口縁部ーヨココナデ。体部ーハ ラケズリ。	灰褐色。生駒西麓。白色砂粒(小 ・中)・角閃石(小・中)・雲母 (小・中)をやや多量含む。	焼成良好。口縁部 外面の一部に煤が 付着。
9	甕	推定口径 13.0 (1/4)	外 口縁部ーユビオサエののち、 ヨココナデ。 内 口縁部ーヨココナデ。体部ーハ ラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中)、雲母(小・中)を少 量含む、角閃石(小・中・大)を やや多量含む。	焼成良好。口縁部 外面に煤が付着。
10	甕	推定口径 15.2 (1/5)	外 口縁部ーヨココナデ。 内 口縁部ーヨココナデ。体部ーハ ラケズリ。	にぶい褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中)・雲母(小・中)・角 閃石(小)を少量含む。	焼成良好。口縁部 外面の一部に煤が 付着。
11	甕	推定口径 13.2 (1/4)	外 口縁部ーヨココナデ。体部ータ タキ (5本/cm)ののち、ハ ケ。 内 口縁部ーヨココナデ。体部ーハ ラケズリ。	にぶい黄橙色。生駒西麓。白色砂 粒(小・中・大)を多量含む、角 閃石(小・中)・雲母(小・中) を少量含む。	焼成良好。口縁部 外面に煤が付着。
12	甕	推定口径 16.2 (1/2)	外 口縁部ーユビオサエののち、 ヨココナデ。 内 口縁部ーハケののち、ヨココ ナデ。体部ーハラケズリ。	にぶい褐色。白色砂粒(小)、雲 母(小)・角閃石(小)を少量含 む。	焼成良好。口縁部 外面の一部に煤が 付着。
13	甕	推定口径 16.4 (1/2)	外 口縁部ーヨココナデ。 内 口縁部ーヨココナデ。体部ーハ ラケズリ。	淡橙色。白色砂粒(小・中)・灰 色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
14	甕	推定口径 15.6 (1/2)	外 口縁部ーユビオサエののち、 ヨココナデ。 内 口縁部ーヨココナデ。体部ーハ ラケズリ。	明褐色。白色砂粒(小・中)・ 雲母(小・中)・角閃石(小・中) を少量含む。	焼成良好。口縁部 へ一部に煤 が付着。

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
15	甕	推定口径 12.4 (1/8)	外 口縁部一柳描直線文8本。頸部一ハケののち、ヨコナデ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	にぶい橙色。白色砂粒(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。
16	鉢	推定口径 10.6 (1/4)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケラナデ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ナデ。	外・内一橙色。断一灰白色。胎土精良。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。体部下半外面に黒斑。
17	小型丸底壺	口径 9.2 (ほぼ完存) 器高 7.0	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケののち、ナデ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	褐灰色。白色砂粒(小・中)をやや多量含む、雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。
18	小型丸底壺	推定口径 9.2 (1/3)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ナデ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ナデ。	外・内一淡橙色。断一灰白色。胎土精良。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
19	器台	口径9.4 (完存) 器高8.4 脚底径10.4	脚部に4孔。 外 受部一ハラミガキ。脚部一ハラナデののち、ハラミガキ。 内 受部一ヨコナデののち、ハラミガキ。脚部一ユビオサエハケののち、ナデ。	にぶい橙色。胎土精良。白色砂粒(小・中)・雲母(小・中)を微量含む。	焼成良好。
20	壺	推定口径 13.6 (1/4)	外 口縁部一ハケののち、ヨコナデ。体部一ハケ。 内 口縁部一ハケののち、ヨコナデ。体部一ハラケズリ。	にぶい褐色。白色砂粒(小・中)を少量、茶色砂粒(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。体部下半外面に煤が付着。

21	甕	推定口径 16.8 (1/4)	外 口縁部ーヨコナデ。体部ータ タキ (7本/cm)。 内 口縁部ーヨコナデ。体部ーハ ラケズリ。	褐灰色。生駒西麓。白色砂粒 (小 ・中)・雲母 (小)・角閃石 (小) を少量含む。	焼成良好。
22	甕	推定口径 9.0 (1/6)	外 口縁部ー櫛描直線文5本。 体部ーハケ。 内 口縁部ーヨコナデ。体部ーハ ラケズリ。	灰白色。白色砂粒 (小・中)・灰 色砂粒 (小・中)・雲母 (小)を 少量含む。	焼成良好。
23	甕	推定口径 16.2 (1/3)	外 口縁部ーヨコナデ。体部ータ タキ (7本/cm)。 内 口縁部ーヨコナデ。体部ーハ ラケズリ。	にぶい、黄褐色。生駒西麓。白色砂 粒 (小・中)をやや多量含む、雲 母 (小・中)・角閃石 (小・中) を少量含む。	焼成良好。
24	器台	推定口径 9.2 (2/3)	外 ヘラミガキ。 内 磨耗のため不明。	にぶい、橙色。白色砂粒 (小・中) を少量含む。	焼成良好。
25	器台	推定口径 16.0 (1/4)	外 ヨコナデ。 内 受部ーナデ。脚部ーハラケズ リ。	浅黄橙色。白色砂粒 (小・中)・ 雲母 (小・中)を少量含む。	焼成良好。
26	壺	推定口径 20.8 (1/4)	外 口縁部ーヨコナデ。頸部ーヨ コナデののち、ハラミガキ。 内 口頸部ーハケののち、ヨコナ デ。	浅黄橙色。白色砂粒 (小・中)を やや多量含む。	焼成良好。口縁部 外・内面の一部に 煤が付着。
27	壺	口径 14.8 (2/3)	外 口頸部ーハラミガキ。 内 口頸部ーナデ。	灰黄色。白色砂粒 (小・中)を少 量含む。	焼成良好。
28	壺	口径 21.4 (7/8)	外 口頸部ーハケののち、ヨコナ デ。 内 ヨコナデ。	橙色。白色砂粒 (小・中・大)を やや多量含む。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
29	壺	推定口径 19.0 (1/4)	外 口頸部一ハケののち、ヨコナデ。 内 口頸部一ヨコナデ。体部一ヘラケズリ。	明褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中・大)・雲母(小・中)・角閃石(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。口縁部外・内面に一部に黒斑。
30	壺	口径 17.2 (1/2)	外 口頸部一ハケののち、ヨコナデ。体部一ハケ。 内 口頸部一ハケののち、ヨコナデ。体部一ユビオサエののち、ヘラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中・大)を少量含み、雲母(小・中)、角閃石(小・中)を微量含む。	焼成良好。口縁部外・内面に煤が付着。
31	壺	推定口径 19.4 (1/3)	外 ヨコナデ。 内 ヨコナデ。	にぶい黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)をやや多量含み、雲母(小)・角閃石(小)を少量含む。	焼成良好。口縁部外面に黒斑。
32	壺	口径 17.6 (完存)	外 タタキ(4本/cm)、ハケののち、ヨコナデ。 内 ヨコナデ。	浅黄色。白色砂粒(小・中)を多量含み、雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。
33	甕	口径 3.8 (2/3)	外 体部一タタキ(3本/cm)。底部一ナデ。 内 体部一底部一ナデ。	にぶい黄褐色。白色砂粒(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。底部外・内面に煤が付着。
34	甕	口径 19.4 (2/3)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タタキ(7本/cm)。 内 口頸部一ヨコナデ。体部一ヘラケズリ。	にぶい黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)をやや多量含み、雲母(小)・角閃石(小)を少量含む。	焼成良好。
35	甕	口径 17.8 (完存)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タタキ(5本/cm)ののち、ハケ。 内 口縁部一ハケののち、ヨコナデ。体部一ヘラケズリ。	暗褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)・角閃石(小・中)をやや多量含み、雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。体部外面・底部内面に煤が付着。

36	甕	推定口径 16.6 (1/8)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ (6本/cm)。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	暗オリーブ褐色。生駒西麓。白色 砂粒(小・中)・角閃石(小・中) ・雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部 ・体部外面に煤が 付着。
37	甕	推定口径 15.0 (1/5)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ (8本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ハケのち、ヨコナ デ。体部一ハラケズリ。	灰褐色。生駒西麓。白色砂粒(小 ・中)・雲母(小・中)・角閃石 (小・中)をやや多量含む。	焼成良好。
38	甕	推定口径 14.2 (1/5)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ (7本/cm)。 内 口縁部一ハケのち、ヨコナ デ。体部一ハラケズリ。	橙色。白色砂粒(小)を少量含む。	焼成良好。口縁部 外面に煤が付着。
39	甕	推定口径 16.0 (1/5)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	灰白色。灰色砂粒(小・中)をや や多量含む。	焼成良好。口縁部 外面・体部上半外 面の一部に煤が付 着。
40	甕	推定口径 15.0 (1/3)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	浅黄褐色。白色砂粒(小・中)・ 茶色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。体部外 面に煤が付着。
41	甕	推定口径 13.2 (1/9)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ナ デ。 内 口縁部一ハケのち、ヨコナ デ。体部一ハラケズリ。	灰黄色。白色砂粒(小・中)・角 閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。
42	甕	推定口径 15.4 (1/4)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	にぶい黄褐色。白色砂粒(小・中) 角閃石(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。
43	甕	推定口径 15.0 (1/5)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	橙色。白色砂粒(小・中)を少量 含む、雲母(小)を微量含む。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
44	甕	推定口径 14.4 (1/6)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘラケズリ。	灰黄色。白色砂粒(小・中)・角閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。
45	甕	推定口径 15.2 (1/5)	外 口縁部-橢描直線文6本。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘラケズリ。	赤橙色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含み、雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部外・内面に煤が付着。
46	製塩土器	底径 4.8 (ほぼ完存)	外 ナデ。 内 ナデ。	灰白色。白色砂粒(小・中)をやや多量含み、角閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。
47	鉢	口径 11.6 (2/3) 器高 4.1	外 ユビオサエののち、ナデ。 内 ナデ。	橙色。白色砂粒(小・中)を多量含む。	焼成良好。体部外面に煤が付着。
48	鉢	推定口径 15.2 (1/3) 器高 5.2	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘラミガキ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘラミガキ。	浅黄橙色。胎土精良。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。体部外面に赤彩。
49	小型丸底壺	推定口径 11.6 (1/3) 器高 7.5	外 ナデののち、ヘラミガキ。 内 ナデののち、ヘラミガキ。	にぶい橙色。胎土精良。白色砂粒(小)を微量含む。	焼成良好。底部外面に黒斑。
50	小型丸底壺	口径 10.8 (2/3) 器高 7.2	外 ヘラミガキ。 内 口縁部-ヘラミガキ。体部-底部-磨耗のため調整不明。	浅黄橙色。胎土精良。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。

51	小型丸底壺	口径 10.8 (3/4) 器高 6.7	外 へラミガキ。 内 口縁部-へラミガキ。底部-ナデ。	浅黄橙色。胎土精良。白色砂粒 (小・中)を少量含む。	焼成良好。
52	小型丸底壺	口径 7.2 (1/2)	外 へラミガキ。 内 口縁部-へラミガキ。底部-磨耗のため調整不明。	浅黄橙色。胎土精良。白色砂粒 (小・中)を微量含む。	焼成良好。
53	器台	口径 10.3 (3/4) 器高 8.9 脚底径 13.0	脚部に4孔。 外 ハケののち、へラミガキ。 内 受部-ヨコナデののち、放射状へラミガキ。脚部-ハケののち、ナデ。	淡橙色。胎土精良。白色砂粒 (小・中)を微量含む。	焼成良好。
54	器台	口径 9.0 (完存)	外 へラミガキ。 内 受部-へラミガキ。脚部-ハケ。	にぶい橙色。胎土精良。	焼成良好。
55	高坏	推定口径 19.6 (1/4)	外 へラミガキ。 内 へラミガキ。	にぶい橙色。胎土精良。白色砂粒 (小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部外-内面の一部に黒斑。
56	壺	推定口径 21.0 頸部 (完存)	外 ハケののち、ヨコナデ。 内 ヨコナデ。	灰白色。白色砂粒 (小・中・大)を多量、雲母 (小)を少量含む。	焼成良好。
57	壺	頸部 (完存)	外 頸部-ハケののち、ヨコナデ。 内 体部-ハケ。 頸部-ハケののち、ヨコナデ。 体部-ナデ。	にぶい橙色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中)・雲母 (中)・赤色砂粒 (中)・角閃石 (小・中)を多量含む。	焼成良好。
58	壺	推定口径 16.2 (1/2)	外 口頸部-ヨコナデ。体部-ハケ。 内 口頸部-ヨコナデ。体部-ハケズリ。	浅黄色。白色砂粒 (小・中)・灰色砂粒 (小・中)を少量含む。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
59	壺	口径 17.4 (1/2)	外 ヨコナデ。 内 口頸部-ハケののち、ナデ。 体部-ナデ。	外・内-灰黄色。断-黄灰色。生駒西麓。白色砂粒(小・中・大)を多量に含み、雲母(小)・角閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。
60	壺	口径 16.4 (ほぼ完存)	外 口頸部-ハケののち、ヨコナデ。体部-ハケ。 内-口頸部-ヨコナデ。体部-ハラケズリ。	外・にぶい褐色。内・断-にぶい黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中・大)・角閃石(小・中)・雲母(小・中)を多量に含む。	焼成良好。
61	壺	推定口径 14.2 頸部 (4/5) 器高 18.2	外 ヘラミガキ。 内 口頸部-ハラミガキ。体部-底部-ハケ。	外-橙色。内・断-灰色。胎土精良。白色砂粒(小・中)をやや多量含み、茶色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。頸部~体部に黒斑。
62	壺	体部(完存)	外 ヘラケズリののち、ヘラミガキ。 内 剥離のため調整不明。	橙色。白色砂粒(小・中・大)・赤色砂粒(小・中・大)を多量に含む。	焼成良好。
63	甗	口径 15.4 (7/8) 器高 16.3	外 口縁部-ヨコナデ。体部-タタキ(8本/cm)ののち、ハラケ。 内 口縁部-ハケののち、ヨコナデ。体部-ハラケズリ。	にぶい褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)をやや多量含み、雲母(小・中)・角閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部~体部外面・体部下半内面に煤が付着。
64	甗	口径 14.0 (完存) 器高 18.8	外 口縁部-ヨコナデ。体部-タタキ(8本/cm)。 内 口縁部-ヨコナデ。体部-ハラケズリ。	褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)・角閃石(小・中)・雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部外面・体部下半内面に煤が付着。
65	甗	口径 14.4 (5/6)	外 口縁部-ヨコナデ。体部-タタキ(4本/cm)ののち、ハラケ。 内 口縁部-ヨコナデ。体部-ハラケズリ。	浅黄橙色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)・角閃石(小・中)・雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。

66	甕	推定口径 18.2 (1/2)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキのち、ハケ。 内 口縁部一ハケのち、ヨコナ デ。体部一ハラケズリ。	にぶい褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中)をやや多量含み、雲母 (小)・角閃石(小・中)を少量 含む。	焼成良好。
67	甕	推定口径 12.0 (1/4)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(6本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一 ハラケズリ。	淡赤橙色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中)・角閃石(小・中)・ 雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部 一 体部下半外面に 煤が付着。
68	甕	口径 14.8 (3/4)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(3本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ナ デ。	外一浅黄橙色～赤黒色。内一浅黄 橙色～褐色。断一明褐色。白色 砂粒(小・中・大)を多量含む。	焼成良好。体部外 面・体部下半内面 に煤が付着。
69	甕	推定口径 16.8 (1/3) 器高 19.8	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(2本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ナ デ。	灰白色。白色砂粒(小・中・大) ・茶色砂粒(小・中・大)を少量 含む。	焼成良好。体部下 半外面に煤が付着。
70	甕	推定口径 18.6 (1/2)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中)を 少量含む。	焼成良好。体部外 面に煤が付着。
71	甕	口径 13.8 (1/2) 器高 18.2	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケのち、楯描波状文(6本) 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	灰白色。白色砂粒(小・中)・茶 色砂粒(小・中)をやや多量含み 雲母(小・中)を微量含む。	焼成良好。体部下 半外・内面に煤が 付着。
72	甕	推定口径 18.4 (1/2)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	灰白色。白色砂粒(小・中・大) をやや多量含み、雲母(小)を微 量含む。	焼成良好。体部下 半外面に煤が付着。
73	甕	推定口径 14.4 (1/2)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中)・ 茶色砂粒(小・中)をやや多量含 み、雲母(小・中)を微量含む。	焼成良好。口縁部 一 体部外面の一部 に煤が付着。

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
74	甕	推定口径 16.6 (1/5)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケズリ。	灰白色、白色砂粒(小・中・大)をやや多量含み、雲母(小)を微量含む。	焼成良好。体部下半外面・体部下半内面に煤が付着。
75	甕	推定口径 17.0 頸部 (1/2)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケズリ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含み、雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部外・内面の一部、体部外面に煤が付着。
76	甕	口径 14.6 (完存)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケズリ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中)をやや多量含み、雲母(小)を少量含む。	焼成良好。口縁部~体部外面に煤が付着。
77	甕	推定口径 16.2 頸部(完存)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケズリ。	外-浅黄橙色。内・断一褐灰色。白色砂粒(小・中)・雲母(小)を多量含む。	焼成良好。
78	甕	推定口径 17.4 (1/6) 器高 22.8	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケズリ。	外-灰白色へにぶい橙色。内・断一にぶい橙色。白色砂粒(小・中・大)を多量、雲母(小)を少量含む。	焼成良好。体部下半外面に煤が付着。
79	甕	口径 14.2 (完存)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-剥離のため調整不明。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケズリ。	淡黄橙色。白色砂粒(小・中・大)・茶色砂粒(小・中・大)を多量、雲母(小)を少量含む。	焼成良好。口縁部~体部外面に煤が付着。
80	甕	口径 13.0 (完存)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ハケズリ。	灰白色。白色砂粒(小・中)・茶色砂粒(小・中)を多量、雲母(小)を少量含む。	焼成良好。体部外面の一部に煤が付着。

81	甕	推定口径 15.0 (1/8)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中)・雲母(小)を少量含む。	焼成良好。体部外面に煤が付着。
82	甕	推定口径 12.0 (1/6)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中)を少量含む、角閃石(小)を微量含む。	焼成良好。
83	甕	口径 14.7 (完存)	外 口縁部一楯描直線文7本。体部一ハケのち、ヘラミガキ 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	にぶい橙色～にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大)を多量、赤色砂粒(小・中)・雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部外面の一部、体部下半外面に煤が付着。
84	甕	推定口径 15.4 頸部 (1/6)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケのち、楯描波状文3本。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	外一浅黄橙色～にぶい橙色。内・断一灰白色。白色砂粒(小)・赤色砂粒(小)を多量、雲母(小)を少量含む。	焼成良好。口縁部・体部外面に煤が付着。
85	鉢	推定口径 40.0 (1/6)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケ。 内 口縁部一ハケのち、ヨコナデ。体部一ハケズリのちハケ。	灰白色～にぶい黄橙色。生駒西麓。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む、雲母(小・中)・角閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。体部外面の一部に煤が付着。
86	鉢 ?	推定口径 46.2 (1/8)	外 口縁部一ハケのち、ヨコナデ。体部一ハケのち、ナデ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	明褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)をやや多量含む、雲母(小・中)・角閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。
87	鉢	口径 15.8 (完存)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	淡褐色。胎土精良。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
88	高 环	口径 13.0 (5/6)	外 ヘラミガキ。 内 ヘラミガキのち、放射状ヘラミガキ。	橙色。胎土精良。白色砂粒(小)・赤色砂粒(小)・雲母(小)を少量含む。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
89	高坏	口径 13.0 (1/2)	外 へラミガキ。 内 坏部へラミガキののち、放射状へラミガキ。脚部へラミガキ。	橙色。胎土精良。白色砂粒(小・中)・赤色砂粒(小)・雲母(小)を少量含む。	焼成良好。
90	高坏	口径 17.4 (完存) 器高 9.5 脚底径 11.2	外 坏部へラミガキののち、ヨコナデ。 内 脚部へラミガキ。 内 坏部へラミガキ、ナデ。脚部へラミガキ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中)をやや多量、雲母(小・中)を微量含む。	焼成良好。脚部内面に煤が付着。
91	高坏	脚底径 14.4 (1/2)	外 ハケ。 内 ナデののち、ハケ。	外・内へラミガキ。断面へラミガキ。胎土精良。白色砂粒(小・中)を多量、赤色砂粒(小・中)・雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。
92	小型丸底壺	推定口径 10.6 (1/2) 器高 8.0	外 へラミガキ。 内 口縁部へラミガキ。体部へラミガキ。	へらみぎ。胎土精良。白色砂粒(小・中)・黒色砂粒(小・中)を微量含む。	焼成良好。
93	小型丸底壺	口径 11.4 (4/5)	外 へラミガキ。 内 口縁部へラミガキ。体部へラミガキ。	へらみぎ。胎土精良。白色砂粒(小)・赤色砂粒(小)・雲母(小)を少量含む。	焼成良好。
94	小型丸底壺	口径 10.8 (4/5) 器高 7.3	外 口縁部へラミガキ。体部へラミガキ。 内 口縁部へラミガキ。体部へラミガキ。	へらみぎ。胎土精良。白色砂粒(小)・赤色砂粒(小)・雲母(小)を少量含む。	焼成良好。
95	器台	口径 9.4 器高 8.7~8.9 脚底径 11.6 (ほぼ完存)	脚部に4孔。 外 へラミガキ。 内 受部へラミガキののち、放射状へラミガキ。脚部へラミガキ。	へらみぎ。胎土精良。白色砂粒(小・中)・赤色砂粒(小)・雲母(小)を少量含む。	焼成良好。

96	器台	口径 11.2 (完存)	外 へラミガキ。 内 へラミガキののち、放射状へ ラミガキ。	橙色。胎土精良。白色砂粒(小・中)・赤色砂粒(小・中)を多量含み、雲母(小)を少量含む。	焼成良好。
97	壺	推定口径 23.6(1/5)	外 口頸部一ハケののち、ヨコナ デ。 内 口頸部一ヨコナデ。体部一ナ デ。	にぶい橙色。白色砂粒(小・中)を多量含み、雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部内面・体部内面に煤が付着。
98	壺	口径 19.4(1/2)	外 ハケののち、ヨコナデ。 内 ヨコナデ。	灰白色。白色砂粒(小・中・大)を少量含み、雲母(小)を微量含む。	焼成良好。
99	壺	推定口径 16.2(1/3)	外 ハケののち、ヨコナデ。 内 ヨコナデ。	褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)をやや多量含み、角閃石(小・中)・雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。
100	甕	口径 17.0(5/6) 器高 23.1	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(6本/cm)ののち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)・角閃石(小・中)・雲母(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。口縁部 ～体部外面・体部 下半内面に煤が付 着。
101	甕	推定口径 15.2(1/4)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(5本/cm)ののち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)・角閃石(小・中)・雲母(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。体部外 面に煤が付着。
102	甕	口径 16.4(1/2)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(6本/cm)。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	明褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)をやや多量含み、角閃石(小・中)・雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。
103	甕	推定口径 16.2(1/4)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(5本/cm)。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ラケズリ。	にぶい黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)・角閃石(小・中)をやや多量含み、雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
104	甕	推定口径 14.6 (1/4)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-タ タキ(6本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部-ハケのち、ヨココ ナデ。体部-ヘラケズリ。	灰黄色。生駒西麓。白色砂粒(小 ・中)・角閃石(小・中)・雲母 (小・中)を少量含む。	焼成良好。
105	甕	推定口径 16.6 (1/4)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-タ タキ(6本/cm)。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘ ラケズリ。	黒褐色。生駒西麓。白色砂粒(小 ・中)・角閃石(小・中)・雲母 (小・中)を少量含む。	焼成良好。
106	甕	推定口径 15.2 (1/4)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-タ タキ(6本/cm)。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘ ラケズリ。	褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・ 中)・角閃石(小・中)・雲母 (小・中)をやや多量含む。	焼成良好。
107	甕	推定口径 10.4 (1/4)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ハ ケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘ ラケズリ。	橙色。白色砂粒(小・中)・茶色 砂粒(小・中)・雲母(小・中) を少量含む。	焼成良好。
108	甕	推定口径 15.0 (1/4)	外 口縁部-ヨココナデ。体部-ハ ケ。 内 口縁部-ヨココナデ。体部-ヘ ラケズリ。	外・断-灰白色。内-明褐色。 白色砂粒(小・中・大)・茶色砂 粒(小・中)・黒色砂粒(小・中) をやや多量含む。	焼成良好。
109	高坏	口径 12.7 (ほぼ完存)	外 ヘラミガキ。 内 磨耗のため調整不明。	にぶい橙。胎土精良。白色砂粒 (小・中・大)を少量含む。	焼成良好。
110	高坏	口径 9.4 (1/2)	外 受部-ヨココナデ。脚部-ナデ。 内 受部-ヨココナデ。脚部-シボ リメ、ナデ。	橙色。白色砂粒(小・中)を少量 含む。	焼成良好。

111	壺	口径 20.6 (1/2)	外 口頸部一ハケののち、ヨコナ デ。体部一ハケ。 内 口頸部一ハケののち、ヨコナ デ。体部一ハケ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中・大) をやや多量含み、灰色砂粒(小・ 中・大)・茶色砂粒(小・中・大) を少量含む。	焼成良好。体部下 半外面・体部下 内面に煤が 付着。
112	壺	口径 19.0 (完存)	外 口頸部一ハケののち、ヨコナ デ。体部一ハケ。 内 口頸部一ヨコナデ。体部一ハ ケズリ。	にぶい黄橙色。生駒西麓。白色砂 粒(小・中・大)・角閃石(小・ 中)・雲母(小・中)を多量含む。	焼成良好。体部上 半外面に黒斑。
113	壺	推定口径 21.6 (1/3)	外 ハケののち、ヨコナデ。 内 ハケののち、ヨコナデ。	明褐灰色。白色砂粒(小・中)・ 赤色砂粒(小・中)・雲母(小) を少量含む。	焼成良好。
114	甕	口径 11.8 (完存) 器高 12.1	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(2本/cm) 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ナ デ。	灰白色。白色砂粒(小・中)・雲 母(小)を少量含み、角閃石(小) を微量含む。	焼成良好。
115	甕	推定口径 13.2 体部 (1/4)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(3本/cm)。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ナ デ。	外・断一明褐灰色～褐灰色。内一 橙色～灰白色。白色砂粒(小・中 ・大)・茶色砂粒(小・中・大) ・灰色砂粒(小・中)を多量に含 み、赤色砂粒(小・中・大)を少 量含む。	焼成良好。体部下 半外面に煤が付着。
116	甕	推定口径 15.2 頸部 (完存)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(4本/cm)ののち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ナ デ。	灰黄褐色。黒色砂粒(小・中・大) をやや多量含み、茶色砂粒(小・ 中)を少量含む。	焼成良好。体部下 半外面に煤が付着。
117	甕	口径 17.8 (2/3) 器高 23.4	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(5本/cm)ののち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中)・雲母(小・中)・角 閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部 ～体部外面・底部 内面に煤が付着。
118	甕	口径 18.8 (ほぼ完存)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(6本/cm)ののち、ハ ケ。 内 口縁部一ハケののち、ヨコナ デ。体部一ハケズリ。	にぶい褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中・大)をやや多量含み、 雲母(小・中)・角閃石(小・中) を少量含む。	焼成良好。体部下 半外面・体部内 面に煤が付着。

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
119	甕	口径 16.6 (完存)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(7本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ハケのち、ヨコナ デ。体部一ヘラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中・大)をやや多量含み、 角閃石(小)・雲母(小)を少量 含む。	焼成良好。口縁部 ・体部下外面に 煤が付着。
120	甕	口径 18.8 (完存)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(6本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ヘ ラケズリ。	にぶい褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中・大)・雲母(小・中) ・角閃石(小・中)をやや多量含 む。	焼成良好。体部下 外面の一部に煤 が付着。
121	甕	口径 14.5 (完存) 器高 19.3	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(6本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ヘ ラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中)・雲母(小・中)・角 閃石(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。口縁部 ～体部外面・体部 内面に煤が付着。
122	甕	口径 13.6 (ほぼ完存) 器高 15.3	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(7本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ヘ ラケズリ。	灰白色。生駒西麓。白色砂粒(小 ・中)・雲母(小・中)・角閃石 (小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部 外面・体部外面・ 体部内面に煤が付 着。
123	甕	口径 11.6 (ほぼ完存)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(5本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ハケのち、ヨコナ デ。体部一ヘラケズリ。	灰白色。生駒西麓。白色砂粒(小 ・中)・角閃石(小・中)・雲母 (小・中)を少量含む。	焼成良好。体部外 面に黒斑。
124	甕	口径 17.0(1/2)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(6本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ヘ ラケズリ。	外一にぶい褐色。内・断一にぶい 橙色。白色砂粒(小・中・大)を やや多量含み、雲母(小・中)・ 角閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部 ～体部外面に煤が 付着。
125	甕	推定口径 15.4(1/5)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(7本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ヘ ラケズリ。	にぶい褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中・大)をやや多量含み、 角閃石(小・中)・雲母(小・中) を少量含む。	焼成良好。

126	甕	推定口径 14.4 (1/4)	外 口縁部一ヨココナデ。体部一タ タキ (7本/cm)。 内 口縁部一ヨココナデ。体部一ヘ ラケズリ。	にぶい、褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中・大)をやや多量含み、 角閃石(小・中)・雲母(小・中) を少量含む。	焼成良好。
127	甕	口径 13.6 (2/3)	外 口縁部一ヨココナデ。体部一タ タキ (5本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨココナデ。体部一ヘ ラケズリ。	外一にぶい黄橙色。内・断一灰色 生駒西麓。白色砂粒(小・中・大) ・角閃石(小)・雲母(小)を多 量に含む。	焼成良好。口縁部 ～体部外面に煤が 付着。
128	甕	口径 15.0 (完存)	外 口縁部一ヨココナデ。体部一タ タキ (5本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨココナデ。体部一ヘ ラケズリ。	灰白色。白色砂粒(小・中)・茶 色砂粒(小・中)を多量に含み、 赤色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
129	甕	口径 15.6 (7/8)	外 口縁部一ヨココナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨココナデ。体部一ヘ ラケズリ。	外・内一にぶい黄橙色。断一褐灰 色。白色砂粒(小・中)・茶色砂 粒(小・中)・雲母(小)を多量 に含む。	焼成良好。口縁部 ～体部外面に煤が 付着。
130	甕	推定口径 18.4 (1/4)	外 口縁部一ヨココナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨココナデ。体部一ヘ ラケズリ。	灰白色。白色砂粒(小・中)を少 量含む。	焼成良好。口縁部 ～体部外面に煤が 付着。
131	甕	口径 15.6 (3/4)	外 口縁部一ヨココナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨココナデ。体部一ヘ ラケズリ。底部一ユビオサエ。	外・内一浅黄橙色～淡赤橙色。断 一浅黄橙色。白色砂粒(小・中・ 大)・赤色砂粒(小・中・大)・ 雲母(小・中)を多量含む。	焼成良好。体部外 面に煤が付着。
132	甕	推定口径 15.0 頸部 (1/2) 器高 24.8	外 口縁部一ヨココナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨココナデ。体部一ヘ ラケズリ。底部一ユビオサエ のち、ヘラケズリ。	外・内一浅黄橙色～にぶい褐色。 断一褐灰色。白色砂粒(小・中・ 大)・赤色砂粒(小・中・大)を 多量に含み、雲母(小・中)を少 量含む。	焼成良好。口縁部 ～体部上半外面・ 体部下半内面に煤 が付着。
133	甕	推定口径 14.0 (1/4) 器高 23.4	外 口縁部一榊描直線文10本。 体部一ハケのち、ヘラミガ キ。 内 口縁部一ヨココナデ。体部一ヘ ラケズリ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中・大) ・茶色砂粒(小・中)を多量含み、 雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。体部下 半外面・体部下半 内面の一部に煤が 付着。

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
134	高坏	坏部口径 22.2(完存) 坏部高 7.4 器高 16.2~16.5 脚底径 17.3	脚部に4孔。 外ヘラミガキ。 内坏部-ヘラミガキ。脚部- ポリメ、ナデ。	外-橙色。内・断-ににぶい、 胎土精良。白色砂粒(小・中・大) を多量含み、赤色砂粒(小)・雲 母(小)を少量含む。	焼成良好。坏部外 面・脚部の一部 に煤が付着。
135	器台	受部口径 10.4(完存) 器高 9.3 脚底径 11.6	脚部に4孔。 外ヘラナデののち、ヘラミガキ。 内受部-放射状ヘラミガキ。脚 部-ナデ。	淡橙色。胎土精良。白色砂粒(小 ・中)を微量含む。	焼成良好。
136	器台	受部口径 9.4(4/5) 器高 7.7 脚底径 12.4	脚部に4孔。 外ヘラミガキ。 内受部-放射状ヘラミガキ。	橙色。胎土精良。白色砂粒(小・ 中・大)・雲母(小)・赤色砂粒 (小)を少量含む。	焼成良好。
137	器台	受部口径 10.0(完存)	外ヘラミガキ。 内ヘラミガキののち、放射状ヘ ラミガキ。	橙色。胎土精良。白色砂粒(小) ・赤色砂粒(小)・雲母(小)を 少量含む。	焼成良好。
138	小型丸底壺	口径 10.4(1/2)	外ハケののち、ヘラミガキ。 内口縁部-ヘラミガキ。体部- ナデ。	淡黄色。胎土砂粒。白色砂粒(小 ・中)・茶色砂粒(小・中)を微 量含む。	焼成良好。外面の 一部に赤色顔料付 着。
139	甕	推定口径 14.4(1/4)	外ヨコナデ。 内口縁部-ハケののち、ヨコナ デ。体部-ヘラケズリ。	灰黄褐色。白色砂粒(小・中)を やや多量含み、角閃石(小・中) ・雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。
140	甕	推定口径 14.4(1/4)	外口縁部-ヨコナデ。体部-タ タキ(7本/cm)。 内口縁部-ヨコナデ。体部-ヘ ラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒 (小・中)をやや多量含み、角閃 石(小・中)・雲母(小・中)を 少量含む。	焼成良好。外・内 面に煤が付着。

141	甕	推定口径 13.0 (1/5)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	灰黄色。白色砂粒(小・中)を少量含み、雲母(小)を微量含む。	焼成良好。
142	甕	推定口径 11.4 (1/4)	外 口縁部一楯描直線文6本。 内 口縁部一ヨコナデ。	にぶい橙色。白色砂粒(小・中)をやや多量含む。	焼成良好。
143	小型丸底壺	推定口径 12.6 (1/3)	外 ヨコナデ。 内 ヨコナデ。	にぶい橙色。胎土精良。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
144	甕	推定口径 16.4 (1/5)	外 ヨコナデ。 内 口縁部一ハケののち、ヨコナデ。体部一ハケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)・雲母(小・中)・角閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。口縁部一〜体部外面に煤が付着。
145	壺	推定口径 26.6 (1/4)	外 ハケののち、ヨコナデ。 内 ヨコナデ。	外・内一浅黄橙色。断一黒色。白色砂粒(小・中)を多量含み、雲母(小・中)・白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
146	壺	推定口径 13.0 (1/8)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケののち、ナデ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	灰白色。白色砂粒(小・中・大)・茶色砂粒(小・中)・雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。
147	壺	推定口径 16.6 (1/8)	外 ハケののち、ヨコナデ。 内 ハケののち、ヨコナデ。	外・内一灰白色。断一黒色。灰色砂粒(小・中・大)を多量含む。	焼成良好。
148	甕	推定口径 16.6 (1/5)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タタキ(6本/cm)。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一ハケズリ。	灰白色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)・雲母(小)・角閃石(小)を少量含む。	焼成良好。

遺物 番号	器 種	法量(現存率) 単位 cm	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 胎 土	焼 成 ・ 備 考
149	甕	口 径 18.0 (1/2)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一タ タキ(7本/cm)のち、ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一へ ラケズリ。	にふい黄褐色。生駒西麓。白色砂 粒(小・中・大)・雲母(小・中 ・大)・角閃石(小・中)を少量 含む。	焼成良好。体部下 半外・内面に煤が 付着。
150	甕	推定口径 16.0 (1/6)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一へ ラケズリ。	灰白色。白色砂粒(小・中)を少 量含む。	焼成良好。体部外 面に煤が付着。
151	甕	推定口径 15.4 (1/5)	外 口縁部一ヨコナデ。体部一ハ ケ。 内 口縁部一ヨコナデ。体部一へ ラケズリ。	灰白色。白色砂粒(小・中)・灰 色砂粒(小・中)・雲母(小)を 少量含む。	焼成良好。

9. 矢作遺跡（87-262）の調査

調査地 八尾市高美町3丁目42-1、43、44-1、44-4

調査期間 昭和62年9月25日～29日

1. 調査概要

本調査はレストラン建築に伴って実施した発掘調査である。本調査地の南側隣接地では昭和61年度に（財）八尾市文化財調査研究会が税務署建築に伴い発掘調査を実施しており、弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代～鎌倉時代の遺構・遺物が検出されている（註1）。北側に隣接する本調査地もこのような遺跡の状況が連続するものと考えられるが、周囲の水田面と比べかなりの高低差が認められることから、本調査地では盛土が厚く存在しており、建物基礎は盛土内におさまるものと考えられた。このため本調査地では浄化槽設置部分のみを対象に発掘調査を実施した。発掘調査は厚く存在する盛土等を機械掘削したのち、人力掘削によって行った。

土層の堆積は第49図のとおりである。まず盛土が約1mの厚さで存在しており、その下には旧耕土である青灰色細砂混じり粘土がみられ、以下、第3層淡灰青色砂質土、中世の遺物包含層である第4層灰茶色細砂混じり粘質土・第4層暗灰茶色細砂混じり粘質土、弥生時代後期～



第47図 調査地周辺図（1/5000）

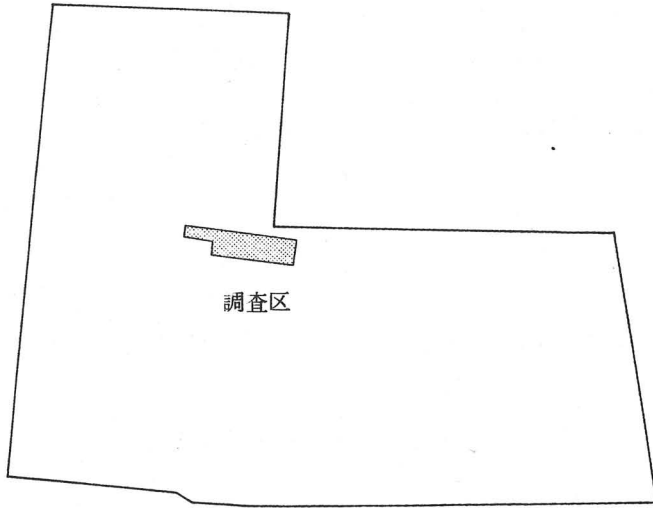
第9表 本調査地周辺の既応の調査一覧表

番号	調査地	調査主体	調査期間	調査原因	主な検出遺構・出土遺物	文献
1	八尾市中田1丁目	中田遺跡調査センター	昭和47年～49年	区画整理事業	弥生土器(後期)・古墳時代前～中期土壇・柱穴・井戸・堰中世掘立柱穴・井戸・溝・瓦集積	中田遺跡調査センター「中田遺跡」中田遺跡調査報告Ⅰ(1974)、八尾市教育委員会「中田遺跡」中田遺跡調査報告Ⅱ(1975)
2	八尾市青山町4丁目	(財)八尾市文化財調査研究会	昭和57年～62年	区画整理事業	弥生土器(中期)・弥生時代後期土坑・古墳時代前期土坑・落ち込み・小穴・溝奈良時代井戸・平安時代井戸・土坑・小穴・自然河川	(財)八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡」昭和57年度第1次調査報告書(1987)、(財)八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡」昭和58年度第2次調査、第3次調査報告書(1987)
3	八尾市高美町3-64-1	八尾市教育委員会	昭和61年3・4月	共同住宅建築	弥生時代後期溝・古墳時代前期溝・古墳時代後期掘立柱建物中世素掘り溝	八尾市教育委員会「八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ」(1987)
4	八尾市高美町3-46-1	(財)八尾市文化財調査研究会	昭和61年12月～昭和62年3月	税務署建築	弥生時代後期溝・古墳時代後期溝・平安時代～鎌倉時代井戸・掘立柱建物・土坑・池伏遺跡・溝	(財)八尾市文化財調査研究会「昭和62年度事業概要報告」(1988)
5	八尾市高美町4-141	(財)八尾市文化財調査研究会	昭和62年10月～11月	事務所建築	弥生土器(後期)・古墳時代初頭土坑・古墳時代後期溝・小穴・奈良時代河川	未報告
6	八尾市南本町6-10	八尾市教育委員会	昭和62年6月昭和63年1月	神社・社務所建て替え	中世瓦集積	本報告P12

古墳時代の遺物包含層である第5層灰褐色粘質土・第6層黄褐色粘質土、第7層暗灰褐色粘質土、第8層黄褐色粘質土がみられる。その下層には遺物を含まない第9層青灰色粘土、第10層黄褐色礫混り粗砂が続き、河川であったことがうかがわれる。弥生時代後期の遺構は第9層青灰色粘土上面で検出された。

弥生時代後期の遺構は小穴が1個(SP1)検出されたのみである。小穴(SP)1は平面形楕円形を呈し、長径50cm、短径25cm、深さ15cmを測る。底面直上から鉢(1)が口縁部を上に向けた状態で出土した。1の胎土はいわゆる生駒西麓のものではなく在地のものである。第V様式終末のものであろう。

また、第5層～第8層出土土器は脚付壺(2)・甕(3～9)・高坏(10)がみられる。3・7はいわゆる生駒西麓の胎土をもつ。甕(3～9)はいずれも体部上半に最大径をもち、器壁も4～5mmと厚く、タタキの幅も3～4本/cmと太いことから、第V様式終末のものであると思われる。10は高坏で坏部は碗形を呈す。胎土は比較的大きな砂粒をかなり含んでおり、精良ではない。



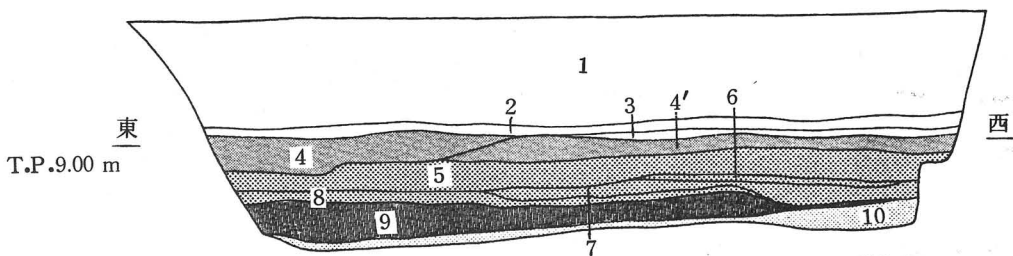
第 48 図 調査区位置図 (1/800)



2. まとめ

本調査地では弥生時代後期末の遺構・遺物を検出することができた。本調査地の南側隣接地では弥生時代後期の溝が検出されている。また、本調査地の東側では(財)八尾市文化財調査研究会が区画整理事業に伴って継続的に小阪合遺跡の発掘調査を実施しており、弥生時代後期末以降の遺構・遺物が検出されていることから、弥生時代後期末以降この辺り一帯に遺跡が広がっていたことがうかがわれる。また、本調査地では土層の堆積状況から弥生時代後期末以前は河川であったことが確認されたが、この河川は周辺の調査地(第47図)では1・2・4・5の調査地でも検出されている。しかし、本調査地の西方150mの3の調査地では河川は検出されていないことから、この河川の幅は約250mであったことがうかがわれる。また、この河川の東岸付近に作られた堰が1の調査地で検出されている(註2)。以上のことから、本調査地付近

ったことが確認されたが、この河川は周辺の調査地(第47図)では1・2・4・5の調査地でも検出されている。しかし、本調査地の西方150mの3の調査地では河川は検出されていないことから、この河川の幅は約250mであったことがうかがわれる。また、この河川の東岸付近に作られた堰が1の調査地で検出されている(註2)。以上のことから、本調査地付近

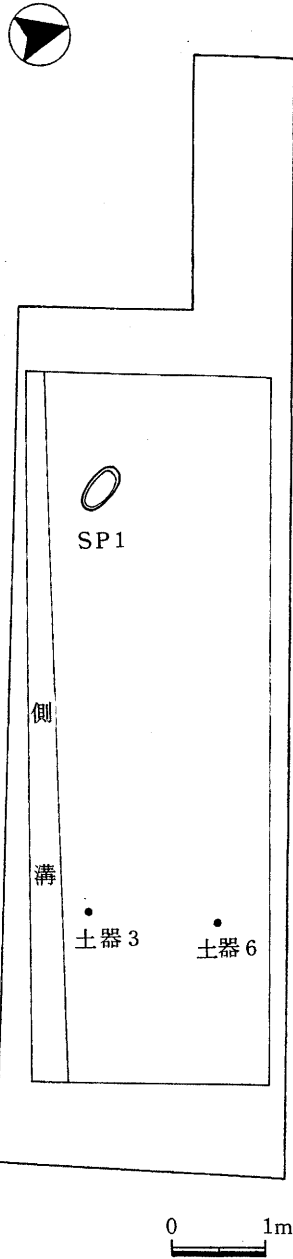


- 1 盛土
- 2 青灰色細砂混り粘土(旧耕地)
- 3 淡灰青色砂質土
- 4 灰茶色細砂混り粘質土 } 中世遺物
- 4' 暗灰茶色細砂混り粘質土 } 包含層

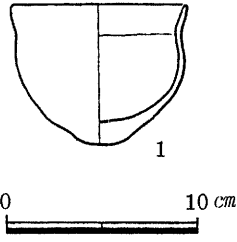
- 5 灰褐色粘質土
 - 6 黄褐色粘質土
 - 7 暗灰褐色粘質土
 - 8 黄褐色粘質土
 - 9 青灰色粘土
 - 10 黄褐色礫混り粗砂
- } 弥生時代後期
} 古墳時代
} 遺物包含層



第 49 図 南壁土層断面図 (1/80)



第50図 調査区平面図
(1/80)

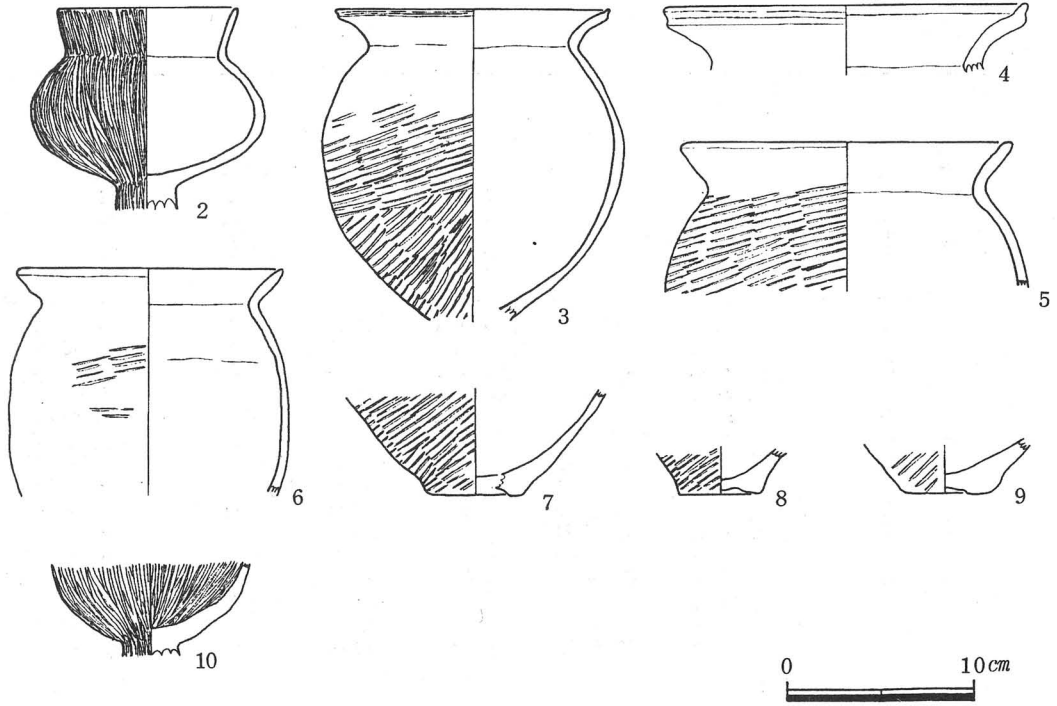


第51図 小穴 (SP) 1
出土土器 (1/4)

註

1. (財) 八尾市文化財調査研究会「昭和61年度事業概要報告」(1987)
2. 中田遺跡調査センター「中田遺跡」中田遺跡調査報告 I (1974)

では弥生時代後期末以前は河川の氾濫原であり、この河川の一部には堰が設置され、利用されていたが、河川の廃絶後、弥生時代後期末以降人間の生活域となっていたものと思われる。
(鳴村)



第52図 第5層～第8層出土土器(1/4)

第10表 矢作遺跡(87-262)出土遺物観察表

遺物番号	器種	法量(現存率) 単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
1	鉢	口径 8.4 (ほぼ完存)	外 ナデ。 内 ナデ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
2	台付壺	推定口径 9.6(1/6)	外 ヘラミガキ。 内 ナデ。	外・断一茶褐色。内一浅黄橙色。白色砂粒(小・中)をやや多量、灰色砂粒(小・中)を少量含む。	焼成良好。
3	甕	推定口径 14.4(1/4)	外 口縁部-ヨコナデ。体部-タタキのうち、一部ナデ。 内 ヨコナデ。	褐色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量、角閃石(小・中)、雲母(小)を微量含む。	焼成良好。
4	甕	推定口径 19.2(1/2)	外 ヨコナデ。 内 ヨコナデ。	暗褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中)をやや多量、角閃石(小・中)、雲母(小・中)を少量含む。	焼成良好。
5	甕	推定口径 17.4(1/3)	外 口縁部-ヨコナデ。体部-タタキ。 内 口縁部-ヨコナデ。体部-ナデ。	褐色。白色砂粒(小・中)を少量、雲母(小)、角閃石(小)を微量含む。	焼成良好。
6	甕	推定口径 14.0(1/5)	外 口縁部-ヨコナデ。体部-タタキのうち、一部ナデ。 内 口縁部-ヨコナデ。体部-ナデ。	浅黄橙色。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む。	焼成良好。
7	甕	底部 5.2(1/2)	外 体部-タタキ。底部-ナデ。 内 ナデ。	暗褐色。生駒西麓。白色砂粒(小・中・大)をやや多量含む、雲母(小・中)、角閃石(小・中)を少量含む。	焼成良好。

8	甕	底径 4.4 (完存)	外 体部一タタキ。底部一ナデ。 内 ナデ。	褐色。白色砂粒(小・中・大)を少量含む。	焼成良好。
9	甕	底径 4.8 (完存)	外 体部一タタキ。底部一ナデ。 内 ナデ。	外・断一にぶい黄橙色。内一黒色白色砂粒(小・中・大)を多量含む、雲母(小・中)を微量含む。	焼成良好。
10	高 坏	坏部体部(完存)	外 ヘラミガキ。 内 ヘラミガキ。	にぶい黄橙色。白色砂粒(小・中・大)、灰色砂粒(小・中・大)をやや多量含む。	焼成良好。

10. 太子堂遺跡(87-152)の調査

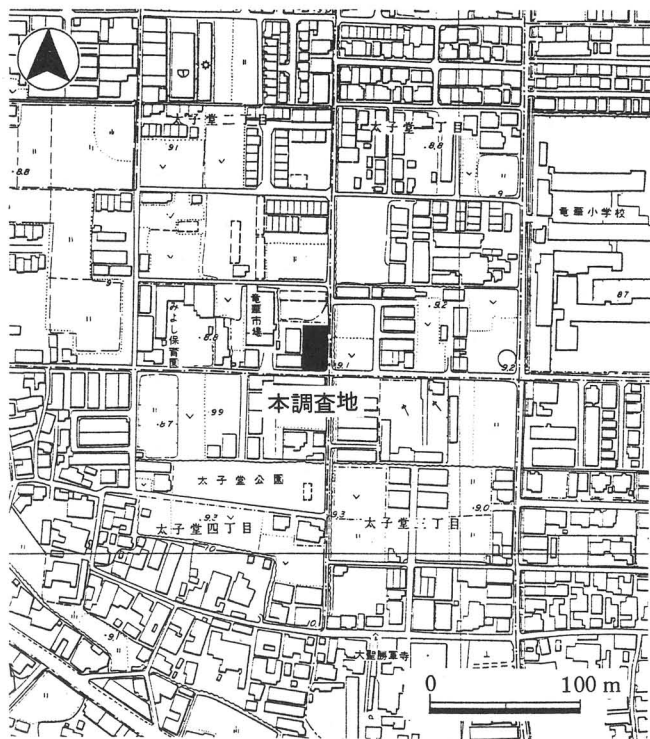
調査地 八尾市太子堂2丁目35-2

調査期間 昭和62年10月21日

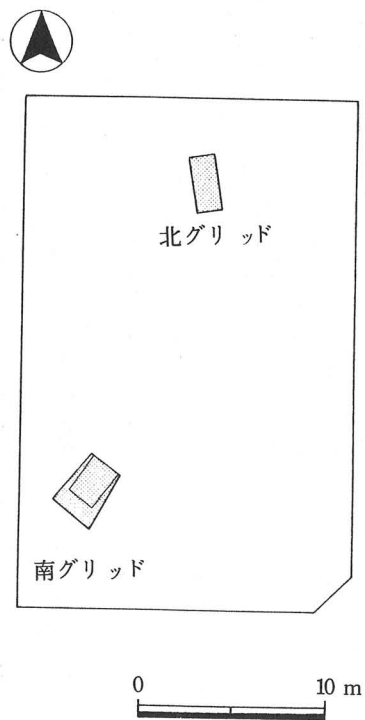
1. 調査概要

本調査は共同住宅建築に伴って実施した遺構確認調査である。調査地の東方400mの地点では共同住宅建築に伴って発掘調査を実施しており、中世の溝、奈良時代の井戸・柱穴・落ち込み、古墳時代の遺物包含層が検出されている(註1)。また、調査地の西方300mの地点では社員寮建設に伴って発掘調査が実施されており、平安時代末以前に埋没したと思われる河川と平安時代末～鎌倉時代の井戸・土坑・溝・小穴群が検出されている(註2)。本調査地では建物部分内に南・北2ヶ所の試掘坑を設定し(第54図)、機械及び人力掘削によって深さ3mまで調査を行った。

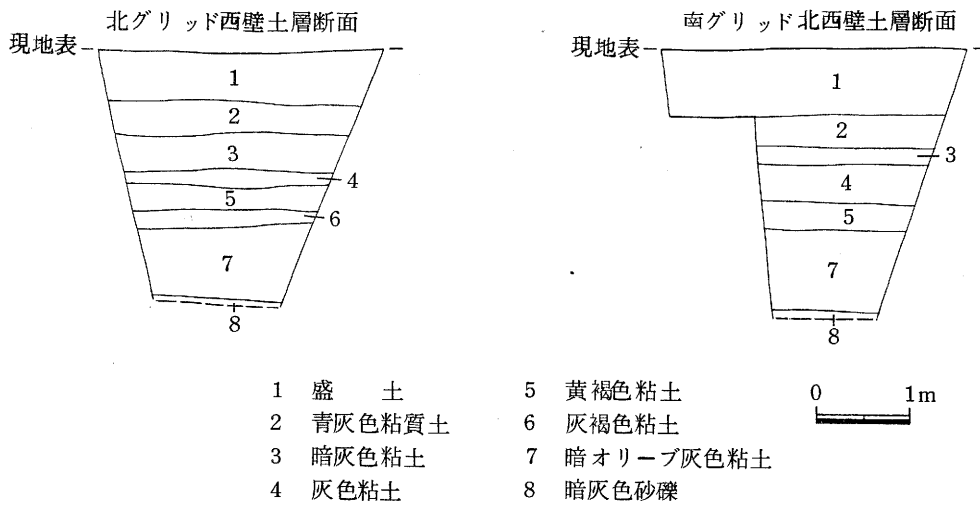
本調査地の南・北両グリッドの土層の堆積状況は第55図のとおりである。現地表下70～80cmの深さまで盛土が存在し、その下層には第2層青灰色粘質土(旧耕土)、第3層暗灰色粘土、



第53図 調査地周辺図(1/5000)



第54図 調査区位置図(1/400)



第 55 図 土層断面図 ($\frac{1}{80}$)

第 4 層灰色粘土、第 5 層黄褐色粘土が続く。その下層には第 6 層灰褐色粘土が北トレンチにのみ存在し、第 7 層暗オリーブ灰色粘土、第 8 層暗灰色砂礫が堆積する。遺物はいずれの層からも出土しなかった。

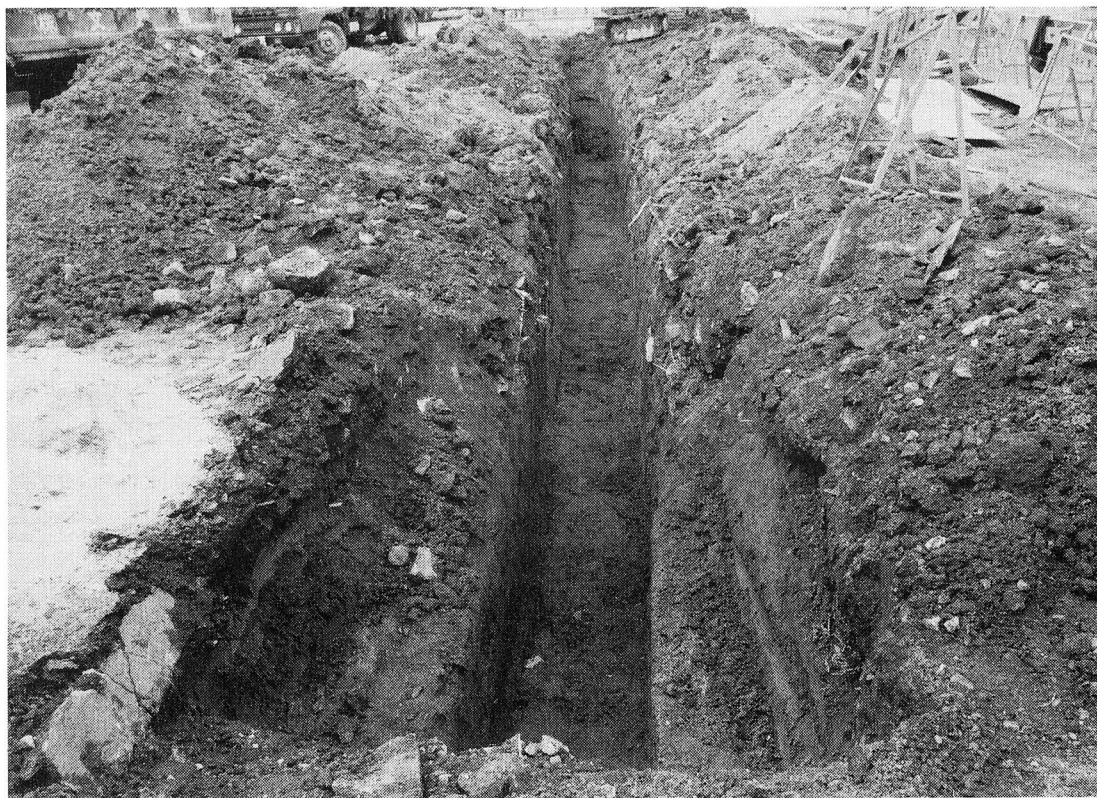
2. まとめ

本調査地では現地表より 3 m 下には砂礫層が存在し、その上層は粘土の堆積が続いており、遺構・遺物は検出されなかった。本調査地の南西 200 ~ 300 m の地点には旧奈良街道が走り、この街道に面して旧集落が形成されている。この旧奈良街道は昭和 58・59 年度に (財) 八尾市文化財調査研究会・八尾市教育委員会が行った発掘調査によって平安時代末以前に埋没した河川が形成した自然堤防上を走るものであることがわかった。本調査地付近は地主の方のお話では宅地造成以前は沼であったということで、試掘調査の結果でも盛土下 2 m までは粘土の堆積が続いており、その状況が確認された。

これらのことから、本調査地付近は奈良街道の下を流れていた河川の形成する自然堤防からは大きく離れ、その背景に存在する後背湿地であったものと思われる。(嶋村)

註

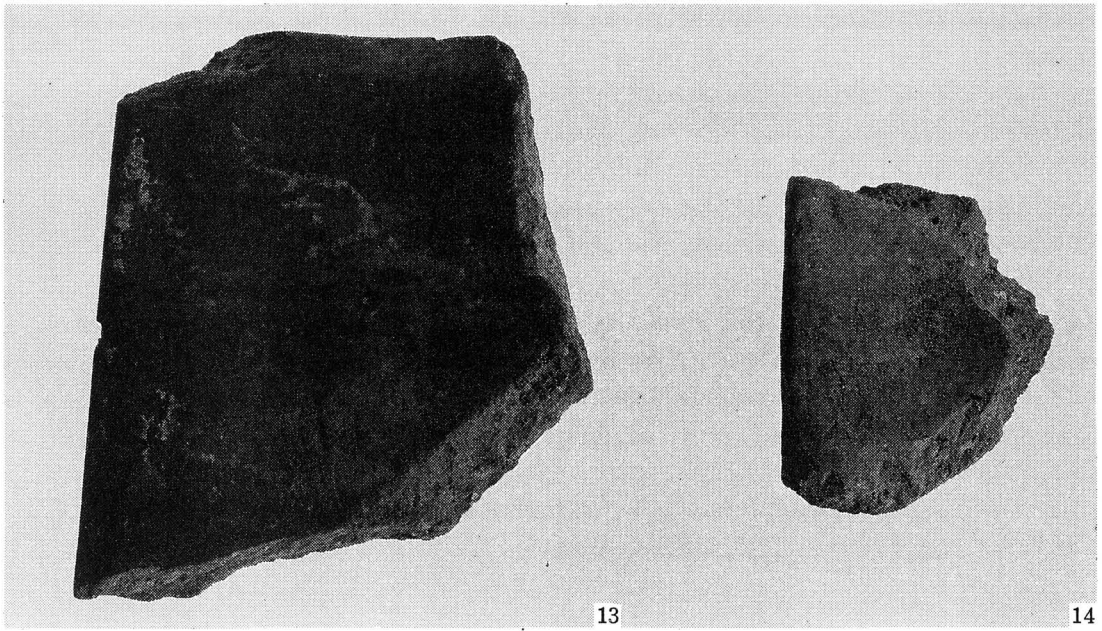
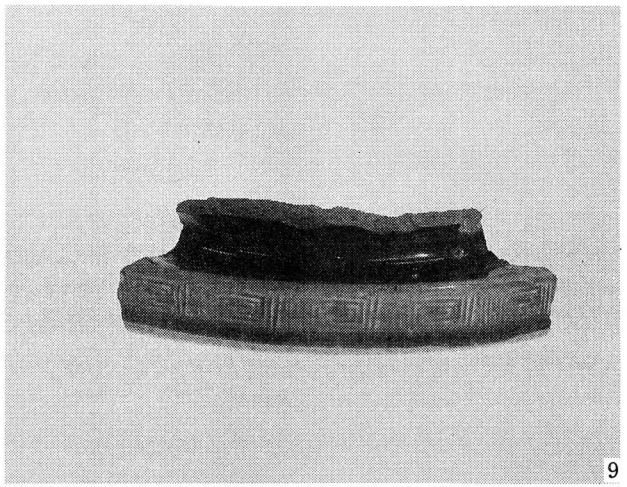
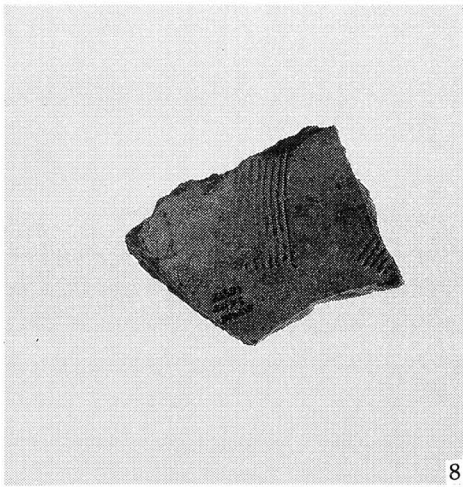
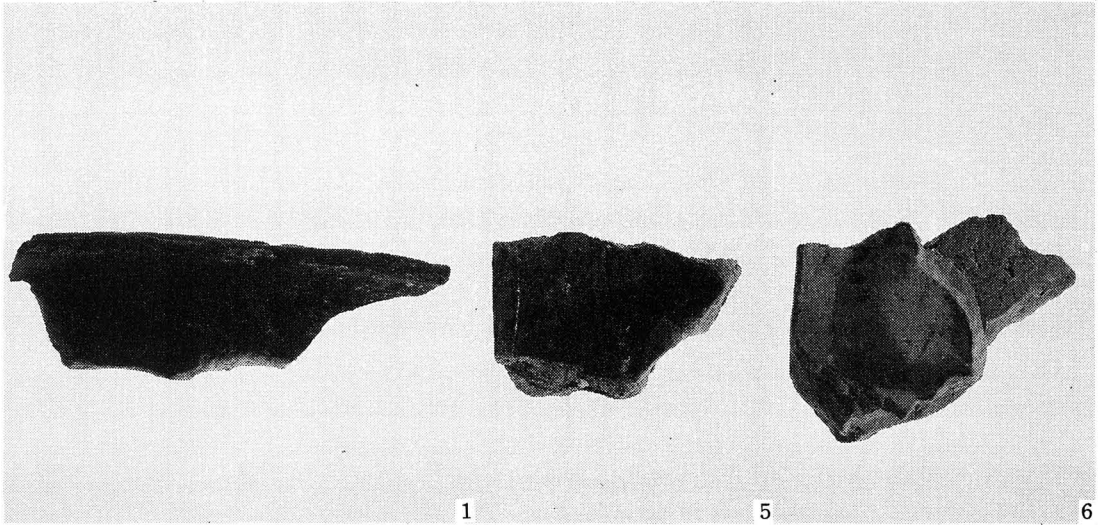
1. (財) 八尾市文化財調査研究会「昭和 58 年度事業概要報告」(1984)
2. (財) 八尾市文化財調査研究会「昭和 58 年度事業概要報告」(1984)
八尾市教育委員会「八尾市内遺跡昭和 59 年度発掘調査報告書」(1985)



掘削状況 (南から)



土層堆積状況 (西から)





西トレンチ掘削状況（北西から）



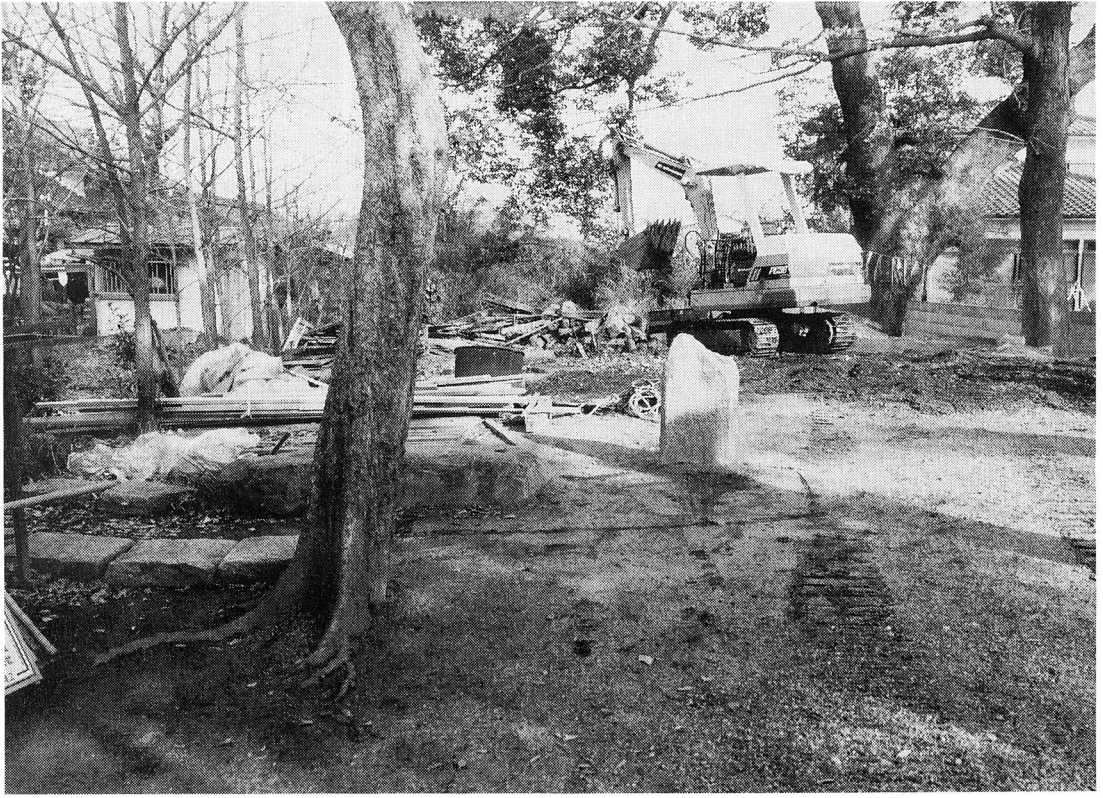
西トレンチ西壁土層断面（東から）



西トレンチ瓦集積検出状況（北から）



西トレンチ全掘状況（北から）



東トレンチ掘削前（南から）



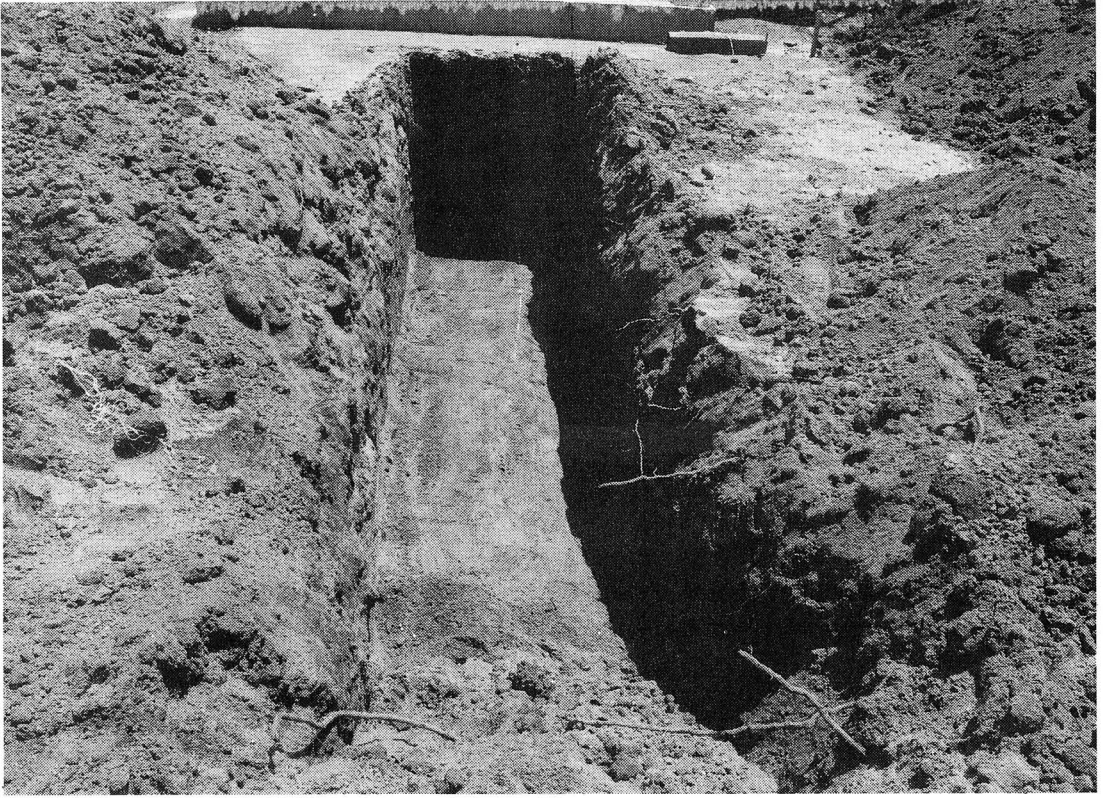
経碑（南から）



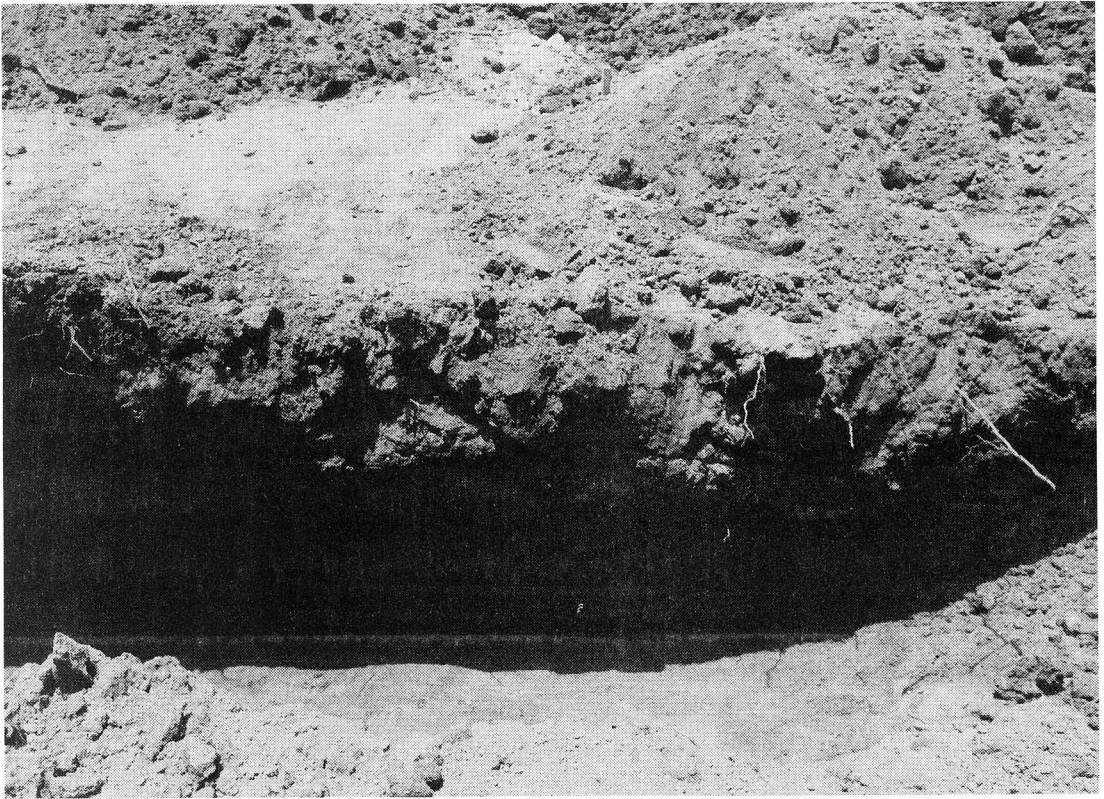
東トレンチ瓦集積検出状況（南から）



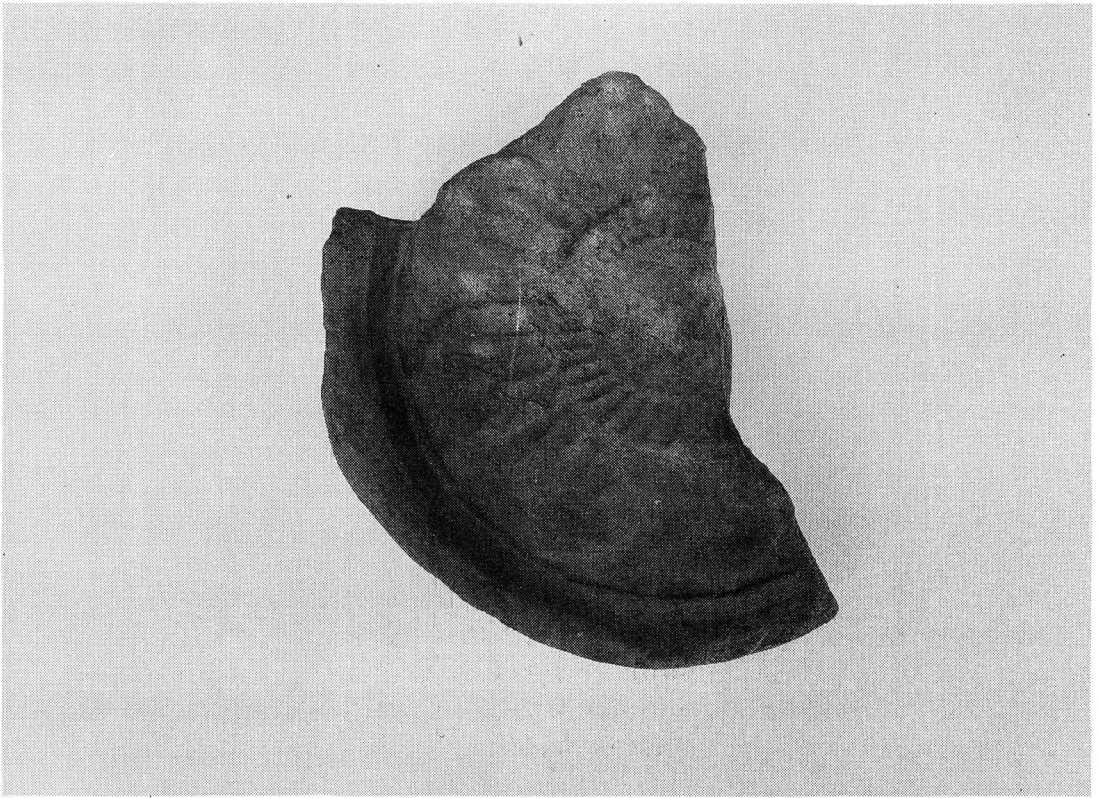
東トレンチ全掘状況（東から）



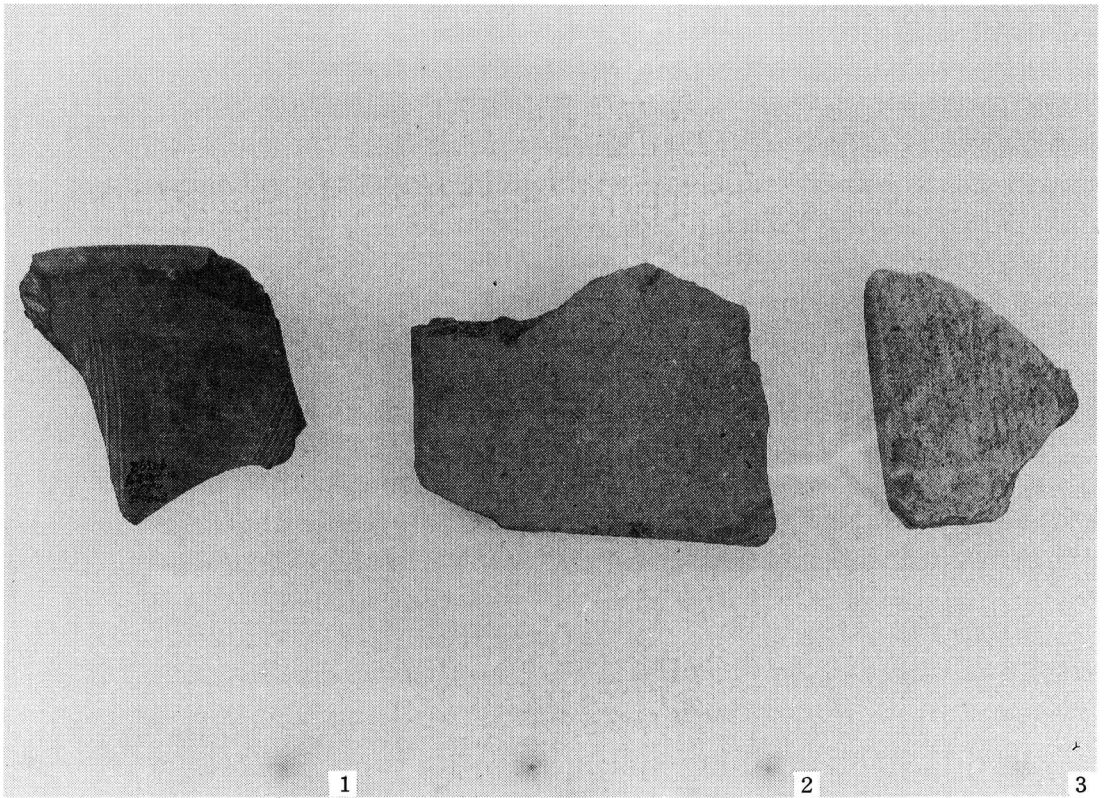
拝殿トレンチ掘削状況（西から）



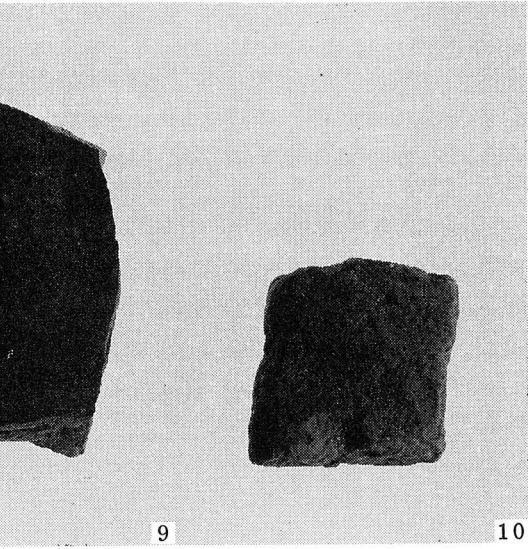
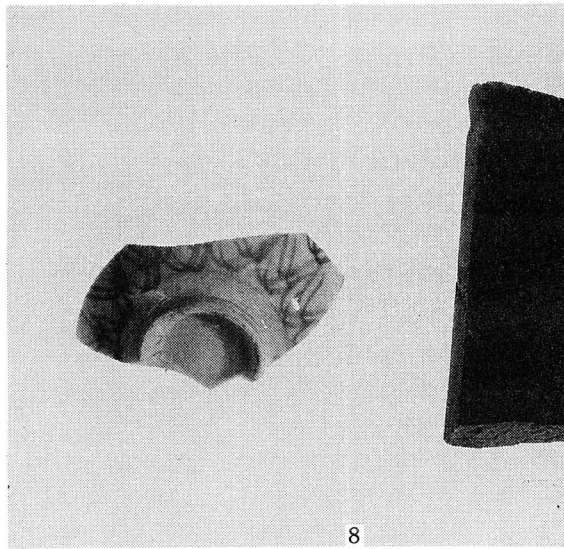
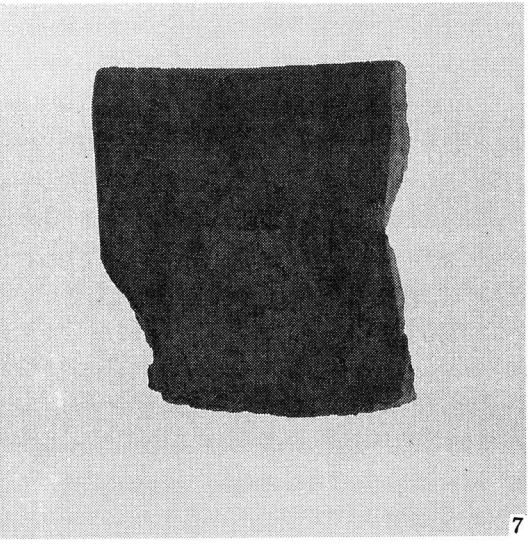
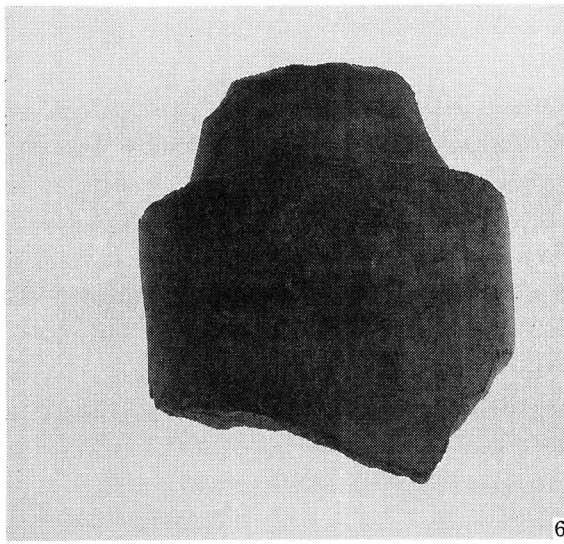
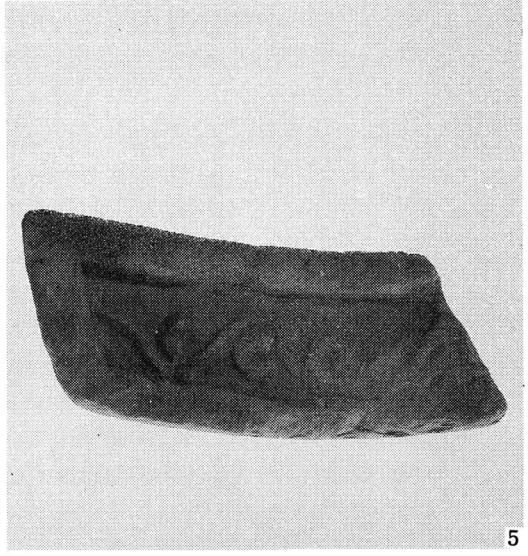
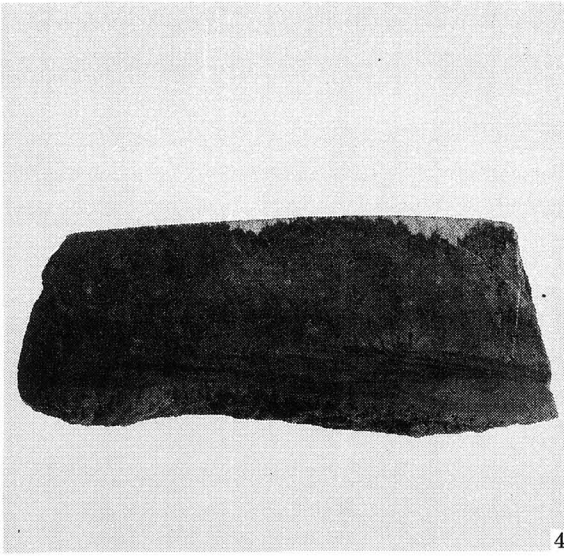
拝殿トレンチ土層堆積状況（北から）

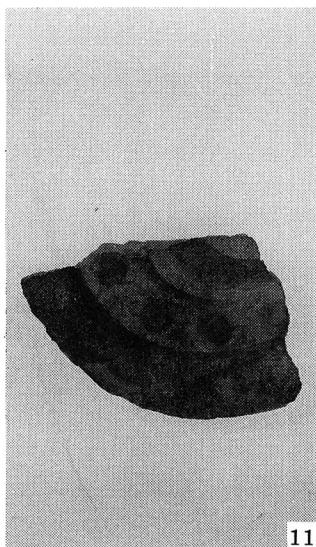


矢作神社境内採集瓦

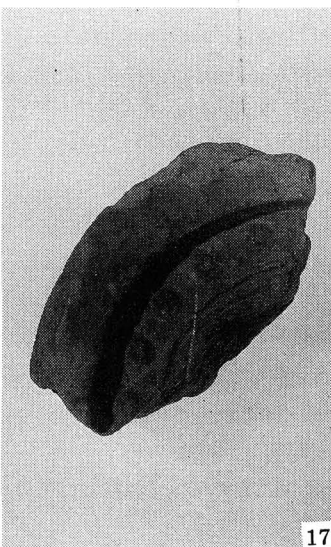


出土遺物

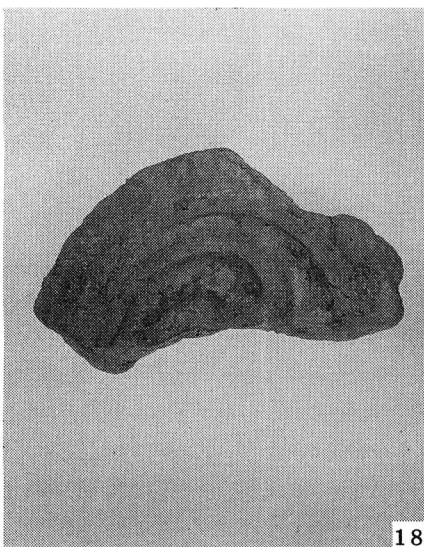




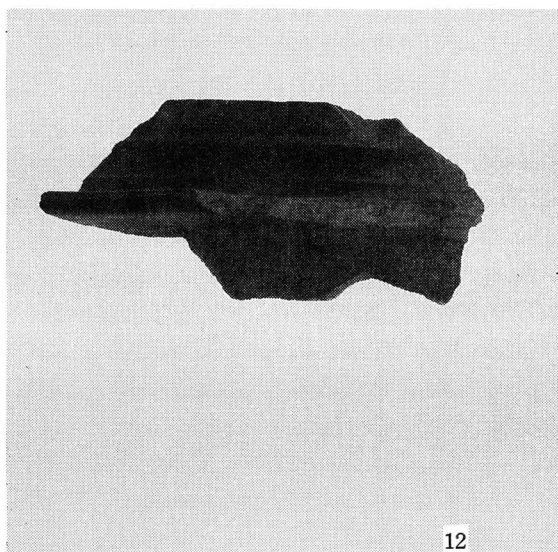
11



17



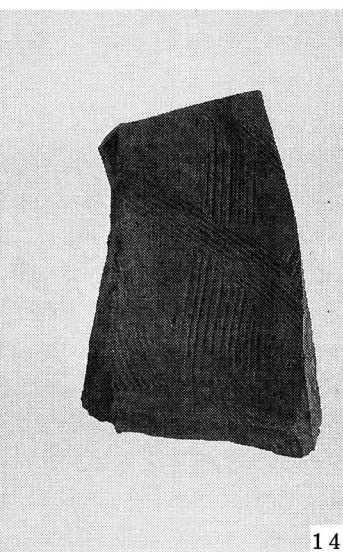
18



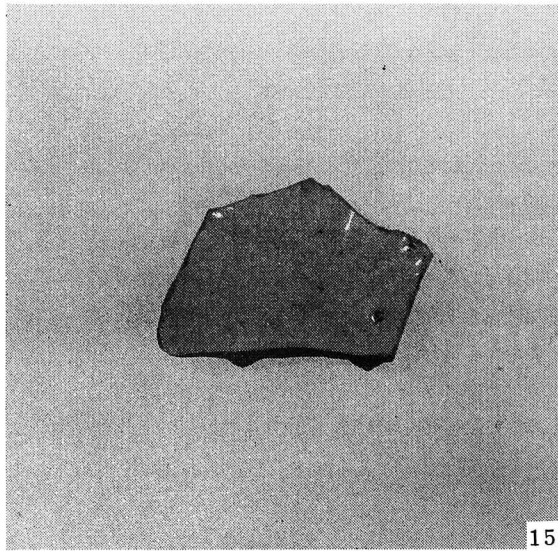
12



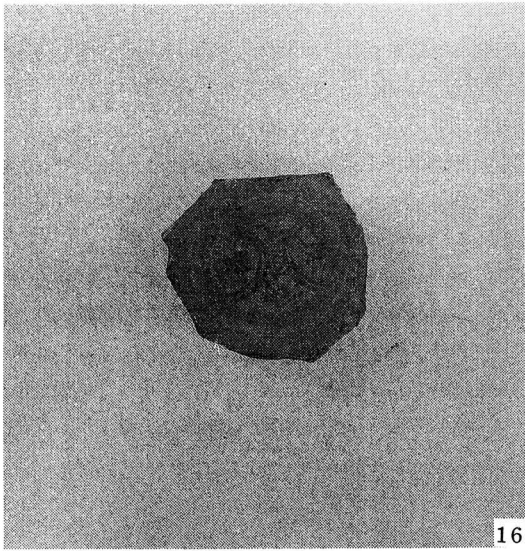
13



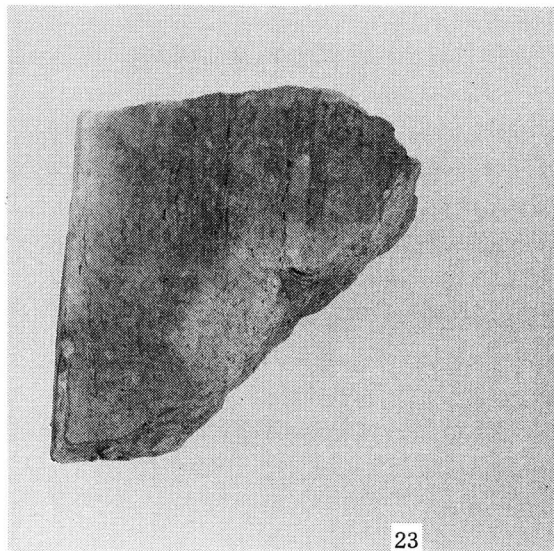
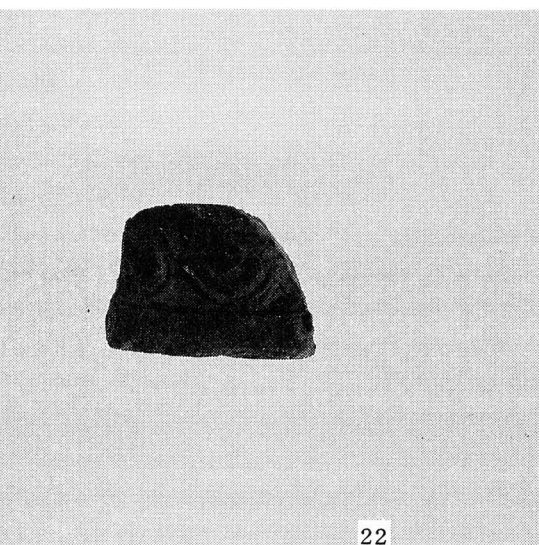
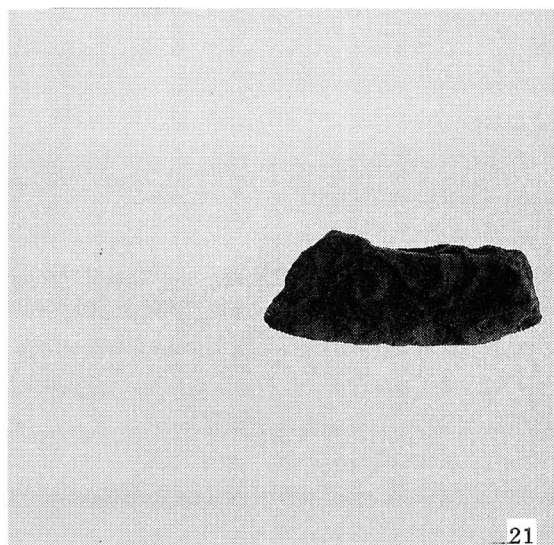
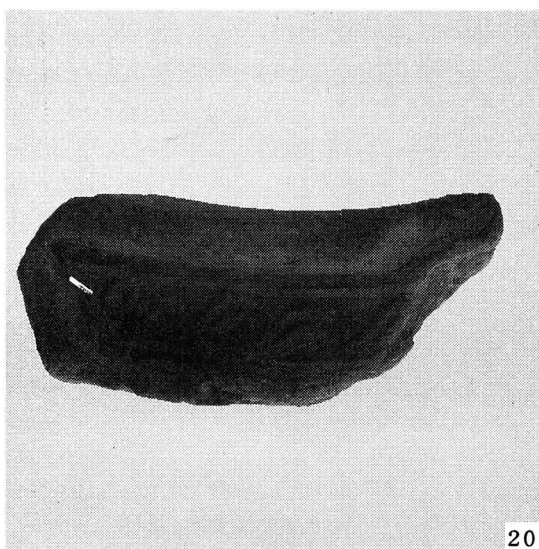
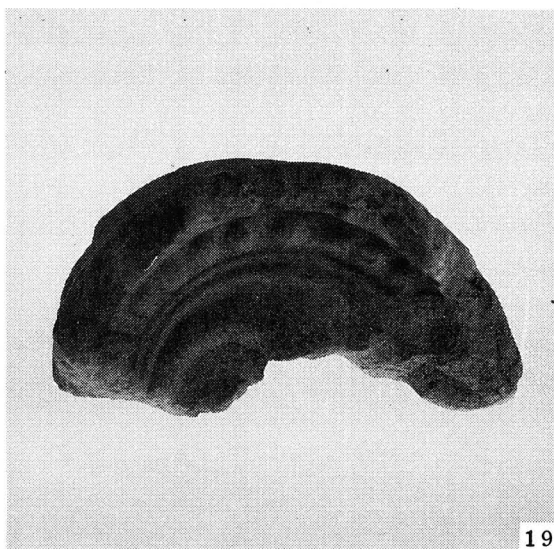
14



15



16





第1トレンチ全景（西から）



第3トレンチ全景（西から）



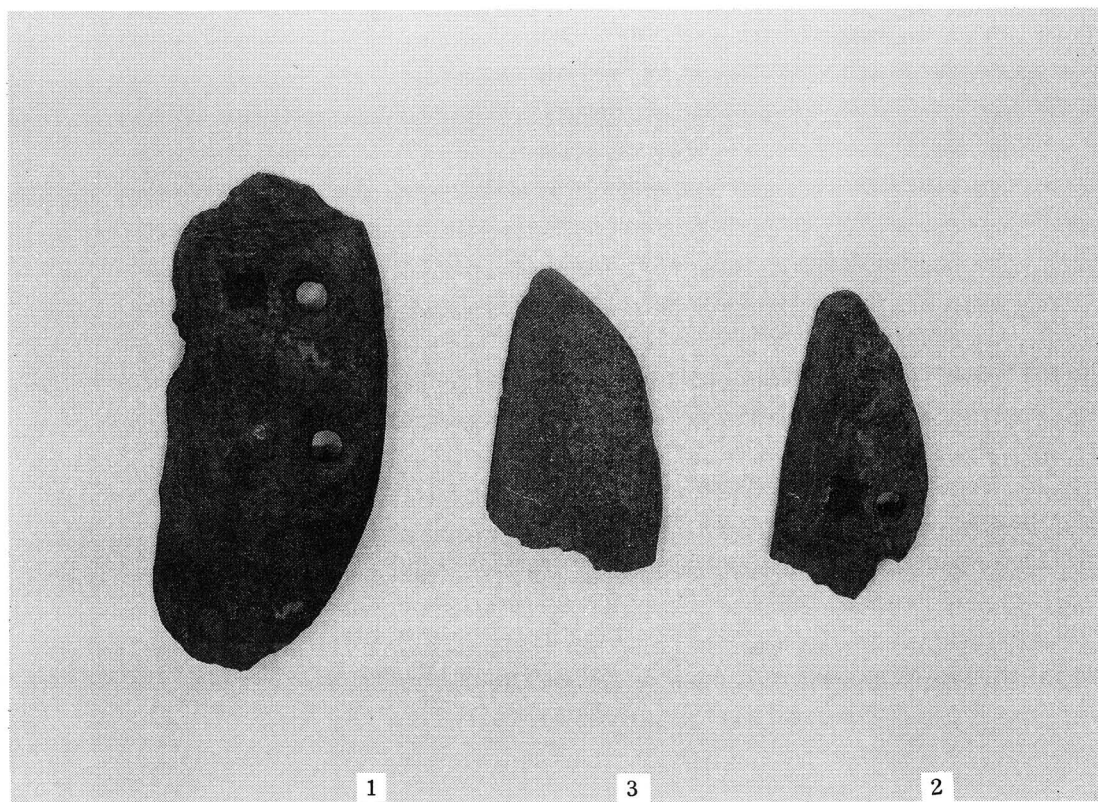
掘削状況（北西から）



土層堆積状況（西から）



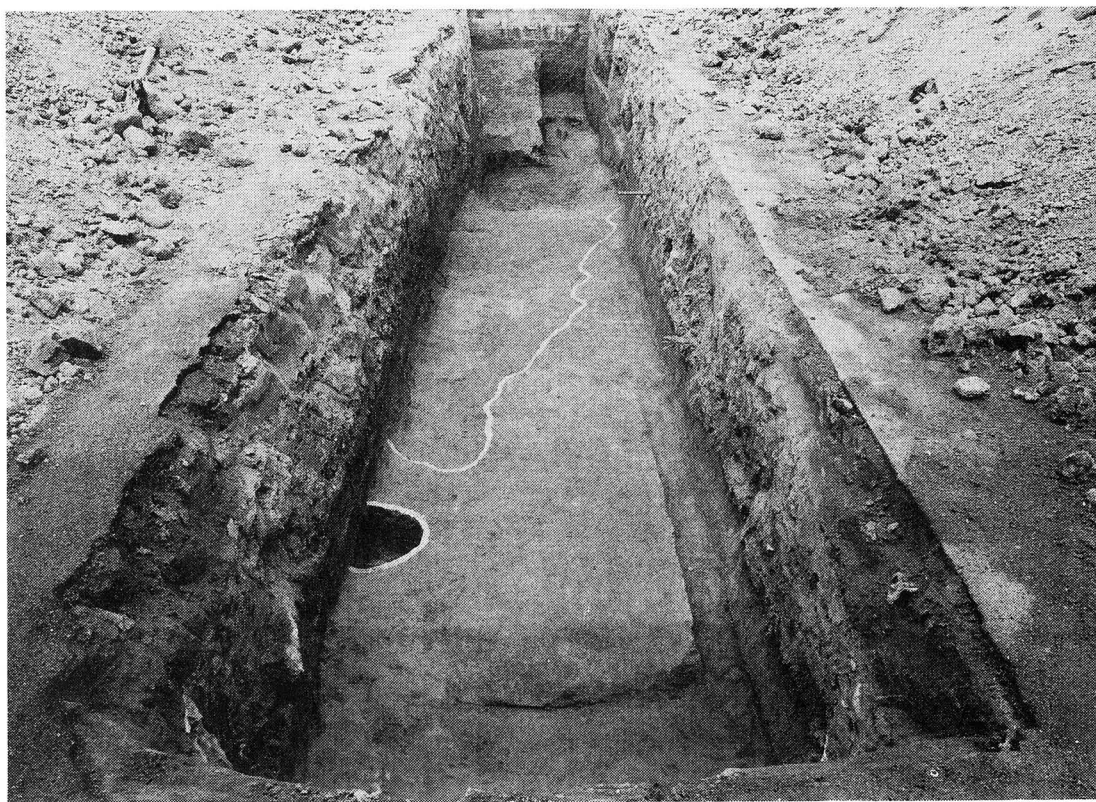
調査区全景（西から）



出土遺物



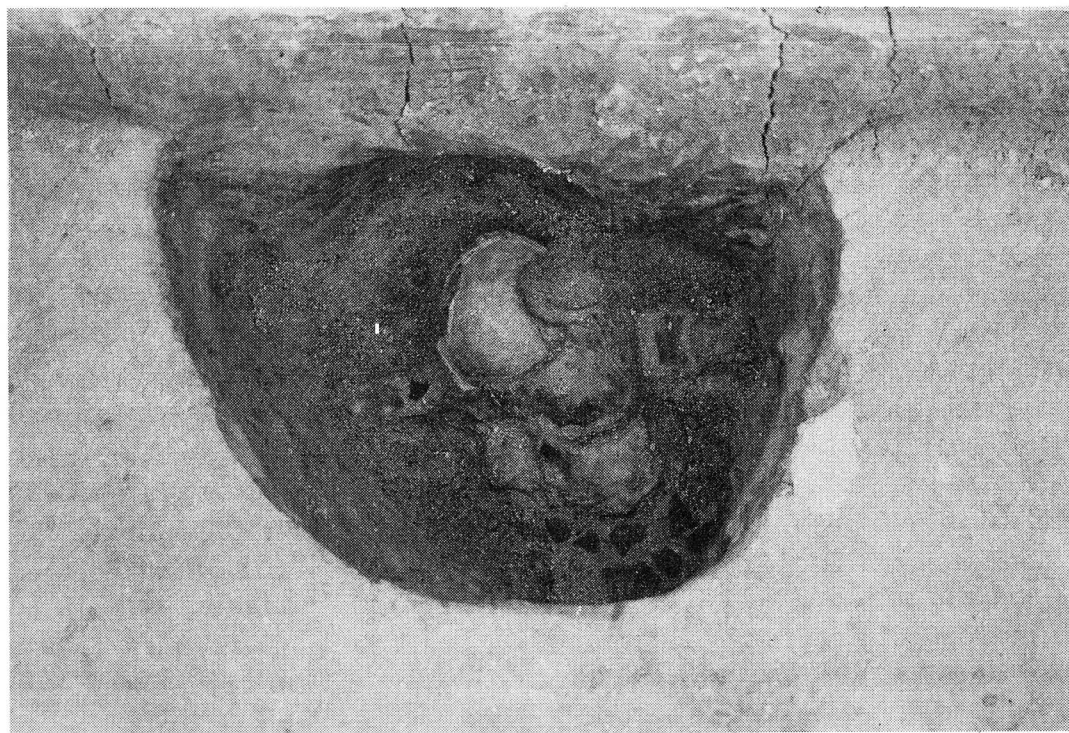
西トレンチ全景（北から）



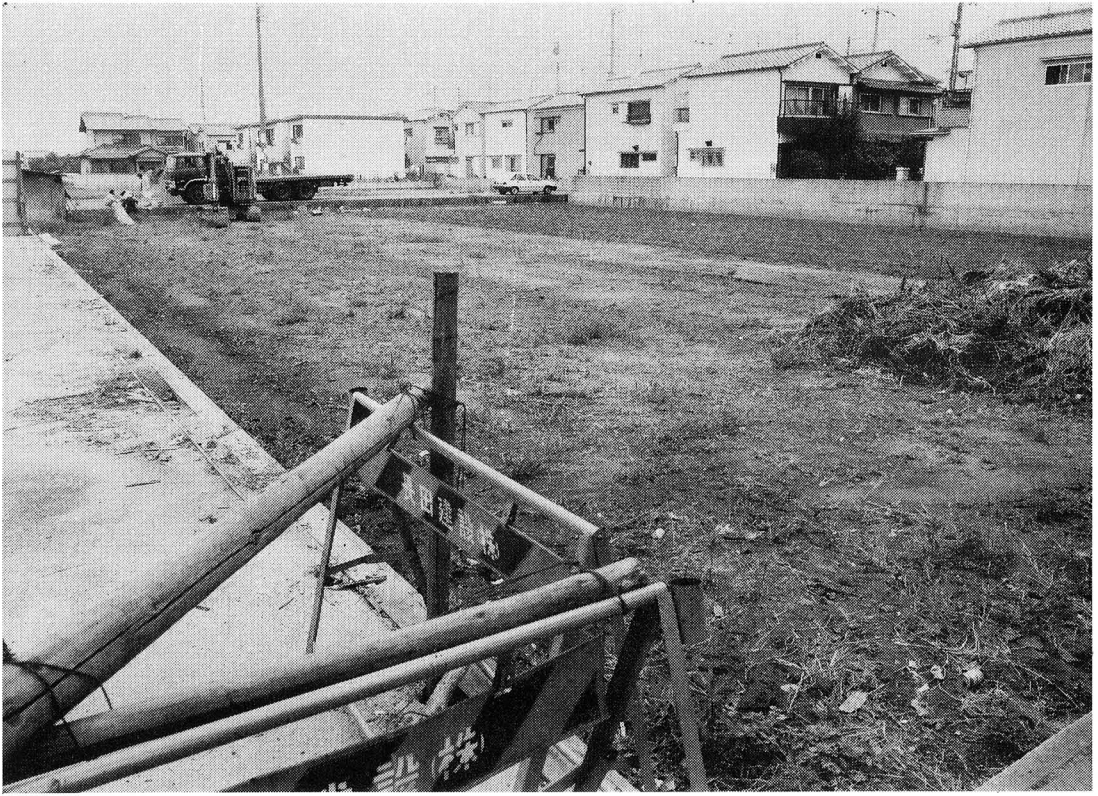
西トレンチ全景（南から）



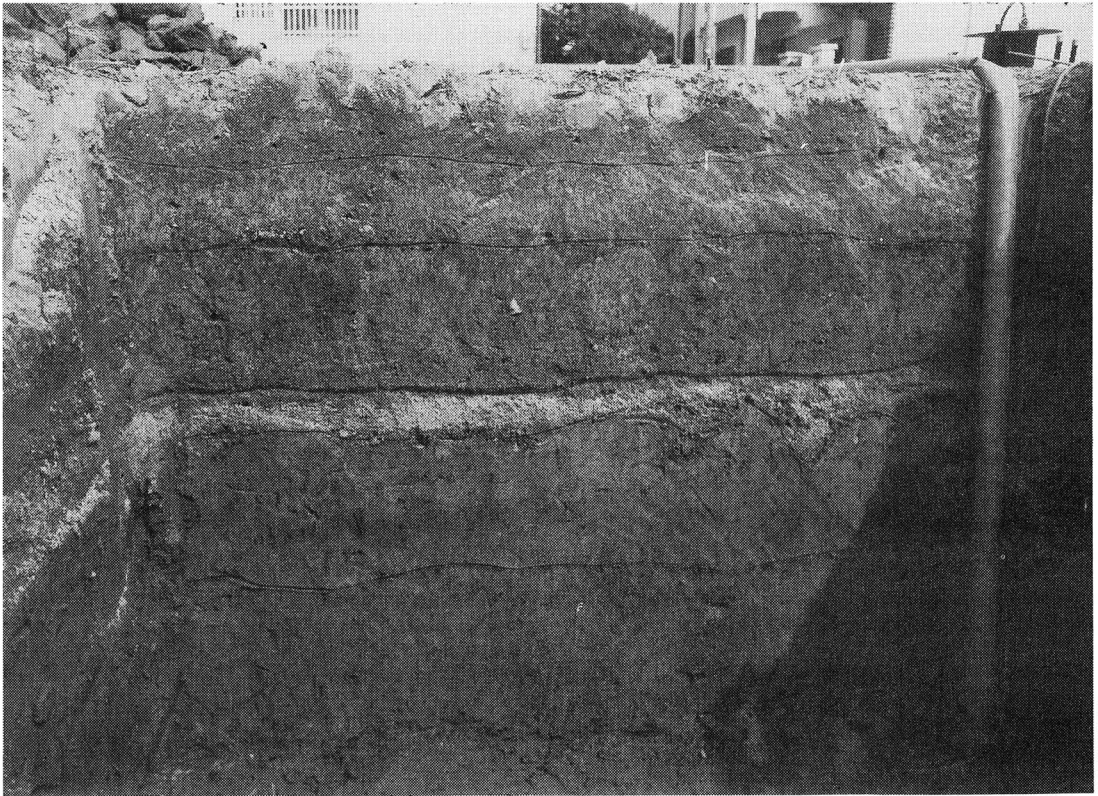
東トレンチ全景（北から）



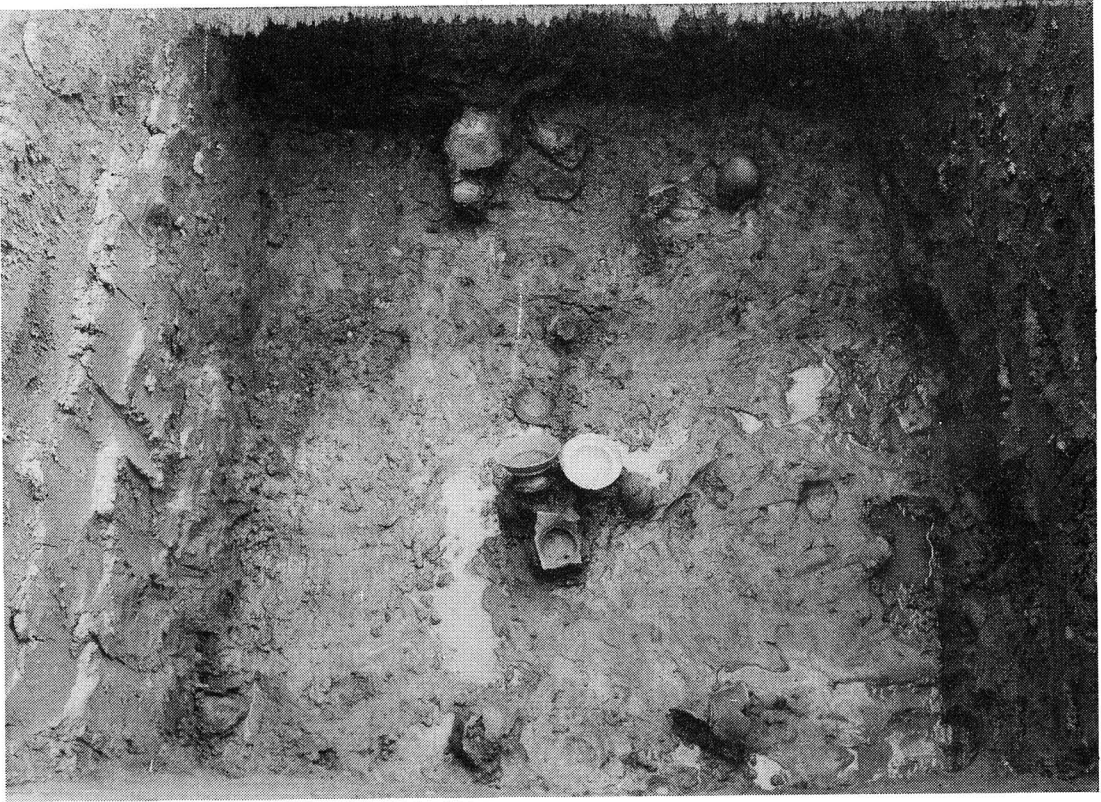
土坑全景（東から）



調査地調査前全景（南西から）



Hグリッド東壁（西から）



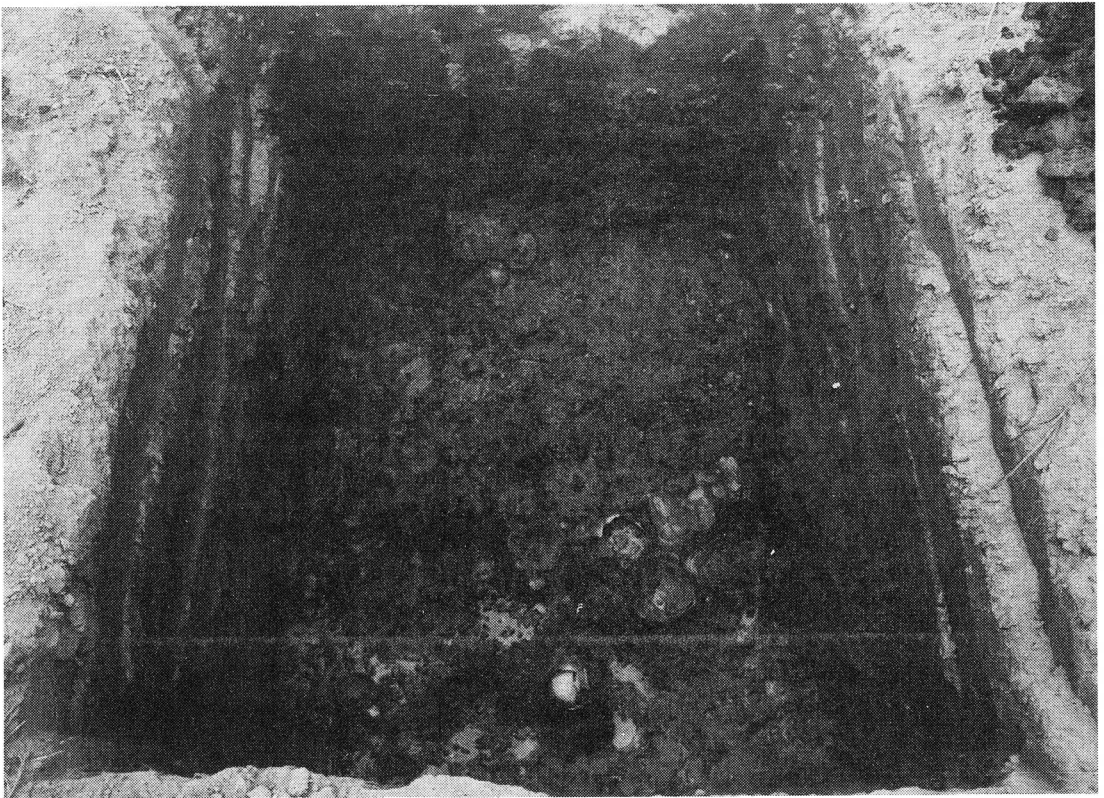
I グリッド土器出土状況 (西から)



I グリッド土器出土状況 (北から)



I グリッド土器出土状況（西から）



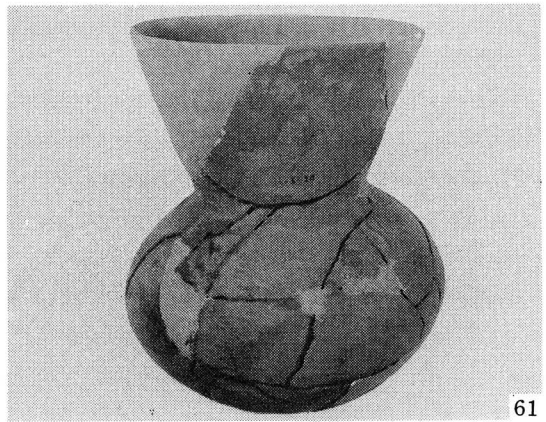
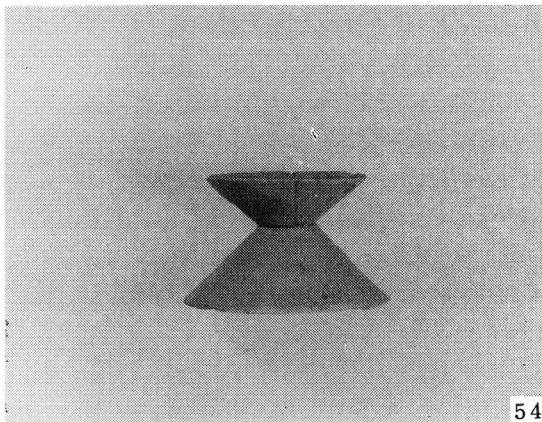
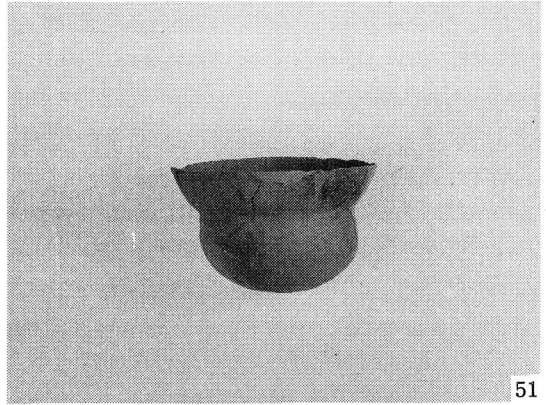
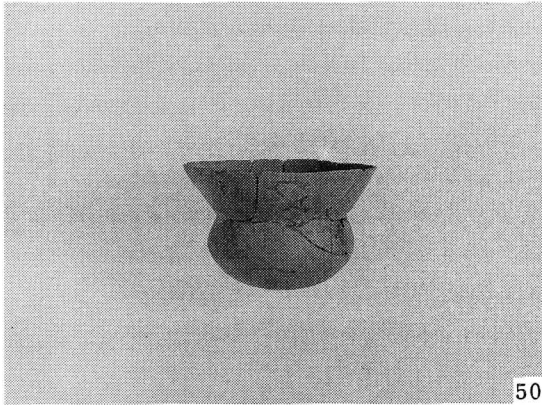
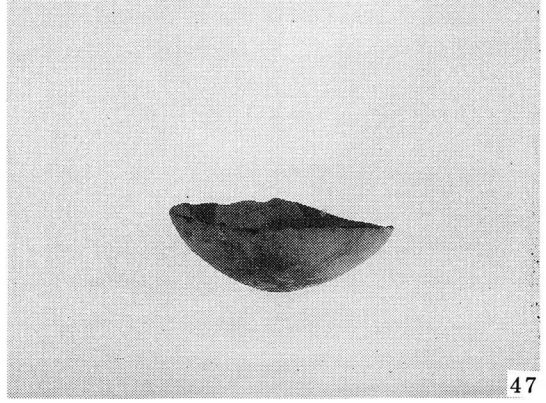
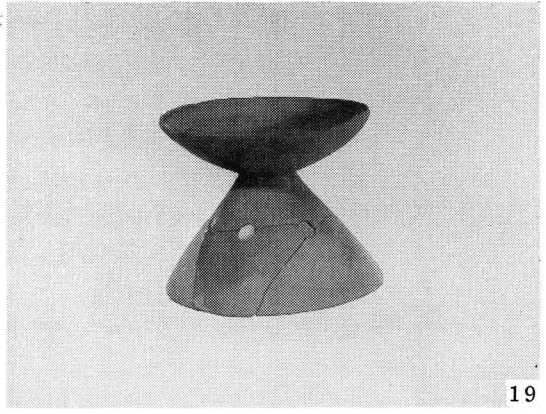
M グリッド土器出土状況（西から）



Mグリッド土器出土状況（東から）



Mグリッド土器出土状況（東から）





63



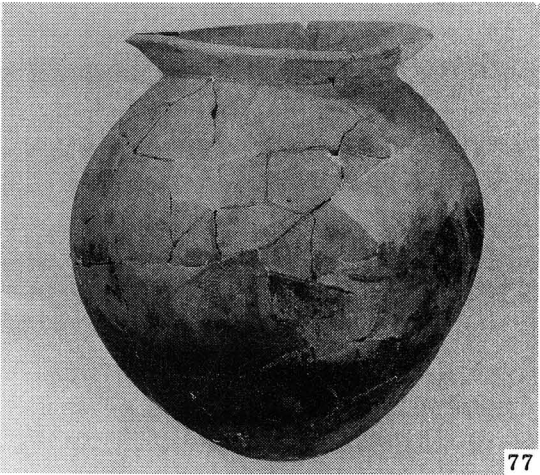
64



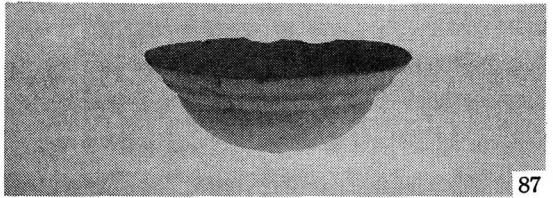
68



71



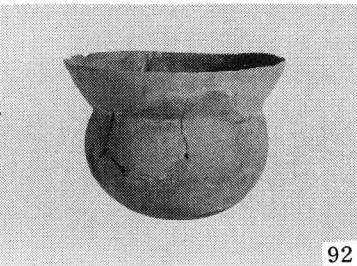
77



87



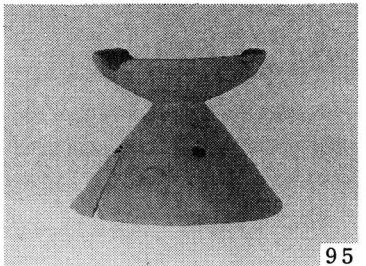
90



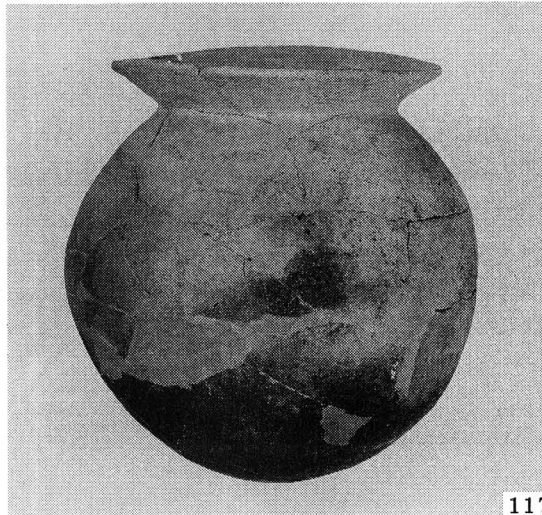
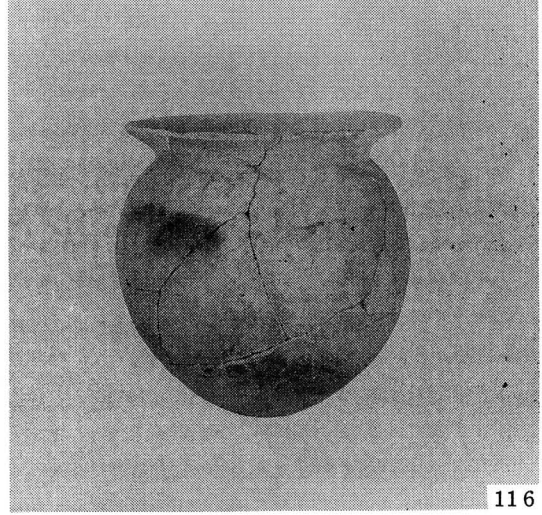
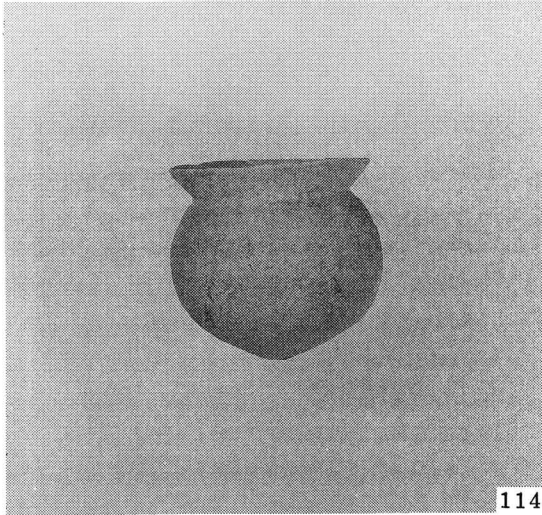
92

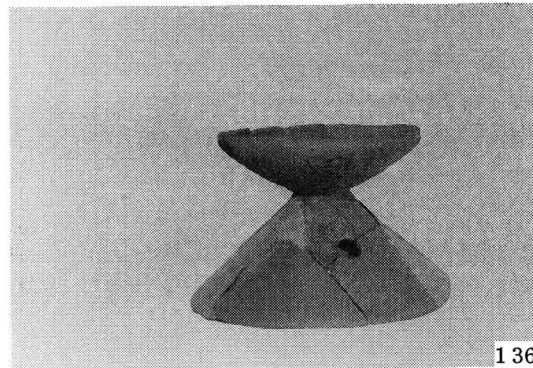
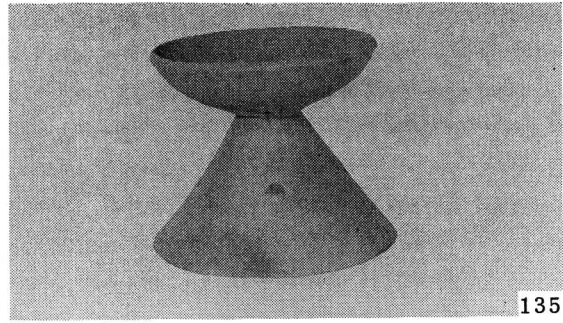
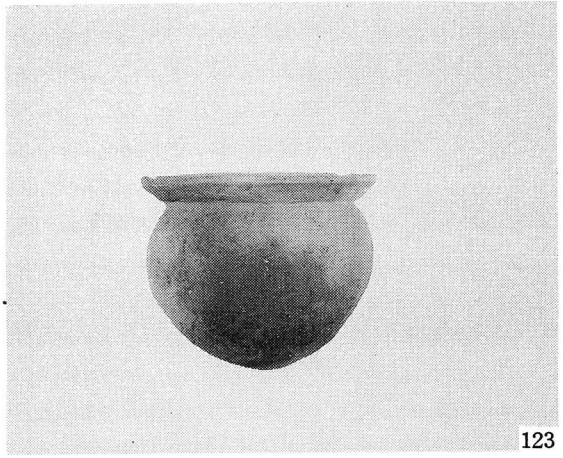


94



95



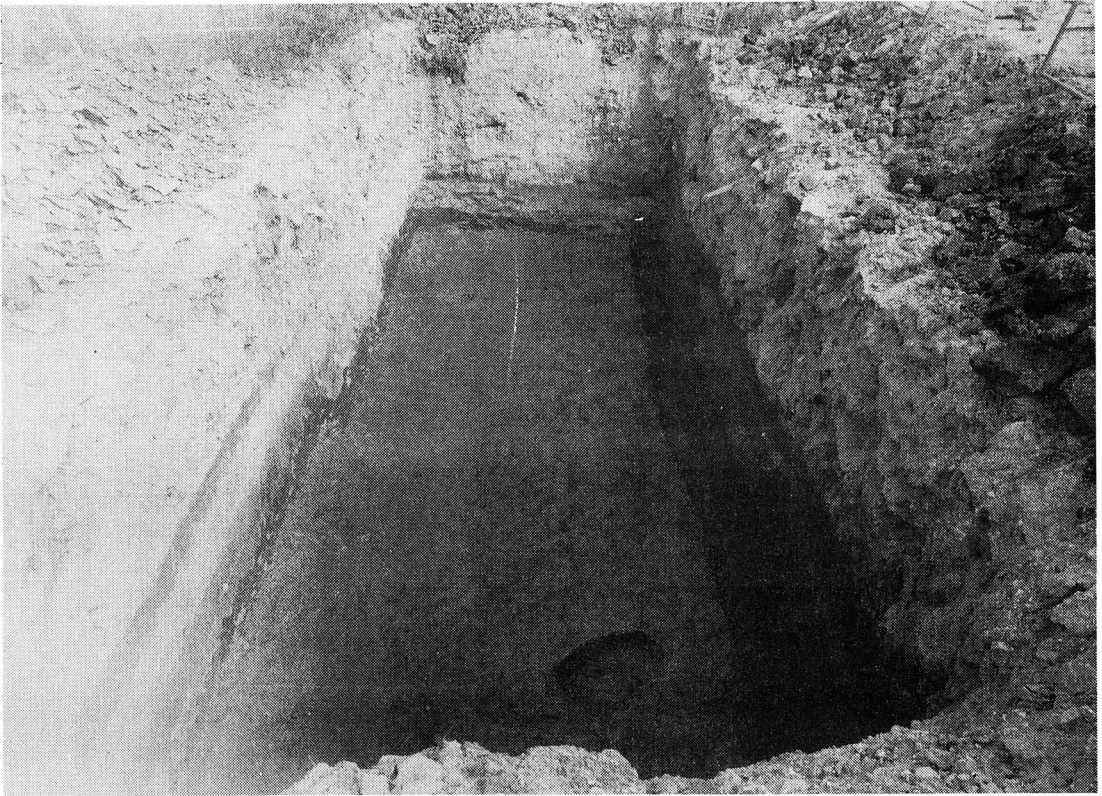




掘削状況（北西から）



南壁土層断面（北から）



完掘状況（西から）



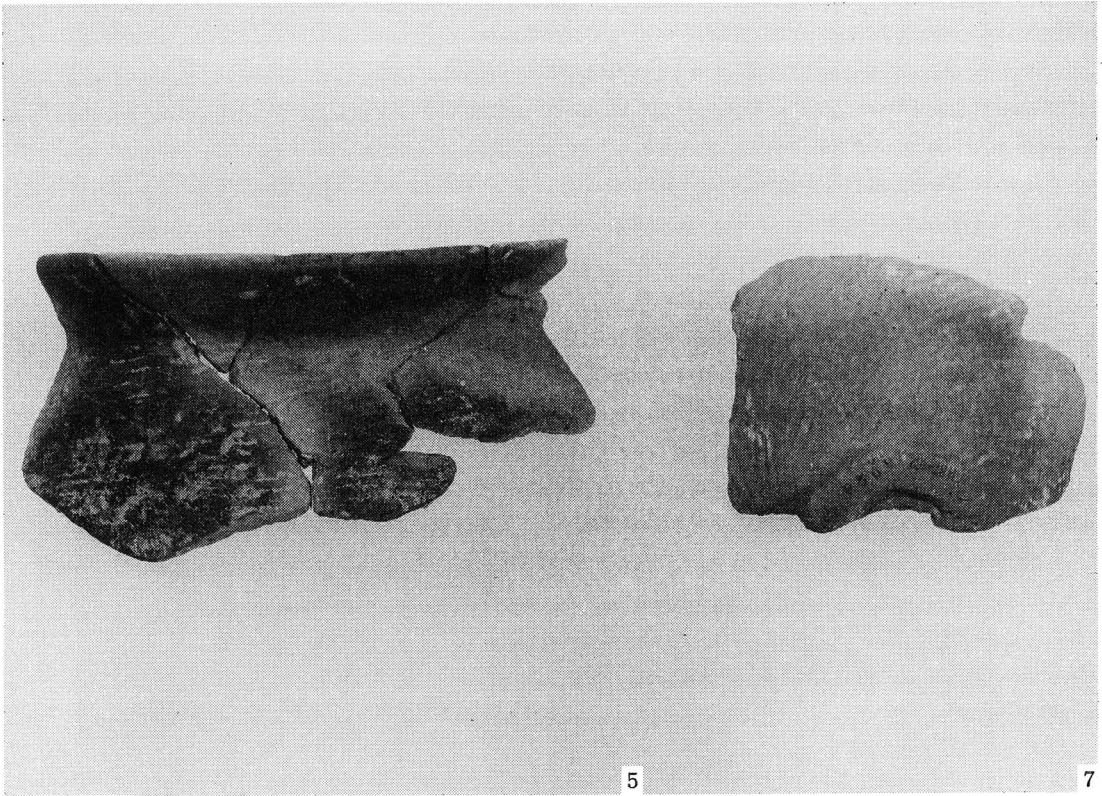
SP1 検出状況（西から）



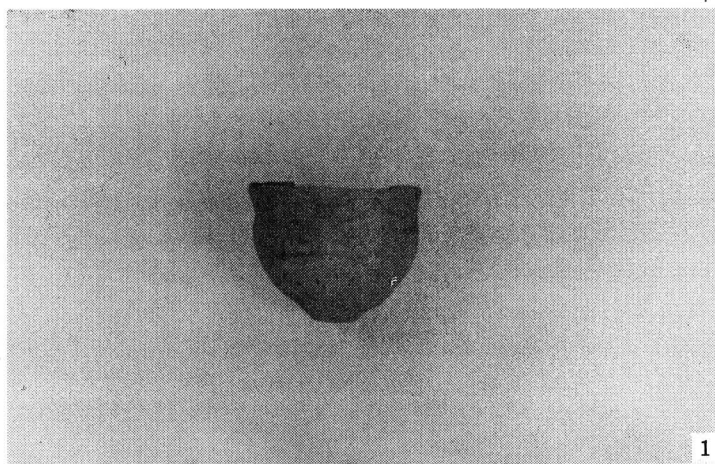
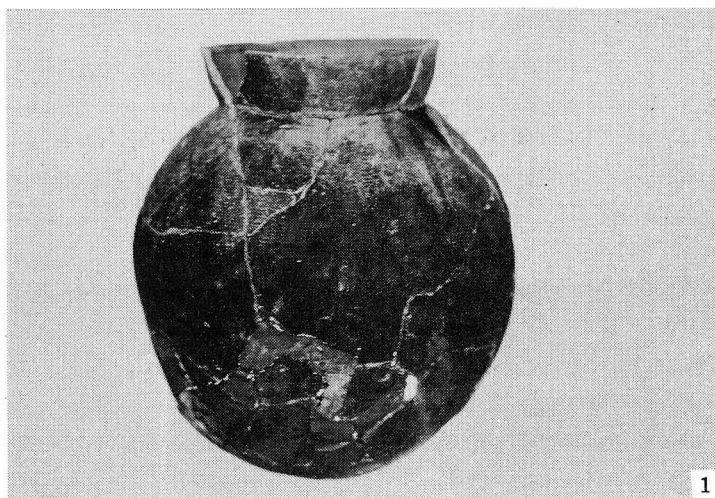
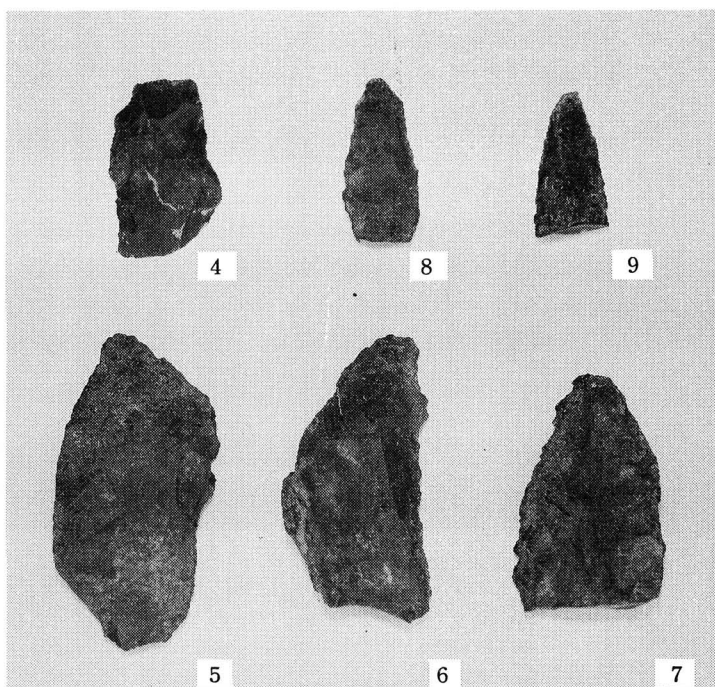
土器(3)出土状況（西から）



土器(6)出土状況（北から）



出土遺物



八尾市文化財調査報告17
昭和62年度国庫補助事業

八尾市内遺跡昭和62年度発掘調査報告書 I

発行日 1988年3月

発行所 八尾市教育委員会

